



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

令和7年度  
公共ホール音楽活性化事業  
報告書  
CONCERT&ACTIVITY

一般財団法人地域創造



## はじめに

---

一般財団法人地域創造では、地域における創造的な文化・芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、人財育成、情報提供、調査研究などの事業を実施しています。

これらの事業の一環として、地域創造では平成10年度から「公共ホール音楽活性化事業」（通称：おんかつ）を実施しています。

この事業は、全国オーディションで選ばれたクラシック音楽のアーティストと専門家のコーディネーターを公共ホールに派遣し、アーティストとホールが共同で企画した学校・福祉施設等での地域交流プログラムと、ホールでのコンサートを実施するものです。地域創造では、本事業を通じて、公共ホールの利活用やホールスタッフの企画・制作能力の向上、創造性豊かな地域づくりを支援しています。

この報告書は、全国10団体との共催により実施された令和7年度「公共ホール音楽活性化事業」の各地の取り組みを取りまとめたものです。報告書の中では、実施団体からの報告に加え、担当者の事業を実施しての成果や反省点・課題を掲載しています。また、各団体に派遣されたコーディネーターのレポートを掲載し、事業に関係して気付いた点や企画・制作のノウハウや事業を実施する過程において生じた様々な課題や問題点をケーススタディとして記録するように努めました。あわせて、令和7年度に岩手県で実施された「公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業」及び長崎市で実施された「公共ホール音楽活性化・地域人材育成事業」についても取りまとめています。

この報告書が公共ホールで自主事業に取り組む方の参考となり、企画・運営のお役に立てば幸いです。

終わりに、この事業を主体的、積極的に実施していただいた実施団体、各地域に寄り添ったプログラムを実施していただいたアーティスト、事業の実施にあたり貴重なアドバイスやご尽力をいただいたコーディネーター、一般社団法人日本クラシック音楽事業協会、その他多くの関係者の皆様方のご協力のもと、令和7年度の事業を終了することができましたことに対して、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

一般財団法人地域創造

---



# 目次

〈本文中の社名、所属、役職等は令和7年度のものです〉

## 第1部 令和7年度公共ホール音楽活性化事業 概要

実施概要	2
登録アーティスト／コーディネーター／実施団体	3
全体研修会実施概要	5
令和7年度公共ホール音楽活性化事業 事例紹介・レポート	
登米市（宮城県）	8
大石田町（山形県）	14
おおい町（福井県）	20
高山市（岐阜県）	26
藤枝市（静岡県）	31
阿久比町（愛知県）	37
鈴鹿市（三重県）	43
嬉野市（佐賀県）	47
知名町（鹿児島県）	52
宮古島市（沖縄県）	57
令和7年度公共ホール音楽活性化事業 コーディネーター・アドバイザーレポート	
赤木 舞（コーディネーター）	64
菊地 俊孝（コーディネーター）	66
桜井 しおり（コーディネーター）	68
佐藤 良子（コーディネーター）	70
多田 淳之介（コーディネーター）	72
三浦 幸恵（コーディネーター）	74
仕田 佳経（コーディネーター）	76
大澤 寅雄（アドバイザー）	78

## 第2部 令和7年度公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業

実施概要	82
令和7年度公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業 事例紹介	
奥州市（岩手県）	86
北上市（岩手県）	91
一関市（岩手県）	96
釜石市（岩手県）	99
西和賀町（岩手県）	103

---

第3部 令和7年度公共ホール音楽活性化・地域人材育成事業	
実施概要	108
令和7年度公共ホール音楽活性化・地域人材育成事業 事例紹介	
長崎市（長崎県）	113
令和7年度公共ホール音楽活性化・地域人材育成事業 レポート	
福田 修志（アドバイザー）	117
第4部 要綱集	
令和7年度公共ホール音楽活性化事業（導入プログラム）実施要綱	120
令和7年度公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業 実施要綱	124
令和7年度公共ホール音楽活性化・地域人材育成事業 実施要綱	132

---

**第1部**  
**令和7年度公共ホール**  
**音楽活性化事業(おんかつ)**  
**概要**

---

# 令和7年度公共ホール音楽活性化事業 実施概要

---

## 1 事業趣旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化と地域の音楽分における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホール職員等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、市町村等との共催により、公共ホールを拠点とした身近で親しみのあるクラシック音楽の公演事業及び地域交流プログラム等を実施する。

## 2 実施内容

- (1) 実施団体 全国10団体  
※地方公共団体または指定管理者等。原則として都道府県と政令指定都市及びそれらに関わる指定管理者は除く。
- (2) 研修事業 ①全体研修会  
令和7年4月21日（月）～23日（水）／一般財団法人地域創造、TOPPANホール  
開催地の公共ホール・企画担当者等を対象とした研修。  
②個別研修の実施  
広報を始める前の段階（公演2、3ヵ月前）に担当コーディネーターが現地での事前打ち合わせを行い、事業の円滑な実施のための助言を行った。
- (3) 公演事業 公演事業の実施（全国10地域） 令和7年11月～令和8年3月  
登録アーティストと共演者を数日間の日程で地域に派遣し、開催地の公共ホールとの共催でコンサートおよびアクティビティを実施した。  
① コンサート 身近で、親しみのあるクラシック演奏会  
② アクティビティ 出前コンサート、レクチャー、ワークショップ等地域との交流を図るプログラム

## 3 経費負担

一般財団法人地域創造と開催地の地方公共団体等との経費区分は下記の通りとした。

- (1) 一般社団法人地域創造が負担する主な経費  
①演奏家及びコーディネーターの派遣に係る経費  
（演奏家の出演料、交通費（現地移動費を除く）、宿泊費、日当、楽器運搬費、保険料（演奏家）、演奏家派遣に関するマネジメント料）  
②地域との交流を図るプログラムの実施に係る経費のうち10万円を負担
- (2) 開催地の地方公共団体等が負担する主な経費  
演奏家の派遣に係る経費以外に係る経費（現地移動費、舞台制作費、広報宣伝費、全体研修会への参加旅費など）

## 4 主催・共催等

- 主 催：開催地の地方公共団体等  
共 催：一般財団法人地域創造  
制作協力：一般社団法人日本クラシック音楽事業協会

# 令和7年度公共ホール音楽活性化事業 登録アーティスト／コーディネーター／実施団体

---

## 1 令和7・8年度登録アーティスト

三原 未紗子 (ピアノ) 新演コンサート／株式会社カモシタピアノ  
鈴木 舞 (ヴァイオリン) 株式会社ブルーシート  
北垣 彩 (チェロ) 株式会社パシフィック・コンサート・マネジメント  
山崎 由貴 (ユーフォニアム) 株式会社パシフィック・コンサート・マネジメント  
小野寺 光 (バス・バリトン) 公益財団法人日本オペラ振興会

## 2 コーディネーター

赤木 舞 (武蔵野音楽大学 准教授)  
菊地 俊孝 (一般財団法人日本民間公益活動連携機構 プログラム・オフィサー)  
桜井 しおり (一般社団法人IROHAMO おとみっくアーティスト・ディレクター、東京文化会館  
ワークショップ・リーダー)  
佐藤 良子 (静岡文化芸術大学 文化政策学部 准教授)  
多田 淳之介 (演出家、東京デスロック主宰、リージョナルシアター事業アドバイザー兼派遣ア  
ーティスト)  
三浦 幸恵 (公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場 事業企画課 (舞台制作担当))  
仕田 佳経 (一般財団法人地域創造 プロデューサー兼ディレクター)

## 3 サブコーディネーター

酒井 雅代 (東京藝術大学国際芸術創造研究科 博士課程／東京藝術大学キュレーション教育研究  
センター コーディネーター)  
田口 正夫 (公益財団法人西宮市文化振興財団 事業課 係長)  
古橋 果林 (音楽ワークショップ・リーダー／ファシリテーター、大阪音楽大学ミュージックコ  
ミュニケーション専攻助手)  
間杉 直子 (合同会社STUDIO SHOWBOAT代表 (プロデューサー、ドラマターグ))  
森永 南海子 (長崎県文化芸術コーディネーター (長崎県文化団体協議会))

## 4 アシスタント

加賀 茅捺 (公益財団法人豊橋文化振興財団 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 事業制作部)

## 5 研修スタッフ

石山 翔子 (公益財団法人名取市文化振興財団 事業企画係主査)

## 6 アドバイザー

大澤 寅雄 (合同会社文化commons研究所 代表・主任研究員)

## 7 実施団体

No	都道府県	市町村	実施団体	実施会場	実施日	アーティスト	コーディネーター
1	宮城県	登米市 (とめし)	公益財団法人登米文化振興財団	水の里ホール・Abebisou (登米祝祭劇場) 小ホール	令和7年12 月18日(木) ～20日(土)	山崎 由貴	桜井 しおり 間杉 直子
2	山形県	大石田町 (おおいしまち)	大石田町	大石田町町民交流 センター虹のプラザ なないろホール	令和8年1 月22日(木) ～24日(土)	山崎 由貴 小野寺 光	菊地 俊孝 古橋 果林
3	福井県	おおい町 (おおいちょう)	おおい町教育委員会	おおい町総合 町民福祉センター 大ホール	令和7年12 月18日(木) ～20日(土)	小野寺 光	仕田 佳経 石山 翔子
4	岐阜県	高山市 (たかやまし)	こくふコミュニティ施設 運営協議会	こくふ交流センター さくらホール	令和7年12 月5日(金) ～7日(日)	山崎 由貴	三浦 幸恵 間杉 直子
5	静岡県	藤枝市 (ふじえだし)	藤枝市民会館指定管理者 株式会社アス・藤枝オリコミ ピーアールグループ	藤枝市民会館	令和8年1 月29日(木) ～31日(土)	三原 未紗子	多田 淳之介 加賀 茅捺
6	愛知県	阿久比町 (あぐいちょう)	阿久比町	アグピアホール	令和7年11 月27日(木) ～29日(土)	小野寺 光	佐藤 良子 古橋 果林
7	三重県	鈴鹿市 (すずかし)	鈴鹿アートライフデザイン	ハヤシユナイテッド 文化ホール鈴鹿 けやきホール	令和8年3 月5日(木) ～7日(土)	北垣 彩	桜井 しおり 石山 翔子
8	佐賀県	嬉野市 (うれしのし)	株式会社佐賀広告センター	嬉野市社会文化会館 [リパティ]文化ホール	令和8年1 月15日(木) ～17日(土)	小野寺 光	仕田 佳経 森永 南海子
9	鹿児島県	知名町 (ちなちょう)	鹿児島県知名町	おきえらぶ文化ホール あしびの郷・ちな	令和8年2 月19日(木) ～21日(土)	北垣 彩 山崎 由貴	赤木 舞 田口 正夫
10	沖縄県	宮古島市 (みやこじまし)	宮古島市教育委員会	宮古島市文化ホール (マティダ市民劇場)	令和7年11 月14日(金) ～16日(日)	山崎 由貴	菊地 俊孝 加賀 茅捺

# 令和7年度公共ホール音楽活性化事業 全体研修会実施概要

## 1 概要

令和7年度の実施団体担当者を対象として、当事業の基本的な考え方、過去の事例紹介などのゼミを開催した。2日目には登録アーティストによる演奏とトークのプレゼンテーションと交流会を実施し、最終日はグループに分かれて企画検討会議及び発表を行った。

## 2 参加者

令和7年度事業実施団体 担当者

## 3 日程

令和7年4月21日（月）～23日（水）（3日間）

## 4 会場

4月21日（月）、22日（火）午前、23日（水）：一般財団法人地域創造 会議室  
4月22日（火）午後：TOPPANホール

## 5 実施団体研修スケジュール

4月21日（月）

時間	会場：地域創造 会議室
13:00～13:20	開講式・オリエンテーション
13:30～15:00	ワークショップ 多田淳之介
	休憩（10分）
15:10～16:10	ホールと地域の仲を取り持つ『おんかつ』 大澤寅雄
	休憩（5分）
16:15～17:00	“おんかつ”とは 仕田佳経
	休憩（10分）
17:10～17:40	事業概要・実務説明 地域創造
	休憩（10分）
17:50～18:50	グループワーク～今日のゼミを振り返って・地域資源の掘り起こし①～ 赤木舞、菊地俊孝、桜井しおり、佐藤良子、多田淳之介、三浦幸恵、仕田佳経

4月22日（火）

時間	会場：地域創造 会議室／トッパンホール
10：00～10：45	事例紹介～事業担当者編～ 天倉采雅（福島県西郷村）、桜井しおり
10：45～11：30	事例紹介～アーティスト編～ 塚越慎子（おんかつ支援アーティスト）、三浦幸恵
昼食休憩（60分）	
12：30～13：45	グループワーク～地域資源の掘り起こし②～ 赤木舞、菊地俊孝、桜井しおり、多田淳之介、三浦幸恵、仕田佳経
移動（75分）	
15：00～17：20	2025-2026年度登録アーティスト公開プレゼンテーション 三原未紗子（ピアノ） 北垣彩（チェロ） 山崎由貴（ユーフォニアム） 休憩（15分） 鈴木舞（ヴァイオリン） 小野寺光（バス・バリトン）
休憩（30分）	
17：45～19：15	交流会

4月23日（水）

時間	会場：地域創造 会議室
10：00～12：00	グループ別企画検討 赤木舞、菊地俊孝、桜井しおり、佐藤良子、多田淳之介、三浦幸恵、仕田佳経
昼食休憩（60分）	
13：00～15：00	企画発表～フィードバック 赤木舞、菊地俊孝、桜井しおり、佐藤良子、多田淳之介、三浦幸恵、仕田佳経
15：00～15：10	事務連絡
15：10	閉講式

**令和7年度公共ホール  
音楽活性化事業(おんかつ)  
事例紹介・レポート**

実施団体：公益財団法人登米文化振興財団

実施時期：令和7年12月18日（木）～令和7年12月20日（土）

出演アーティスト：山崎 由貴（ユーフォニアム） 大川 香織（ピアノ）

## アクティビティ

タイトル：ユーフォニアム ミニ見にコンサート

期 日：令和7年12月18日 11：15～12：00

会 場：登米市立北方小学校 音楽室

参加者：52名（5年生17名／6年生31名／教員4名）

金管バンドのクラブがある小学校で、高学年を対象とした音楽アウトリーチを実施した。参加者の3分の1近くがバンドメンバーで、ホースや漏斗を使い楽器の仕組みを解説・実演する場面では、これほど大きな音が出せるのかと驚いていた。

吹奏楽経験のある児童はもとより、初めてユーフォニアムに触れる子にとっても良い経験になったと感じている。



タイトル：ユーフォニアム ミニコンサート

期 日：令和7年12月18日 15：45～16：30

会 場：登米市立佐沼中学校 音楽室2

参加者：9名（吹奏楽部員6名／教員3名）

吹奏楽部の部員6名が対象のアウトリーチ。部員たちは間近で聴くプロの演奏に真剣に耳を傾けており、かなり濃密な時間となった。

また、今回は文化事業を理解していただくために市議会議員をアクティビティ先に招待する試みもしており、佐沼中学校では招待に応じた議員2名も見学した。



タイトル：ユーフォニアム ミニコンサート

期 日：令和7年12月19日 10：50～11：35

会 場：登米市立石越小学校 音楽室

参加者：60名（5年生28名／6年生29名／教員3名）

北方小学校と同じく吹奏楽活動が盛んな小学校で、高学年を対象にアウトリーチを実施。ユーフォニアムを担当している児童も参加し、終了後には山崎さんに質問する光景も見られた。

吹奏楽経験の有無に関わらず、子どもたちは音の大きさや演奏技術に感じ入っていた。



タイトル：ユーフォニアム ミニコンサート

期 日：令和7年12月19日 15：45～16：30

会 場：登米市立米山中学校 音楽室

参加者：19名（吹奏楽部員10名／剣道部員7名／教員2名）

吹奏楽部が対象のアウトリーチ。学校側の希望により、剣道部員も見学を訪れた。

部員数は少ないが生徒たちは意欲的で、中でもユーフォニアムを担当する男子生徒は音の大きさに圧倒されていたようだ。今後の活動に向けて良い刺激になったのではないかと感じている。

## コンサート

タイトル：親しみクラシック～山崎由貴ユーフォニアムの世界～

期 日：令和7年12月20日 14：00～15：30

会 場：水の里ホール・Abebisou（登米祝祭劇場）  
小ホール

参加者：70名

第1部は初心者向けに楽器の解説も交え、『愛のあいさつ』（エルガー）などクラシックの中でも聴き馴染みのある曲を中心としたプログラム構成。第2部では『ユーフォニアム協奏曲「皇帝」』（ケンツビッチ）といった、ユーフォニアムならではの専門的な曲を披露した。

山崎さんが奏でる柔らかく優しい音色や大川さんとの息の合った演奏は観客を魅了し、お二人の人柄もあって温かく和やかな雰囲気コンサートとなった。



### ① 応募の動機・事業のねらい

当法人ではプロの演奏家を招いてのクラシックコンサートを継続的に実施してきたが、コロナ禍から続く物価高騰などから助成を得なければ実現できない厳しい状況にある。地域におけるクラシック文化や吹奏楽文化を絶やさないためにも、コンサートを実現させたいと思い応募した。また、これを機に法人職員のノウハウを磨くこともねらいだった。

### ② 企画のポイント

ターゲット層をクラシック音楽の愛好家や、知識が無くとも興味を抱いている人々に絞り、演目には有名な楽曲と専門的な曲の両方を取り入れどちらの層も楽しめる内容にしていた。入場料も安価に設定し、コンサートが初めての方も敷居の高さを感じずに来場できるようにした。

アクティビティは市内の吹奏楽活動の隆興に繋げることを目的に、音楽活動が盛んな小中学校に設定した。

### ③ 企画実現にあたり苦勞（問題となった）した点

- ・アクティビティ先となる学校との調整は比較的スムーズにできたが、中には100人を超える全学年や全校生徒の参加を希望する学校もあった。
- ・ターゲット層に対して、コンサートをどう告知していくかに悩んだ。

### ④ 上記③をどのようにクリアしたか

- ・「小人数を対象とすることで演奏者をより間近に感じてもらう」などアウトリーチのねらいを担当の先生に繰り返し説明した。学校側としては多くの生徒に聴かせたいという思いがあり残念がっていたが、最終的にはご理解いただくことができた。
- ・市内の小中学校にポスター掲示を依頼し、中学校やアクティビティ先の小学校の全校生徒・高校の吹奏楽部にはチラシも配布してもらい、吹奏楽活動をしている生徒中心に告知をかけた。また、コンサート当日までに当劇場で開催された音楽イベントでチラシを配布し、市内の音楽愛好家に向けて告知した。

### ⑤ 事業を実施しての成果

アクティビティ先の生徒たちはプロの生演奏に触れるのは初めてという場合が多く、間近で聴く演奏に衝撃や感銘を受けている様子だった。特に吹奏楽部の生徒など、音楽活動をしている子どもたちにとってはモチベーションを高めるたいへん良い機会になったのではないかと感じている。

コンサートの来場者はクラシック鑑賞の経験がある方と無い方が半々だったが、どちらの層からも好評の声をいただいた。チラシなどの広報物を見て初めてコンサートに来たという方も複数おり、音楽に対する地域住民の潜在的な関心の高さが窺えた。

### ⑥ 事業を実施しての反省点・課題

- ・中学校では吹奏楽部員の他にも見学希望者を入れる計画があったが、締切後に学校から希望者の報告があり、当日まで人数が確定しない事があった。学校の先生とは授業などで連絡が取れないこともしばしばあったが、もっと密に連携を取ればよかったと感じた。
- ・事業が動き出した後から、同日に地元のジュニア吹奏楽団の商業施設でのイベント出演が決定したこ

---

ともあり、当初見込んでいた吹奏楽関係者の入りが期待ほどは伸びなかった。やむをえない事態はあるにしても最善のスケジュールが組めるよう事前の情報収集に努め、ターゲット層へのアプローチの仕方ももっと工夫していきたい。

- ・カゲアナで注意喚起したが、公演中に来場者のスマートフォンが鳴ってしまった。カゲアナ原稿の見直しやプログラムにも注意文を載せるなど、対策を強化していきたい。

⑦ 今回の事業を通じて、自身の「町」または「ホール」について改めて考えたこと

コンサート、アクティビティともに好評で、「今後もこのような（クラシックの）コンサートをしてほしい」という意見を複数いただいた。市民の中には文化芸術を切望する思いが確かにあると実感するとともに、文化施設の管理者として市民に芸術鑑賞の場を提供していく使命を肌で感じた事業だった。ただイベントを実施するのではなく、企画の段階でコンセプトやターゲット層を具体化し、外部の組織にも積極的に働きかけていく姿勢を心がけていきたい。

#### <初めに>

総人口約68,990人の宮城県登米市にある水の里ホール・Abebisou（登米祝祭劇場）は公益財団法人登米文化振興財団によって運営されている、硬質で美しい外観を持つホールである。中に入ると多くのコンサートのポスターで埋め尽くされており、これまでも様々な事業をやってきたであろう事が推察される。実際今回のおんかつのコンサートもこれまでホールが主催してきた「親しみクラシックシリーズ」の位置付けで開催される。

今回のアーティストは4月の研修会で担当がその演奏に惚れ込んだユーフォニアムの山崎由貴、ピアノ伴奏は大川香織である。

#### <アクティビティ>

アクティビティはいずれも小中学校である。1日目は北方小学校、及び佐沼中学校吹奏楽部、2日目は石越小学校、米山中学校吹奏楽部。小学校でも金管バンドに入ってる子どもが多く、そういった子達は中学に入っても音楽を続ける事が多いそうだ。小学校における音楽教育、楽器と触れる機会が如何に大切かを感じさせられる。アクティビティ内容としては前回担当した高山市のアクティビティの流れを踏襲しつつ、主にユーフォニアムの語源や仕組みの説明、楽器と同じ長さのホースにマウスピースと漏瑚をつけて「にじ」の演奏、日本の四季メドレー、いのちのうた、Song for Ina、パントマイム、さくらのうた、春の歌、フニクリ・フニクラによる変奏曲等である。小学校ではクイズをしたり、リクエストに応じてアニメの歌などを吹いたりしながら、最終的に「将来の夢」をテーマにMCを膨らませて、すぐに中学校に上がる子ども達の不安にんでいた。一方中学校はいずれも人数の少ない吹奏楽部である。なかなかプロの演奏に触れ話す機会もない状態である。その中でアーティストは自分の経験値からプロがどういう精神性で毎日の練習をするのか、今中学校で練習していることはプロがやっている練習と地続きであることを説き、中学生たちに一つの指針を与えたようである。

#### <コンサート>

アーティストが提出してきた曲目ではホールからリクエストされていた上演時間90分を大幅に超過すると気付いたのは、現地入り初日だった。曲目は以下である。

M1 愛のあいさつ、M2 にじ、M3「ナポリ」フニクリ・フニクラによる変奏曲、M4 誰も寝てはならぬ、M5 チャルダッシュ、M6 さくらのうた、M7 パントマイム、M8 3つのロマンスより2、3楽章、M9 ユーフォニアム協奏曲「皇帝」、M10 いのちのうた

MC等を大幅に削るシミュレーション等を行ってみたものの、実際の本番は長くなり、結果本番の休憩中にM8 3つのロマンスより2、3楽章のうち3楽章を削るとアーティストが決めて、何とか上演時間内に収める事が出来た。コンサートの時間をどこまで延ばしていいか、という議論ではおそらくコンサートの数だけ正解があり、もっとたっぷり聴きたかった人もいれば、時間通りに終わらないと困る人もいる。しかし、やはり主催の希望する上演時間内に終わらせることを目指すのが第一ではないだろうか。上演中の咄嗟の判断にしても、アーティストの決断は英断だったと思う。

客席は年齢層が高めの男女が特によく見受けられ、またコンサートが友人と外出するきっかけになっていることを心から楽しんでいるようだった。またアクティビティの子ども達も客席によく見かける事ができた。

終演後のアンケートの回収率もよく、内容を閲覧したが、非常に好評であった。ユーフォニアムをやっている人、辞めてしまった人、クラシックが好きの人それぞれから熱量の高いコメントと再演の希望が

---

多く記入されていた。「皇帝」など大曲もありつつ、客席が最後まで集中力高く聴けたのは、アーティストの実力もさながら、これまでホールと地域でクラシックコンサート事業を継続し、またクラシック音楽の文化を下支えしてきた成果でもあるのではないだろうか。

#### <終わりに>

登米市自体が子どもから大人までクラシックを好きな人、何度もクラシックコンサートを聴いた事がある人、楽器を演奏したことある人、といういわゆる関係人口が多い街なのではないかと思う。学校の話やアンケートを見るに、これは多世代にわたる音楽教育の積み重ねと思われる。この高い需要に応えるべく、今後もホールには事業を継続していただきたい。

また今回山崎由貴さんのおんかつを担当するのは2回目だった。前回から約1週間とほぼ間を空けない形ではあったが、対象者に合わせて伝えるべきを伝え聴かせるべきを聴かせたアクティビティとコンサートだったと思う。相手のリクエストに応じて柔軟にプログラムを組む山崎さんだが、より己の持ち味を活かした己が魅せたい方向性でのアクティビティづくりにも期待したい。

**実施団体：大石田町**

**実施時期：令和8年1月22日（木）～令和8年1月24日（土）**

**出演アーティスト：小野寺 光（バス・バリトン） 山崎 由貴（ユーフォニアム） 田中 梨央（ピアノ）**

## アクティビティ

**タイトル：ユーフォニアムとバス・バリトンのわくわくコンサート**

**期 日：令和8年1月22日 10：30～11：20**

**会 場：大石田中学校 音楽室**

**参加者：2年生 35名**

はじめはピアノの田中さんのみ登場し演奏を始めた。一瞬どんな演奏会なんだろう？という生徒たちの緊張を感じたが、それもほんの一瞬であった。お二人が親しみやすい雰囲気を作ってくださったり、また、ソロ曲の演奏中には生徒の横に座って演奏を聞いてくださるなどアクティビティの随所に工夫をちりばめ、アクティビティが進むにつれて距離が縮まっていった。音楽の魅力を伝えることから、徐々にお二人の人生や夢についてのお話へ意向し、音楽と言葉の両方からメッセージが届けられた。素晴らしい演奏に相まって、お二人のお人柄や歩まれた人生が様々なメッセージとなって生徒たちや先生方の心に届いた、非常に思いの深い事業となったと感じている。



**タイトル：ユーフォニアムとバス・バリトンのデュオコンサート**

**期 日：令和8年1月22日 14：30～15：30**

**会 場：特別養護老人ホーム 仁風荘 ひろば**

**参加者：入居者、デイサービス利用者、職員50名**

コロナ以降演奏会をできていなかった特別養護老人ホームでの実施で、とても楽しみに待ってくださっているようだった。介護度はそれぞれで、寝たきりの方から意思疎通のできる方まで様々であった。お話を交えながら、聴き馴染みのある曲からオペラまで演奏していただき、体を揺らしながら演奏を聴いている方もいらっしやう。介護度など聴き手の限界を決めてしまいがちだが、音楽の力を信じ演奏を届けることの大切さを知った。



**タイトル：ユーフォニアムとバス・バリトンのわくわくコンサート**

**期 日：令和8年1月23日 10：00～10：45**

**会 場：ふたば保育園 お遊戯室**

**参加者：ふたば保育園全園児、大石田保育園3歳児以上 100名**

町内にはふたば保育園と大石田保育園の2つの保育園があるが、この度はふたば保育園のお遊戯室に大石田保育園の園児が出向く合同のアクティビティとなった。どちらかの園に出向いて活動することは今迄なかったそうで、初めての試みであった。田中さんのピアノ演奏から始まり次々に山崎さんと小野寺さんが登場すると、子どもたちは驚いた目をしていました。小野寺さんのパンフルートが何の音に聞こえる？という問いかけや、山崎さんのホースを使ったアクティビティにも驚き楽しんでいる様子であった。演奏会の最後には先生方も子どもたちもすっかりアーティストのファンになっていた。



タイトル：ユーフォニアムとバス・バリトンのコンサート

期 日：令和8年1月23日 14：30～15：30

会 場：特別養護老人ホーム ソーレ大石田 生活スペース

参加者：利用者、職員 35名

ソーレ大石田は町民に特化した介護老人ホームである。町で生まれ育ち、もしかするとホールに来たことがないかというような方々であった。「川の流れるように」や「星紡ぎの歌」など、演奏が始まると一緒に歌いだすおばあちゃんや、手が動き出す寝たきりのおじいちゃんがいて、音楽の力を感じたアクティビティであった。



## コンサート

タイトル：バス・バリトン×ユーフォニアム デュオコンサート  
ふるさと～虹のプラザからあなたへ～

期 日：令和8年1月24日 14：00～15：30

会 場：大石田町町民交流センター 虹のプラザ  
なないろホール

入場者数：100名

町に特化した企画により、幅広い年齢の方にクラシックコンサートと虹のプラザを身近に感じてもらうことを目的とした構成。公演は2部構成で、第1部は親しみやすいクラシックから本格的な作品まで演奏していただき、音楽の魅力を伝えられたと思う。第2部では、町ならではの企画として町の写真と演奏を組み合わせ、「過去」「風景」「現在」と3つのテーマで演奏・映写を実施した。町の歴史や情景を音楽とともに振り返る、あたたかな雰囲気にもまれた公演となった。



① 応募の動機・事業のねらい

これまで、自主事業としてアウトリーチを実施した実績がなかった。本事業ではノウハウ習得の支援も受けることができると知り応募した。また、地域性を大切にしたいバリエーションのある企画を行うための職員のスキルアップの機会を得たいと考えた。

また、生涯学習や文化芸術の分野は、その価値や成果をデータとして可視化することが難しい領域であるのではないかと思う一方で、だからこそ町の行政と関わっていくか、どのように説得力を持っていくのかなどを学びたいと考えた。事業がお楽しみだけで終わることなく、もう一步踏み込んだものにするためにはどのようなアプローチが必要なのかということを知りたいと思った。

② 企画のポイント

- ・アクティビティでは、どの会場でも対象者だけでなく、その周りの先生や職員の方にも「やってよかったな」と思ってもらえることを意識しながら関わっていた。
- ・公演では、クラシックになじみのない方にも来ていただけるよう、敷居が高く感じられないようなコンセプトにしたいと考えていたところ、事前研修で今回の出演者お二人の演奏を聴き、テーマを「ふるさと」とすることに決めた。
- ・「ふるさと」をテーマとする写真と生演奏の組み合わせにより、町の魅力や思い出の共有を五感で体感できる演奏会。さらに演奏会最後に「ふるさと」の合唱により、テーマに一層近づけた。

③ 企画実現にあたり苦勞（問題となった）した点

- ・クラシックコンサートに足を運ぶ経験が少ない方が多いため集客に苦勞した。
- ・1月末開催と大雪の時期で外に出るのが大変な時期、雪かきで忙しい時期であったことも集客の苦勞につながったと考える。
- ・企画自体はとてもいいテーマで考案できたと思うが、町民へその思いをつたえるのが難しかった。
- ・演奏と映写を組み合わせた時の舞台位置等の調整。

④ 上記③をどのようにクリアしたか

- ・開催が冬なので、ある程度集客に苦勞する点は予想されていた。今迄実施してみたいと思っていた来場者専用送迎バス「虹プラ号」を実施してみたが、利用者はおらず効果的でないのかもしれないということがわかった。
- ・アクティビティ先で確実にアーティストのファンが増えていることがわかり、アクティビティ先へ招待券を配った。
- ・舞台位置の調整については予め現地にいる職員や舞台スタッフで実験することで、雰囲気や壊さず写真に集中でき、なおかつ出演者にもスポットがあたる配置に調整することができた。また、予めコーディネーターさんと進行状況について情報共有できていたため、現地に到着されてからの調整もスムーズであったと思う。

⑤ 事業を実施しての成果

アクティビティでもコンサートでも、それぞれの対象者、企画のコンセプトや狙いを明確にしアプローチすることの大切さを学んだ。テーマが明確であることが聴き手の安心につながり、事業自体がより深いものになったと感じている。また、アクティビティ先の職員の方、来場者の皆さんからもまた来てほ

---

しい、感動したとの声をたくさんいただき、確実に次につながる事業になったと手ごたえを感じている。

⑥ 事業を実施しての反省点・課題

一番悔しいのは集客についてである。テーマを「ふるさと」と設定したものの、クラシックの敷居は高いという先入観をぬぐいきることができなかったように思う。

今後自分たちでも事業を実施していきたいと考えているが、人事異動等によりノウハウが継承されないことはやはり課題であるため、なるべく早く今回のような事業を事業の一つとして組み込むための土台作りが必要だと考える。また、本事業は参加者の満足度や反応からの成果がうかがえるものの、効果を客観的に示す数値データまで採取することができなかった。参加前後の意識変化や学習成果を測定する指標、分析方法の統一など、成果を可視化し継続的な実施と改善につなげる仕組み作りが必要だと考える。

⑦ 今回の事業を通じて、自身の「町」または「ホール」について改めて考えたこと

アクティビティにより町の様々なところで、いろいろな人の心が動き、感動が伝わっていく。今回の事業を通して、担当者である私も町の魅力、人の魅力を改めて感じることもできた。関わってくださった多くの方々があたたかい気持ちでこの事業を終えることができたのは、共に駆け抜けてくださった菊地さん・古橋さん・金山さんがいたからだと思う。地域の皆さんのときめきや心の癒しの一助となれるよう、ホールがいこいの場でいられるように、これからもホールの可能性を探っていきたい。

山形県大石田町は県北部に位置する人口約6,000人の町であり、最上川舟運の歴史とともに発展してきた地域である。俳人・松尾芭蕉ゆかりの地としても知られ、豪雪地帯ならではの厳しい自然環境の中で独自の文化と暮らしが育まれてきた。一方で、人口減少と高齢化が進む中、子育て・教育施策にも力を入れながら地域の持続可能性を模索している。今回のおんかつの拠点となったのは、大石田町町民交流センター虹のプラザである。この施設は町民の交流拠点として多様な事業を展開する複合施設であり、文化芸術活動の拠点としての役割も担っている。

担当者は大石田町町民交流センターの冨澤さん。音楽への関心が高く、若手ながらも熱意と豊富なアイデアを持ち、今回のおんかつに対しても主体的かつ積極的に取り組む姿勢が印象的であった。

選出されたアーティストは、バス・バリトンの小野寺光さんとユーフォニアムの山崎由貴さん。バス・バリトンとユーフォニアムという異色の編成は、冨澤さんの強い希望によって実現したものであり、両アーティストとも単独でのおんかつの経験はあるものの、デュオとしての共演は初めての試みであった。冨澤さんはプレゼンテーションでの演奏およびアーティストの人柄に強く感銘を受け、「ぜひこの二人に来てほしい」という明確な意志のもと二人を選定した。

アクティビティは、大石田中学校、特別養護老人ホーム仁風荘、ふたば保育園、地域密着型特別養護老人ホームソール大石田で実施した。対象は中学生、乳幼児、高齢者と幅広く、アーティスト2名がデュオとして初共演であったこともあり、対象ごとに適したプログラム構成を模索する必要があった。アーティストはそれぞれの対象に合わせた内容を構成し、バス・バリトンとユーフォニアムそれぞれの魅力を伝えながら、音楽の多様な楽しみ方を提示するプログラムを実施した。

アクティビティを重ねる中で、2人の息が徐々に合っていく過程が見られた。前日入り時のランスルーでは互いに遠慮する様子も見られたが、短期間で互いの個性や強みを理解し、それを引き出し合う関係性を築いていった点は特筆すべきで、アーティスト自身も強い手応えを感じている様子であった。一方で、中学生、乳幼児、高齢者と対象による反応の違いは大きく、特に高齢者施設におけるプログラムの在り方については最後まで試行錯誤が続いた。冨澤さん自身も高齢者施設でのアウトリーチは初の試みであり、今回のおんかつを通して経験を蓄積したいという意図があった。

本公演は1月24日に虹のプラザにて、「バス・バリトン×ユーフォニアム デュオコンサート『ふるさと〜虹のプラザからあなたへ〜』」として開催された。滞在期間中は豪雪に見舞われ、集客減の懸念もあったが、アクティビティ先の関係者や参加者を含め多くの来場者が訪れ、家族連れから高齢者まで幅広い層が参加した。プログラムはアクティビティでの経験を基盤に構成され、トークを交えながらバス・バリトンとユーフォニアムの魅力を存分に伝える内容となった。コンサートの第二部では冨澤さんの発案により、地元のフォトコンテストから着想を得た大石田町の風景や人々の写真スライドショーを音楽とともに上映し、地域の記憶と音楽を重ね合わせる演出が行われた。また、アンコールでは地元合唱団が客席二階席から歌唱に加わり、会場全体で「ふるさと」を合唱する場面が生まれた。地域住民とアーティストが同じ空間で歌声を共有する瞬間は、お客さんだけでなく大石田町でのおんかつに関わる多くの人に、事業の意義を感じさせるものであった。

今回のおんかつについて記す際に特筆すべきは、担当者冨澤さんの主体性と企画力である。デュオ編成の提案、スライドショー演出、地域合唱団との連携など、明確なビジョンを持ち周囲を巻き込みながら企画を実現していった。また、実施期間中にホールの他スタッフがインフルエンザにより欠席するという困難な状況下においても、関係者を巻き込みながら事業を推進し、それが今回のおんかつの成功へ導いたと言えるだろう。

一方で、本事業は異なる対象層に向けたプログラム設計の難しさや、高齢者施設におけるアクティビ

---

ティの在り方など、今後の検討課題も示した。しかし、デュオ初共演という挑戦的な試みと、若手担当者による主体的な事業推進は、地域における文化芸術事業の可能性を示す重要な実践となったと考えられる。今回の大石田町でのおんかつ実施が、今後の文化芸術活動の発展に繋がり、地域の人々の生活に根ざした文化的営みとして育っていくことを期待したい。

実施団体：おおい町教育委員会

実施時期：令和7年12月18日（木）～令和7年12月20日（土）

出演アーティスト：小野寺 光（バス・バリトン） 林 直樹（ピアノ）

## アクティビティ

タイトル：体験して学ぶアウトリーチ研修

期 日：令和7年12月18日 11：00～11：45

会 場：総合町民センター 大ホール

参加者：9名（教育長、校長先生6名、職員2名）

次年度以降は町内の学校へアーティストを派遣する取り組みを本格化させる予定であり、今年度はその準備段階として、小・中学校の校長先生を対象に、小学校高学年向けアウトリーチプログラムを実施した。初めは参加者の反応がやや控えめであったが、アーティストの働きかけにより、プログラムが進むにつれて会場の雰囲気が和らぎ、発言や反応も徐々に活発になっていった。終了後には「すごいね」といった前向きな感想が寄せられ、アーティスト派遣事業への期待が高まる手応えを得た。



タイトル：うたと笑顔のほっとタイム♪

～ここに響くオペラの時間～

期 日：令和7年12月18日 14：30～15：30

会 場：（特養）楊梅苑 多目的ホール

参加者：入所者・職員50名

入所者の皆さんの背後からアーティストが歌いながら登場した。表情から感情を読み取りにくい方もいたが、次第に手拍子が起こり、「見上げてごらん夜の星を」を一緒に口ずさむ姿も見られた。プログラム終了後には「ブラーヴォ」という声上がるなど、場の雰囲気が大きく温まったことがうかがえた。また、終了後にはアーティストに入所者のお見送りをお願いしたところ、多くの方が目を輝かせながらアーティストに話しかけており、その光景が非常に印象的であった。



タイトル：0歳からのオペラデビュー！

期 日：令和7年12月19日 10：00～10：45

会 場：福井県子ども家族館 なんでもホール

参加者：親子22名

アクティビティ①・②では対象者の背後から突然始まる演出を行ったが、今回は対象者が0歳からと低年齢であることを踏まえ、驚かせないようにアーティストには事前に会場に入ってもらい、開演前に親子と交流する時間を設けた。手遊び歌を取り入れたり、子育てに関する話題を交えたりするなど内容にも工夫を加えた結果、未就学児も泣くことなく、自然に手拍子をする子どもも見られるなど、温かい雰囲気のコンサートとなった。



タイトル：体験して学ぶアウトリーチ研修

期 日：令和7年12月19日 14：00～14：45

会 場：総合町民センター 大ホール

参加者：役場職員23名

今後も継続して同様の事業を展開していくため、役場職員を対象にアクティビティを実施した。内容自体はアクティビティ①と同様であるが、演奏間のトークを見直したことで曲間のつながりがより滑らかになり、音楽への没入感が高まった。参加者の反応も良く、オペラを楽しむ様子が見られたほか、「良かった」との感想も寄せられ、本事業を通じてどのような体験を届けたいのかについて、職員の理解を深める機会となったと考える。



## コンサート

タイトル：はじめまして、オペラ！

期 日：令和7年12月20日 11：00～12：00

会 場：総合町民センター 大ホール

参加者：113名

0歳から入場可能なオペラコンサートを実施した。子どもを対象とした公演ではあったが、事前のチケット販売状況からは来場する子どもの人数を予測しづらかった。しかし当日は想定以上に多くの親子が来場し、届けたい対象にしっかりと音楽を届けることができた。

来場者の中には、オペラ鑑賞が初めての大人や、逆にオペラに詳しい方もいたが、アーティストのパフォーマンスを間近で体験し、いずれも満足した様子が見られた。また、アーティストの声掛けもあり、途中で立って子どもをあやしながらかみ鑑賞する保護者や、後方で走り回る子どももいたが、こうした行動が公演に悪影響を及ぼすことはなく、むしろ自由に音楽を楽しむ姿が印象的で、おい町らしい温かいコンサートとなった。



#### ① 応募の動機・事業のねらい

当町で最大規模のホールは総合町民センターが所有する大ホールであるが、その利用は貸館が中心で、自主事業は少なく、年間を通して十分に活用されていない状況にある。さらに、令和6・7年度には音響・照明設備の更新が行われ、機器が新しくなるタイミングでもあることから、今後ホールを活かした事業を継続的に展開していくためのノウハウを習得する必要があった。また、第3期おい町子ども・子育て支援事業計画においては、関係機関から「子どもの文化活動・体験活動の機会の提供」が不足しているとの指摘があり、住民からも「観劇・音楽会などの文化事業を充実してほしい」という声が寄せられている。しかし、これらのニーズに対して具体的な事業化が進んでいないという課題があった。

#### ② 企画のポイント

コンサートのメインターゲットからは離れるが、アクティビティでは、コンサートに行きたくても行くことができない方にもアプローチをしたいと考えており、老人ホームでの開催も計画した。

未就学児はクラシックコンサートへの入場が制限されることが多いため、本事業では0歳から入場できる公演とした。また、アーティストの演奏を静かに鑑賞する形式ではなく、子どもたちが音楽と一緒に楽しめるようなコンサートとしたいと考えていた。

コーディネーターと企画を進めていく過程で、客席について当初はホールの移動観覧席を使用する予定としていたが、未就学児とリラックスして音楽を体験できるように、観覧席は使用せず、カーペットを敷いた敷席を前方に用意し、会議用の椅子を来場者数に合わせて配置した。

#### ③ 企画実現にあたり苦勞（問題となった）した点

- (1)事業申込当初は、子どもたちに文化体験の機会を提供したいとの考えから、町内各こども園へのアウトリーチを予定していた。しかし、全体研修会において「こども園を訪問するだけでは“楽しかった”で終わる単発の体験になりやすく、次年度以降の継続を見据えるなら、子どもをホールへ連れていく大人へのアプローチが必要」との指摘を受けた。そのため、4月の研修後にアウトリーチ先を変更することとなり、新たな訪問先への事前説明や日程調整に苦勞した。
- (2)コンサート開催日から逆算して広報・周知を行う必要があったため、12月開催でありながら8月からチラシ作成などの準備を開始した。他事業との兼ね合いでおんかつ事業に十分な時間を割けない期間もあり、対応が後手に回る場面があった。
- (3)アクティビティについては、開催場所が決まればおんかつチェックシートに沿って進めることで対応できたが、コンサートは最後まで集客面の不安が残った。チラシの全戸配布、広報紙掲載、有線放送、町公式インスタグラムでの発信、町内各施設へのチラシ・ポスター設置など多方面で周知を行ったものの、申込数は伸び悩んだ。

#### ④ 上記③をどのようにクリアしたか

- (1)アクティビティの実施場所については、他課が実施するこどもと保護者が一緒に参加するイベントとの連携を検討していた。しかし、計画していた日程では平日開催となり十分な集客が見込めないことが判明し、開催場所の選定が難航した。最終的には保護者も一緒に参加できる場所としてこども家族館での開催に決定した。また、校長会については、本事業の必要性を理解していただくため、説明の機会を設けた。
- (2)この項目については十分に対応できなかった。8月実施の別事業の準備に追われ、9月まではおんか

---

つ事業に本格的に取り組むことが難しい状況であった。

(3)チケット販売は、コンサート前日までは約70席の売上にとどまっていたが、アウトリーチ先でアーティストのパフォーマンスを見た方がコンサートに興味を持ち、当日券が予想以上に売れた。子ども向けコンサートであったため、町内外の子連れが訪れそうな場所にチラシ・ポスターを設置していたが、居酒屋や金融機関など大人が集まる場所にも依頼すべきだったと感じている。今後は、対象に限定せず「より多くの人の目に触れること」を第一に、周知方法を検討していきたい。

#### ⑤ 事業を実施しての成果

おおい町ではクラシックコンサートの開催機会がほとんどなく、町外へ出向かなければ参加が難しい状況にある。さらに、町外で開催されるコンサートであっても、未就学児が参加できるものは限られている。こうした背景から、これまで参加が難しかった人々にも文化体験の機会を提供する必要があると考え、0歳から入場できるコンサートとして企画した。

一方で、この取り組みが担当者の思い込みではないか、町民のニーズと乖離していないかという不安も、開催直前まで抱えていた。

しかし、アクティビティ終了後に見られた参加者のエネルギッシュな表情や、コンサートのアンケートで寄せられた「初めてのオペラ、非常に良かった」「素晴らしい体験になった」「子どもと一緒に楽しめた」「また開催してほしい」といった前向きな声から、事業の意義を強く実感した。

これらの反応を受け、今回の取り組みは実施して良かったと感じるとともに、今後も継続して実施すべき事業であると確信した。

#### ⑥ 事業を実施しての反省点・課題

担当者1名でアイデア出しから事務作業までを担っている感覚が強く、ノウハウの蓄積という観点からも、より多くの職員を巻き込みながら事業を進められれば良かったと感じている。

また、④でも触れたとおり、周知についてはチラシを設置する場所を限定せず、より幅広い場所に配布・掲示すべきであったと考える。

今回のコンサートでは、前日に照明操作業者に来てもらい夕方から調整を行ったが、事前に「ステージを使用しない（ステージ下で演奏する）」という情報を共有していなかったため、照明角度の調整に手間をかけることとなった。アーティストやコーディネーターとの連絡に意識が向いていたことが要因であり、今後はコンサートに関わる全ての関係者に対し、必要な情報を速やかに共有・更新するようになりたい。

#### ⑦ 今回の事業を通じて、自身の「町」または「ホール」について改めて考えたこと

クラシックコンサートといえば、大規模で整ったホールに正装で出かけるものというイメージを持つ人も多い。しかし、今回、自分たちの町のホールでも開催でき、多くの来場者が満足してくれたことは、今後事業を継続していく上で大きな自信となった。アンケートでも「また開催してほしい」という声が寄せられ、町民が文化芸術体験を必要としていることを改めて確認できた。今後も継続して同様の事業を実施し、クラシック音楽に触れるきっかけを提供していきたい。

また、おんかつ事業を通じて他市町の担当者となりができたことも大きな収穫であった。事業を進める中で相談に乗っていただいたり、これまで知る機会のなかった他市町の文化施設について学ぶことができた。その過程で、当町の総合町民センターが他市町に比べて文化施設として十分に活用されて

---

いない現状にも気づくことができた。今後は、文化活動・体験活動の拠点としてきちんと位置づけられるよう、総合町民センターの活用方法を検討していきたい。

## アシスタントレポート

石山 翔子（公益財団法人名取市文化振興財団 事業企画係主査）

人口7,000人台、日本海にリアス式海岸で面した北陸の長閑な町でのおんかつ事業。コンサート会場となった総合町民センターは町役場に隣接した建物で教育委員会が事務所に入っている。416人収容のホールや各種研修室がある中央公民館的な役割を持った施設である。

町民文化祭のような町全体としての催し以外で、町民センター独自の企画はほぼ初めて。ホールの未活用と自主企画のノウハウが少ないことが、まずもっての課題であった。

担当者の渡邊さんのおんかつにける想いは、まず①町民センターに町の人がたくさん来て賑わうこと②そのために独自の企画を展開するノウハウを得ること③多くの人にクラシック音楽やアートを身近に感じてもらうことだった。渡邊さん自身もクラシック音楽や美術館など音楽やアートに触れることで救われてきた経験があり、その意義深さを感じている。この3つの想いが、渡邊さんを突き動かしていた。

元々5ヵ年計画で継続的におんかつ事業に取り組むことを念頭に企画され、次年度以降の展開を前提としたアクティビティとなった。

町立小中学校の校長先生、子ども園の園長先生向けのインリーチは次年度以降の子ども園や学校でのアウトリーチを実施するための種まき、そして町役場職員向けのインリーチは町行政として計画的に取り組んでいくための人材育成の機会であった。

その他、なかなかホールへ足を運ばない方へも音楽を届けたいという思いで、高齢者福祉施設入所者の皆さんに向けてのアウトリーチ、町内の体験型遊戯施設での乳幼児とその親御さんを対象としたアウトリーチ。どちらも、小野寺さんのお人柄と演奏で、皆さん体を揺らして音楽に親しんでいた。

「子育てに優しいまち」という町のスローガンのもと、子ども向け、ファミリー向けコンサート。最終的には子どもはもちろん大人も、誰もが気軽にオペラの楽しさに触れてほしいという思いから、老若男女が楽しめる初心者向けのオペラコンサートとなった。

「はじめまして、オペラ」というタイトルには、クラシック音楽に今まであまり触れたことがない多くの町民にも、気軽に臆することなくオペラに親しんでほしいという願いが詰まっている。チラシ制作では、小野寺さんの「お・の・で・ら」で作ったあいうえを作文「音楽の世界を のぞいてみよう でっかい笑顔で ラ・フェスタ」というキャッチコピーを渡邊さんが考案し、プロデューサーとしてコピーセンスの良さを発揮した。

チケットの販促に苦戦し、SNSや町のピアノ教室などでの広報活動を工夫した甲斐もあって、蓋を開けてみれば渡邊さんが思い描いた乳幼児から小・中学生、その親だけでなく年配のお客様がたくさん来場され、客席はほぼ満席となった。期間中に関係者で夕食を食べたお店の大将が来場してくれたことも、おい町という町のあたたかさを感じた。

子どもからお年寄りまで、漏れなくオペラや音楽を楽しむことができたのは、やはり小野寺さんのMC力にも大きく関わっている。客席を惹きつける話し方と明るい人柄、ご自身のお子さんの話などを盛り込むことで来場者との距離を縮めることができていた。

コンサート中、小野寺さんから「ヴィーバ!」「ブラーヴォ!」レクチャーがあり、その後の演奏では客席から大きな歓声が上がり会場が一体となって盛り上がった。客席との大切な交流の時間となった。4回のアクティビティを経て、曲構成やMCでの繋ぎ方、自身の演奏やオペラの魅力を伝えること、すっきりとまとめられることができた印象だ。

担当者の渡邊さんの思い描いていたものが、うまく形になったおんかつ事業であった。今回、蒔かれた種が何年も経て大きく育っていくことを願う。

実施団体：こくふコミュニティ施設運営協議会

実施時期：令和7年12月5日（金）～令和7年12月7日（日）

出演アーティスト：山崎 由貴（ユーフォニアム） 秋元 一夢（ピアノ）

## アクティビティ

タイトル：心通わずミニコンサート

期 日：令和7年12月5日 11：00～11：45

会 場：こくふ交流センターさくらホール 舞台

参加者：小中学校の不登校・保健室登校の児童・生徒、保護者、  
教員（30名）

対象の児童・生徒をさくらホールに招いて実施。対象者それぞれが複雑な事情を抱えていることから、当日まで参加の可否が懸念されていたが、欠席は1名のみであった。緊張感漂う会場にユーフォニアムの音色が響くと、児童・生徒の表情が変わり、その様子に引率の教員が感極まる場面もあった。会の終了後には、児童・生徒や保護者がアーティスト二人に声をかける姿が多く見受けられ、音楽の持つ力を改めて実感する会となった。



タイトル：心和むミニコンサート

期 日：令和7年12月5日 14：30～15：00

会 場：福祉サービス公社 談話室（1階）

参加者：施設利用者、職員（44名）

ご自身での移動が難しい方が多く通所する高齢者施設において、施設長の要望により30分間のミニコンサートを実施した。当初は反応が得られにくいことも想定されていたが、演奏が始まると自然と手拍子が生まれ、山崎氏の語りかけに相槌を打つ姿も見られた。終始和やかな雰囲気の中、リズムに合わせて体を揺らしたり、歌を口ずさむ姿もあり、楽しまれている様子がうかがえた。中には音色に涙ぐむ参加者も見受けられた。



タイトル：心躍るミニコンサート

期 日：令和7年12月6日 10：00～10：45

会 場：吉城山ゆり園 地域交流棟かっこうの森

参加者：入所者、職員（15名）

知的障がいのある方が多く活動している就労支援施設において、当日は男性入所者棟から新型コロナウイルス感染者が確認されたため、女性入所者および職員を対象に実施した。アーティストが会場に出迎えていたこともあり、入所者は入室時からワクワクした様子で、ユーフォニアムの演奏や山崎氏の問いかけに耳を傾け、「幸せなら手をたたこう」を全員で行うと、会場内に一体感が生まれた。



タイトル：心震えるミニコンサート

期 日：令和7年12月6日 14：00～14：45

会 場：飛騨うりす苑 食堂（1階）

参加者：施設利用者、職員（44名）

身体障がい者の入所施設において、入所者および職員を対象に実施した。当初は「幸せなら手をたたこう」を予定していたが、当日の会場の雰囲気や踏まえ、山崎氏の判断により「川の流れるように」へ曲目を変更して演奏した。演奏中には、感動して涙を流す入所者の姿も見られた。コロナ禍の影響により催しの実施が困難な状況が続いていた中、久々にプロによる生演奏を体験できる機会となり、大変好評であった。



## コンサート

タイトル：ユーフォニアムコンサート

～心をつなぐ音楽のちから～

期 日：令和7年12月7日 13：00～15：00

会 場：こくふ交流センター さくらホール

参加者：高山市民、飛騨市民、吹奏楽部生徒 など  
(来場者数 134名)

ホール入口より「さんぽ」を演奏しながら客席を歩き、山崎氏が入場した。第一部では、ユーフォニアムの楽器紹介やホースとじょうごを用いたパフォーマンスで来場者を楽しませ、第二部ではユーフォニアムのために作曲された楽曲などを披露し、その高い演奏技術で観客を圧倒した。感極まり涙する方も少なくなかった。終演後はハワイエにておしゃべりマルシェを開催し、アーティストと参加者の笑顔あふれる交流の場となった。



#### ① 応募の動機・事業のねらい

音楽ホールの有効活用を図るため、本格的なコンサートの開催を通じてスタッフのスキルアップを推進し、施設利用の可能性を拡大することを目的とする。また、飛騨の冬の鬱々としがちな時期に、障がい者や高齢者、不登校の子ども達など、飛騨地域の皆さんに音楽を通し笑顔と人とのふれあいを届ける。

#### ② 企画のポイント

『地域福祉』を軸に、地域の高齢者をはじめ、福祉関係者や地域住民など、幅広い方々を対象として、誰もが親しみやすく温かみのある音楽を提供することを旨とする。コンサートの開催を通じて生まれる人と人との関わりや交流が、明日へとつながる契機となることを願う。ユーフォニアムの柔らかく優しい音色や、山崎さんの温かな人柄は、本企画において欠かせないポイントとなっている。

#### ③ 企画実現にあたり苦勞（問題となった）した点

アクティビティ先2カ所にはピアノが設置されていなかったため、業者にアップライトピアノのレンタルを依頼した。業者による搬入先施設の下見を実施した結果、会場の都合により、当該2カ所ではアップライトピアノの設置が叶わなかった。

#### ④ 上記③をどのようにクリアしたか

アップライトピアノの代わりとなる電子ピアノについて、どの機種が適しているかをコーディネーターの三浦さんに相談し、なるべくピアノに近い音が出る電子ピアノを業者にも確認した。電子ピアノの型番を把握し、アーティストにも使用機種について確認。さらに、三浦さんからスピーカーの準備について助言をいただき、必要なスピーカーを手配した。

#### ⑤ 事業を実施しての成果

常駐の技術スタッフがいな中、業者の指導を受けながら音響・照明を自分たちで操作してコンサートを実施したことで、施設理解と技術面のスキル向上につながった。また、アウトリーチ事業においては、訪問先の施設や業者の協力が不可欠であったが、関係者が快く協力してくださり、円滑に実施することができた。感謝の気持ちとともに、関係性をより深めることができた点も大きな成果である。

#### ⑥ 事業を実施しての反省点・課題

おんかつ申請時にも課題として挙げていたとおり、集客に苦戦し、結果は目標の約半分にとどまった。今後、このような事業を継続していくためには、企画力に加え、財源の確保や集客力、さらには新たな来場者を生み出す「創客」の視点が大きな課題であることが明らかになった。また、コンサート終了後に実施した「おしゃべりマルシェ」については、事前に運営内容をより明確にし、関係者間で共有・確認を行う必要がある。

#### ⑦ 今回の事業を通じて、自身の「町」または「ホール」について改めて考えたこと

クラシックコンサートを開催したことで、改めて本施設が音楽ホールとして音の響きに優れていることを実感した。この点については、来場者アンケートにおいても多くの意見が寄せられている。また、今回のイベントをきっかけに初めてさくらホールを来館したという来場者も多く見受けられた。今後、当施設の音楽ホールとしての魅力を生かしたイベントが継続的に実施され、定着していくことで、新たな客層の集客が期待できる。

#### <初めに>

今回、アクティビティとコンサートを開催するこくふ交流センターさくらホールを運営する主体者は国府コミュニティ施設運営協議会であり、いわゆる街づくり、コミュニティづくりのために、交流センターを通して様々な施策を行なっている。高山駅を降りると非常に多くの海外からの旅行者が見受けられ、インバウンドビジネスで街自体に活気があるが、一方この地域では高齢者の孤立化、また自殺が社会課題として浮かび上がるそう(高山市では国や県の平均よりも高い自殺率の解決のために「高山市第2期自殺対策計画」を策定している)。

特に冬の寒く暗い時期に町民の心を暖め繋げるコンサートを届けたい、というホール担当者の熱い思いと共に、アクティビティ先は①様々な事情で登校が難しい小中学生(ホールでインリーチ)、高齢者デイサービスの施設である②福祉サービス公社、障害者の居住施設かつ就労施設である③吉城山ゆり園かつこうの森、同じく障害者の施設である④飛騨うりす苑の4箇所、最後にさくらホールでのコンサート開催が決定した。

アーティストはユーフォニアムの山崎由貴、ピアノ伴奏は秋元一夢である。

#### <アクティビティ>

今回は、ホールコンサートの集客のためのアクティビティ、ではなく、逆にコンサートに来ることが難しい方たちに音楽を届ける、ということ念頭に開催場所の選択が行われ、結果4箇所とも非常に異なる特徴を持った対象者となったが、アーティストは対象者に合わせて様子を見つつもかなりフレキシブルにMC内容と曲目を変更していた。アクティビティ内容としては主に取り入れられたのは、ユーフォニアムの仕組みの説明、楽器と同じ長さのホースにマウスピースと漏斗をつけて「にじ」の演奏、日本の四季メドレー、いのちのうた、Song for Ina、川の流れのように、パントマイム、春のうた、フニクリ・フニクラによる変奏曲等である。

③吉城山ゆり園かつこうの森、④飛騨うりす苑では対象者の入退場に時間がかかるので時間に余裕を持つべきだったこと、また対象者が途中退場できるように動線確保が必要だったことが反省点である。またホールの対応で特筆すべきは①の小中学生に対して、ホールが1人1人に名前入りの招待状を書いて送ったことである。アクティビティ先での集客はともするとアクティビティ先の団体を束ねる担当・リーダー格の人に任せきりになってしまうことが多々ある。直接なかなか会えない中でホールが何かできるかを考え実行し成果を出したことは賞賛すべきである。

#### <コンサート>

今回のコンサートのコンセプトである「寒い冬に、音楽を通して笑顔とふれあいを届けたい」というのは初期に決定し、「行ってみたいと思えるコンサート内容、アーティストの親しみやすさを活かす、プロの演奏」というアーティストへの打診があった結果、以下のような曲目となった。

M1 さんぽ、M2 日本の四季メドレー、M3 にじ、M4 幸せなら手をたたこう、M5 フニクリ・フニクラによる変奏曲、M6 トロイメライ、M7 誰も寝てはならぬ、M8 チャルダッシュ、M9 さくらのうた、M10 パントマイム、M11 いのちのうた

一部ではアクティビティでお馴染みのホースを使って演奏したり、幸せなら手をたたこうでは拍手のワークショップをしたり客席を和ませながら、二部ではより「じっくり聞かせる」ことを意図した構成で客席も集中している様子であった。予定通り1時間50分でコンサートは終了した。

---

今回照明音響スタッフが通常外注している企業に依頼出来なかったため、急遽ホールスタッフが初めて操作することになった。クリアカムをかぶるのも初めてで、非常に緊張されていたが、リハーサル時間が多めに取れていたこと、アーティストがよく照明転換に付き合ってくくださったことで、結果的にリハーサル・本番共に非常にスムーズだった。

またコンサートのコンセプトに基づき、担当の発案により、コンサートを行うだけではなく、おしゃべりマルシェと称して、ロビーで地域のお店に出店してもらい、また終演後はアーティストにロビーに出てきてもらい、サイン会とおしゃべり会をする、というミニイベントが行われた。結果、非常に多くの人の賑わいが終演後も続き、町民の中でも学生がアーティストに時間をかけて質問するなど、いい時間を創出することが出来た。また、アクティビティ初日の小中学生も何人か顔を出せたようである。

#### <終わりに>

最初から最後まで終始、担当者たちの「なぜおんかつをやるのか」という理由と熱意が一貫しており、それを支えたい、なんとか成功して欲しいと思わせてくれるようなおんかつだった。人員体制も決して十分ではなく、またこれまであまりコンサートを主催・企画・運営してこなかった中、他の業務もこなしながらおんかつを担当するにあたり、ホール皆様のご苦勞も並々ならぬものがあったと思うが、全員が全員自分ごととして全力でぶつかり、非常に得難い経験値を得たのではないかと思う。

## アクティビティ

タイトル：三原未紗子 ピアノ出前コンサート  
藤枝市立葉梨西北小学校

期 日：令和8年1月29日 9：15～10：00

会 場：藤枝市立葉梨西北小学校 音楽室

参加者：5、6年生 20名

葉梨西北小学校は、児童数60名程度の小規模校で、市街地からやや離れた中山間地域に位置している。同校の音楽室で、5、6年生を対象にアウトリーチを実施。事前のランスルー通り、演奏のほか、フリップを用いてのクイズや、演奏中に自由に移動してもらうなどの工夫をすることで、最後まで飽きる様子なく聞いてもらうことができた。演奏やクイズの実際の反応を確認できたことで、次のアウトリーチに向けての改善点等も確認できた。



タイトル：三原未紗子 ピアノ出前コンサート  
藤枝市立瀬戸谷小学校

期 日：令和8年1月29日 13：40～14：25

会 場：藤枝市立瀬戸谷小学校 音楽室

参加者：4、5、6年生 26名

瀬戸谷小学校は、葉梨西北小学校と同じく中山間地域に位置する小規模校。こちらも音楽室で4～6年生を対象にアウトリーチを実施。1校目終了後、コーディネーターからのアドバイスを三原さんが取り入れ、フリップを使用しないことで、クイズの時間がよりシームレスに組み込まれた。葉梨西北小学校に比べて、やや大人しい児童達だったが、演奏中ピアノの下に入ったりするのは新鮮な様子で、最後は全員で記念撮影を行い和やかなムードで終えることができた。



タイトル：三原未紗子 ピアノミニコンサート  
藤枝みんなのミライ楽校

期 日：令和8年1月30日 14：00～14：45

会 場：藤枝市民会館 ホール

参加者：藤枝みんなのミライ楽校  
小学校1年生～中学校3年生 23名

藤枝みんなのミライ楽校は、藤枝市の中山間地域に位置するオルタナティブスクール。通学している児童の学年は小1～中3と幅広い。同校の児童23名を会館に招待し、インリーチを実施。グランドピアノを前に、ステージ上に直接座る形で演奏した。児童達は、目の前で聞くグランドピアノの大きな音に驚いていた様子だった。後半、少し飽きてしまった様子の子もいたが、クイズでは他のどの学校の児童よりも活発に発言し、楽しそうだった。



タイトル：三原未紗子 ピアノミニコンサート

静岡県立藤枝西高等学校

期 日：令和8年1月30日 17:00～18:00

会 場：藤枝市民会館 ホール

参加者：静岡県立藤枝西高等学校ウインドオーケストラ部

1、2年生 21名

藤枝西高校は、会館から車で5分ほどの距離にある高校。音楽室でのアウトリーチを予定していたが、学校のピアノの状態が悪く、急遽、インリーチに変更した。高校生かつ吹奏楽部ということもあり、三原さんも直前まで構成を悩んでいた。その結果、見事に高校生向けの内容に再構成され、生徒達は皆真剣に三原さんの言葉に耳を傾けていた。終了後、ピアノや三原さんの周りに生徒達が集まり、一転して和やかなムードが生まれていた。



## コンサート

タイトル：三原未紗子ピアノ・リサイタル

～あなたに贈る はじめてのクラシックコンサート～

期 日：令和8年1月31日 14:00～16:00

会 場：藤枝市民会館 ホール

参加者：一般来場者 218名

会館に来たことがない方、コンサートがはじめての方、学生の方に多く来てもらいたいと考え「はじめて割」と「市内学生割」を設定。当日の客層としては年配の方が多かった印象。コンサートは、アンケート結果からもわかる通り、とても評判が良かった。特に、最後の曲、ムソルグスキー「展覧会の絵」は、三原さんのアイデアでプログラムに別添資料を付けたことにより、曲のイメージが掴みやすかった等の意見が多かった。



#### ① 応募の動機・事業のねらい

藤枝市内在住者でも、会館に足を運んだことのない方、会館の存在をあまり認知していない方が多くいる現状を打開していくきっかけとして、本事業を活用したいと考えた。また、昨年度新しいグランドピアノを納入したこともあり、優れたピアノが会館に置かれていることを周知したいという狙いもあった。

#### ② 企画のポイント

アクティビティでは、会館からやや距離のある中山間地域の小学生と中学生、そして距離的には近いがコンサートにお客様として来館することが少ない高校生を対象とすることで、会館の存在を認知してもらうとともに、コンサートに足を運ぶきっかけを作りたいと考えた。本番公演では、割引制度（はじめて割／市内学生割）を設けることで、これまでクラシックコンサートに来たことがない方、藤枝市民会館に訪れたことのない方、特に若年層にアピールしていきたいと考えた。

#### ③ 企画実現にあたり苦勞（問題となった）した点

アクティビティでは、当初、駅前商店街の方に参加してもらい、駅前と会館で交流を深める計画をしていたが、商店街組合の解散などで実施不可能となり、別のアクティビティ先を探すのに苦勞した。本番公演では、会館に馴染みのない方や若年層にアピールしたいという思惑はあるものの、どこでどのように宣伝すればターゲット層にリーチできるかわからず、市内でポスターを配り歩いてみたり、新たに会館公式Xを立ち上げてみたりと宣伝方法を模索した。また、直前までチケット売上が振るわず、集客に苦勞した。

#### ④ 上記③をどのようにクリアしたか

アクティビティ先の選定においては、これまで参加していなかった駅南（会館からは駅の反対側にあたる）地区活性化会議に初めて参加し、協力を求めた。結果、アクティビティそのものに参加してもらうことは叶わなかったが、アクティビティ③のミライ楽校含め、新たに複数の団体と繋がりを作ることができた。本番公演の宣伝・集客においては、市外の学校や公共施設にもチラシ・ポスター配布を行い、藤枝市にも協力を仰いでSNS・プレスリリースなどで宣伝協力をしてもらった。

#### ⑤ 事業を実施しての成果

アクティビティでは、実施先のみならず、その選定にいたる過程において、これまで関わりがなかった団体や学校と繋がりが作れたことが成果だと思う。本番公演では、まず、今回の公演ではじめて来館される方が一定数いたことが成果の一つである。次に、宣伝方法を模索する過程で新たな宣伝ルートの開拓ができたことも成果の一つだと考えている。そして、事業全体を通して最大の成果といえるのは、会館スタッフ間で連携して事業にあたれたことと、アクティビティ先下見の段階から藤枝市とも連携できていた点だと思う。

#### ⑥ 事業を実施しての反省点・課題

本番公演の宣伝・集客が苦勞した原因として、企画の精度不足があったと感じている。公演タイトルや割引制度の案などは元々あったものの、事業実施日が迫る中、急いで形にしたという印象がある。それゆえ、ターゲット層の絞り込みが十分ではなく、宣伝ルートも広報開始後から模索する形になってし

---

まった。特にチケット販売を窓口のみとしてしまったため、市外の方が購入しづらい形となってしまった。今後は、企画立案の時点でターゲット層を見据えた宣伝方法、チケット販売方法を考えておくようにしたい。

⑦ 今回の事業を通じて、自身の「町」または「ホール」について改めて考えたこと

研修会で他県の公共ホール担当者と話ができたことで、自分のいるホールの状況を客観的に見ることができた。また、アウトリーチを通じて、藤枝市内に音楽や芸術文化振興に積極的な学校があることや、先進的な取り組みをしている学校があることなどを知ることができた。自分のいるホールと地域には、良い人材や団体、文化的資源が多くあると気づけたので、少しずつでも繋がりを広げていき、このホールが地域の文化活動を繋げ、それを紹介していく役割が果たせるような場所になれば良いと考えている。

静岡県藤枝市は、静岡県の中部に位置し、東海道の宿場町として栄えてきた歴史を持つ。現在はお茶や製造業、サッカーなど産業・文化ともに豊かなまちである。人口は約14万人。駅を拠点にした中心市街地と、自然豊かな中山間地域の共存する穏やかな自然と気候に恵まれた地域でもある。「藤枝はほどよく都会、ほどよく田舎」という言葉を今回のおんかつ中、何度も聞いた。このまちを、市民はそう捉えている。

今回のおんかつを行う藤枝市民会館は、昭和44年に開館し、それ以降自主事業を行いながらも地域の文化活動の発表の場として親しまれてきた。藤枝市役所に隣接した場所にあり、駅からはやや距離があるものの、市民にとって身近なランドマークである。

おんかつ実施にあたり、アクティビティでは中山間地域の子どもたちが音楽に触れる機会を作りたい、という会館の堀井さんの思いがあった。そのため4回のアクティビティのうち3回は、小中学生を対象に実施。市内に2つある山間地域、葉梨地区と瀬戸谷地区に位置する、藤枝市立葉梨西北小学校5・6年生、藤枝市立瀬戸谷小学校4～6年生、同じく瀬戸谷地区にある小中学生向けのオルタナティブスクールである藤枝みんなのミライ楽校の小中学部の子どもたちに向けたアクティビティが実現した。

中山間地域に暮らす子どもたちにとっても身近で親しみやすい「自然」をテーマに、風を想起させるショパンの練習曲作品25第1番《エオリアン・ハーブ》から始まり、虫や水、火といったテーマに創造を旅するプログラムとなった。後半、水と火にまつわる曲を聴き、それぞれの印象に違いや感じたことを投げかけると「水は火よりも最初静かな感じだった」「炎はだんだん大きくなった」と、自分たちの言葉で話す場面もあった。

4つ目のアクティビティ先として手を取ったのは、静岡県立藤枝西高等学校のウィンドオーケストラ部。藤枝市民会館から比較的近い距離にあり、定期演奏会などでも頻繁に文化会館を利用している。学校のピアノが不調により、急遽学校での実施ではなく文化会館舞台上での実施に切り替えた実施した。

それまでの3回のアクティビティよりも年齢が上がり、自身も音楽に触れる日々を送っている生徒は音楽との距離感もぐっと近い。これまでのアクティビティでのプログラムと同じにはできないだろうと、三原さんにはプログラムを練り直した上で実施していただいた。

実施直前、三原さんは「音楽と向き合う仲間として話します」と仰っていた。三原さんの音楽家としての思いや曲に対する考え方などを話す場面もあり、音楽と向き合う者同士であるウィンドオーケストラ部員と三原さん、受け取るものの多い時間となった。

終了後、高校生たちは舞台に残ったまま、感想を共有しあったり、ピアノをまじまじと見つめたり、三原さんに質問したり、思い思いの時間を過ごしていた。なかなか帰る気配を見せないその様子から、地域の文化拠点の在り方を見た。新たな感動を身近で感じられる場、それを語り合える場、新たな出会いやネットワークを築く場。そういう場が開かれた状態であること、いつでもここが、あなたの居場所になること、そういったことが、文化拠点として地域のホールが存在する意味でもあるのだと思う。

コンサートでは、今まで会館に来たことがない人や、市内の子どもたちにとって敷居の低いコンサートとなることを目指した。それに伴い、はじめて藤枝市民会館にいらっしゃる方、はじめてクラシックコンサートに来場される方を対象とした「はじめて割」、藤枝市内の小～大学・専門学校に通学する方を対象とした「市内学生割」の2種の特別割引制度を設定した。そのおかげもあり、アクティビティにも参加した小学生や高校生や、ピアノを習っているという子どもなどの来場があった。公演数日前まで券売に伸び悩んでいたそうだが、結果218名もの方が来場した。当日券は60枚越えであった。

コンサートは、ムソルグスキーの組曲《展覧会の絵》が大きな注目点となった。多くの人にとって、どこかで聴いたことがあったとしても、全曲を聴く機会が多いとは言えないだろう。三原さんが作成し

---

た絵付きのわかりやすい曲目解説を当日パンフレットとともに配布し、それを見ながら来場者は想像を膨らませながら聴くことができた。終演後の振り返りで三原さんから、「コンサートの面白さとして、知らなかったことを知る喜びがあると思う。コンサートに馴染みのない人にとって、知らなかった曲や知らなかった面白さと出会える時間になると良いなと思ってプログラムを組んだ」という言葉があった。その狙い通りに、コンサート全体を通して、そういった面白さに出会える時間になったと思う。

今回のおんかつでは、クラシック音楽とははじめての出会い、また、普段音楽に触れて過ごす人がその面白さと出会い直す機会に立ち会えたように思う。地域の中で文化芸術を育んでいく過程では、このような様々なフェーズの人がいるということ、そしてそれぞれに対してどんな事業が必要とされているのかを考えていくことがきっと必要になっていく。地域の人々と近い距離にあり、顔が見える関係を築きつつある藤枝市民会館が、今後どうなっていくのか注目していきたい。

実施団体：阿久比町

実施時期：令和7年11月27日（木）～令和7年11月29日（土）

出演アーティスト：小野寺 光（バス・バリトン） 林 直樹（ピアノ）

## アクティビティ

タイトル：楽しいがいっぱい！小野寺さんのミニコンサート

期 日：令和7年11月27日 10：55～11：40

会 場：英比小学校 新館4階音楽室

参加者：6年生 28名

1回目ということで、関係者一同緊張していましたが、最初の曲「フニクリ・フニクラ」の掛け声を始めから子どもたちが大きな声で言ってくれました。また、開始直前に即興で担任の先生と歌のコラボを入れることになりましたが、このコラボを子どもたちがとても喜んでくれて一気に楽しい雰囲気になりました。また、「おいらは鳥刺し」で子どもたちの席の間を通りながら歌唱するなど、最初から最後まで楽しめるミニコンサートとなりました。



タイトル：楽しいがいっぱい！小野寺さんのミニコンサート

期 日：令和7年11月27日 14：35～15：20

会 場：草木小学校 北校舎2階音楽室

参加者：6年生 39名

6年生（全2クラス）を対象に実施しました。後ろの関係者席からいきなり登場の小野寺さんを見て、子どもたちは驚きと笑顔で溢れました。他のアクティビティ先と比べると人数が多く、音楽室も人でいっぱいでしたが、その分掛け声も大きくなってより一層盛り上がる事が出来ました。「フニクリ・フニクラ」「闘牛士の歌」などの盛り上がる曲から「星めぐりの歌」のような落ち着いた情景を想像しながら聴く曲まで、会場にいる全員が一体となって楽しめました。



タイトル：楽しいがいっぱい！小野寺さんのミニコンサート

期 日：令和7年11月28日 11：20～12：05

会 場：東部小学校 西館2階音楽室

参加者：3年生 27名

今回のアクティビティ先で唯一の3年生を対象に実施しました。小野寺さんの歌声や声量に圧倒されている様子もありましたが、「闘牛士の歌」では両手を上げて「ブラーヴォ！」「ヴィーヴァ！」と叫んでくれる子どもたちもおり、アーティストも参加者もみんな一緒に楽しく笑って過ごす事が出来ました。最後の質問コーナーでは「オペラとミュージカルの違いは何？」という鋭い質問が出たりと、オペラに興味を持ってくれた子どもたちが多くいたように感じました。



タイトル：楽しいがいっぱい！小野寺さんのミニコンサート

期 日：令和7年11月28日 14：40～15：25

会 場：南部小学校 1階音楽室

参加者：6年生 28名

大きな掛け声で歌を一緒に盛り上げ、子どもたちは小野寺さんの歌声に夢中になっていました。トーク中に小野寺さんから「ぜひ皆も好きなこと・夢中になれることを何でもいいから見つけてみよう。これからの人生で苦しいことがあった時に、それが自分を助けてくれるかも。」という言葉を実際に聞いている子どもたちがとても印象的でした。また終了後は直接お礼を言いたいという子ども数名おり、「小野寺さんのミニコンサートが凄く楽しかった」と嬉しそうに伝えていました。



## コンサート

タイトル：笑いあり！涙あり！感動あり！

小野寺さんのわくわくオペラコンサート

期 日：令和7年11月29日 14：00～15：45

会 場：アグピアホール

参加者：小学生以上 264名

初めはアクティビティと同様、聴き手の心を一瞬で惹きつける「フニクリ・フニクラ」を歌いながら小野寺さんが登場し、子どもも大人も笑顔いっぱいでのコンサートが始まりました。当初の「子どもを中心に考えつつも元々音楽が好きな方や大人の方にお越しいただいても満足出来るようなプログラムでお願いしたい」というオファーどおり、誰でも知っている曲からオペラの曲まで多くの曲をご披露いただきました。第2部の初めには客席ドアから登場するなど、近い距離での交流を実現することが出来ました。小野寺さんの一人一人に語りかけるような歌唱が聴き手の心に響き、最後のアンコールまで会場が一体となって盛り上がりました。終演後の、「今日来て本当に良かったね」という親子の会話が大変心に残っています。



① 応募の動機・事業のねらい

アクティビティでは、普段の授業では味わえない体験を通して音楽への興味を広げると共に、心に残る貴重な時間を過ごしてもらうことを目的としました。

またホール公演について、元々アグピアホールは趣味で音楽や踊りを行う団体が成果発表という形で利用することは度々ありますが、演奏家によるコンサートは数少なく、この機会にぜひ町民の皆様が音楽をもっと身近なものに感じてもらい、阿久比町を音楽の面からもっと盛り上げていきたいと思い応募をしました。

② 企画のポイント

毎年、文化・芸術関係のイベントを開催すると参加者はご高齢の方が中心だったため、今回は小学生のお子さんやそのご家族など若い世代をメインに考えて進めました。ただ、元々クラシック音楽が好きな方やいつもイベントに来てくださっているご高齢の方にも興味をもってお越しいただけるよう、チラシ作りからプログラムまで念入りに打ち合わせをしていきました。

③ 企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

- ・アクティビティの参加人数が約40人/回というところで、4小学校中3校は1クラスしか参加が出来ないことを、小学校の先生方にご理解いただくまで少し時間を要しました。
- ・町内の小学生、中学生を対象に先行販売（メール配信で案内）しましたが、なかなか枚数が伸びませんでした。

④ 上記③をどのようにクリアしたか

- ・担当者だけでなく同じ教育委員会の学校教育課職員の方からも、おんかつ事業の主旨について説明してもらうなど、小学校の先生方にしっかりとご理解いただくまで何度も説明をさせていただきました。事前の説明を丁寧にしたことで、現地下見の際なども疑問点や混乱が起こることなくスムーズに準備を進めることができ、その後も先生方には多くの場面でご協力をいただきました。
- ・別のイベント開催時に子どもたちへチラシを配るだけでなく、大人やご高齢の方にも「お子さんやお孫さんと是非一緒にお越しく下さい」などご家族の方にも直接興味を示していただけるように案内したことで、売り上げ枚数が少しずつ増えていきました。

⑤ 事業を実施しての成果

アクティビティ先の子どもたちや先生方、ホール公演へ来場いただいた方々から「本当に楽しくて面白かった」「気軽に來れた」「また来年以降も続けてほしい」といったお声をたくさん頂き、【音楽】が地元の皆様にとって今まで以上に身近なものになってくれたのではないかと担当者として実感いたしました。このように「楽しかった」という思い出が地元の皆様の心に残れば、また町主催の別のイベント時にも「この前参加してきて楽しかったし、また行ってみようかな。」と積極的にご参加いただけるきっかけになったと考えております。

⑥ 事業を実施しての反省点・課題

「阿久比町らしい」を上手く取り入れることが出来なかったことです。当初は“特産のお米（農業）にちなんだ曲はないか”“中学校合唱部とのコラボはどうか”など話は出ましたが実現には至りません

---

でした。

今回好評だったこの事業を是非続けていきたい思いはありますが、今後コーディネーター等の派遣がない状況で同じように続けていくことが出来るのか不安に思います。また、担当職員が異動になっても次年度以降の対応に困らないよう予め体制を整えておくことが必要だと感じております。

⑦ 今回の事業を通じて、自身の「町」または「ホール」について改めて考えたこと

今回のように、普段遠くに出向かないと聴くことが出来ない音楽を地元で気軽に聴けることは、地元の皆さんの心を豊かにすることが出来る貴重な機会になっていると大変実感いたしました。地元の皆さんのコミュニティの場や心穏やかに過ごせる時間作りを増やせるように、社会教育の文化・芸術の担当職員としてより努めて参りたいと思います。

愛知県阿久比町は、知多半島の北部に位置する人口約3万人の町である。名古屋都市圏へのアクセスの良さから住宅地として発展してきた一方、農業や地場産業も息づいており、近年は子育て世代を中心に人口流入が進むなど、「子育てタウン」としてのまちづくりが着実に進められている。そうした町の発展の背景には、教育や社会教育への継続的な取り組みがあり、今回のおんかつもその延長線上に位置づけられるものであった。

今回のおんかつの拠点となったのは、阿久比町立中央公民館多目的ホール・アグピアホールである。担当は阿久比町教育委員会社会教育課の山本百合絵さん。若手職員であり、これまでクラシック音楽のコンサートの開催経験がないことを不安視されている様子もあったが、下見の段階から本番に至るまで、ひとつひとつの課題に丁寧に向き合い、着実に準備を重ねていく姿が印象的であった。

今回選出されたアーティストは、バス・バリトンの小野寺光さん。山本さんは4月のプレゼンテーションを通して、小野寺さんであれば子どもたちと楽しくコミュニケーションを取りながら音楽を届けてくれるのではないかと感じ、選定に至った。なお、小野寺さんにとって今回が初めてのおんかつ参加となった。

アクティビティは町内小学校4校（英比小学校6年生1クラス30名、草木小学校6年生全2クラス43名、東部小学校3年生1クラス30名、南部小学校6年生1クラス32名）で実施した。プログラムは「フニクリ・フニクラ」を歌いながら子どもたちの後方からサプライズ的に登場するところから始まった。「オペラ」という言葉も聞いたことがない子どもたちもいるなかで、その魅力の一つを歌手の衣装による世界観の演出と捉える小野寺さんのこだわりで、モーツァルト《魔笛》より「おいらは鳥刺し」を、実際に衣装チェンジして披露。続いて、ビゼー《カルメン》の「闘牛士の歌」を題材に、子どもたち自身が闘牛場の観客となり、「ブラーヴォ」「ヴィーヴァ」と掛け声をかけながらオペラの一部を作り上げる体験を行った。その後、ピアノソロで「からたちの花」を挟み、「星めぐりの歌」、「結婚万歳」と続き、声楽の多様な表現に触れる構成となった。

2校目となった草木小学校では、1校目とは異なる子どもたちの反応にアーティスト自身が影響を受けてしまう場面も見られたが、終了後のコーディネーターからの助言を受け、プログラムの進め方やコミュニケーションの取り方を見直した。その経験は翌日のアクティビティに生かされ、学年の異なる子どもたちに対しても柔軟に対応できるようになっていき、回を重ねるごとに磨きがかかっていった。

アグピアホールにて行われたコンサートは「小野寺さんのワクワクオペラコンサート」と題された。オペラアリアを中心に、日本歌曲やイタリア・カンツォーネも織り交ぜたプログラムで、トークを交えながら進行された。過密なスケジュールの中でアーティストのコンディション調整が課題となり、最終的にサプライズ曲1曲を削る判断を行ったが、全体としては無理のない形で公演を成立させることを優先した。

会場には家族連れから高齢者まで幅広い世代が訪れ、客席は大いに賑わった。チケット販売においても担当者による工夫が随所に見られたほか、構造が複雑なホールであるがゆえに、スタッフ配置や休憩時のトイレ動線など、来場者の体験を損なわないための運営面での調整にも多くの労力が注がれたことは特筆すべき点である。また、現地入り後に町長とアーティストが直接対話する機会が設けられ、その内容を踏まえてトークを構成し、当日は町長自身も登壇する形でのコラボレーションが実現した。行政トップが事業に関与する姿を示したことは、町における文化事業の意義を可視化するうえで大きな意味を持ったといえる。

今回のおんかつを通して強く感じられた成果のひとつは、若手担当者が主体的に事業を遂行した点である。わからないことを一つずつ確認し、関係者と対話を重ねながら準備を進めた結果、心のこもった

---

制作につながっていた。前述した通り、担当の山本さんは経験がないことを不安視している様子であったが、一方で、事業運営において重要なのは経験年数だけではなく、事業に向き合う姿勢や丁寧な調整作業と言えるだろう。山本さんの細やかな配慮と真摯な姿勢がその不安を十分に補っており、筆者も今回のおんかつに関わった一人として「より良いものを一緒に作りたい」と感じさせられる担当者であったと強く印象づけられた。こうした担当者の姿勢が、事業の質や地域内での受け止め方に直接影響することを、改めて実感する機会ともなった。

阿久比町における今回のおんかつは、町の将来を担う子どもたちと、文化事業を支える行政職員、そしてアーティストが、それぞれの立場で学び合う機会となった。丁寧な準備と対話を重ねることで育まれたこの経験が、今後の阿久比町における文化芸術事業の広がりへとつながっていくことを期待したい。

実施団体：鈴鹿アートライフデザイン

実施時期：令和8年3月5日（木）～令和8年3月7日（土）

出演アーティスト：北垣 彩（チェロ） 今田 篤（ピアノ）

## アクティビティ

タイトル：小学校アクティビティ

期 日：令和8年3月5日 10：00～10：45

会 場：椿小学校 音楽室

参加者：小学6年生 16名

場所は会館から最遠方の小学校。前半ではチェロに触れたり、弦の仕組みを体感し、チェロの知識を蓄えてから曲を鑑賞。チェロに触れて小さく頷いたり、前傾姿勢で曲を聴いたり、言葉少なではあったが、個々に感じるものがあり、奏者の意図も理解しながら進んだ。卒業間近の鑑賞者に「夢」についてのお話と門出を祝すようなホッパーの華やかな曲で締めくくった。

タイトル：医療施設アクティビティ

期 日：令和8年3月5日 14：30～15：30

会 場：桜の森病院 実習室

参加者：入居者とその家族 13名

参加者の様子や人数が当日に確定する施設。ベッドのまま聴く方もいると奏者に伝えていたが、実際の対面後に曲目変更して臨機応変な対応を頂いた。バッハの無伴奏や滝廉太郎の花など演奏。ベッドで耳に手を当てたり、ご家族が語りかけたり、入居者が口ずさんだりといった様子が見られた。奏者の言葉にもあった「限られた時間の共有」という難しい側面を、奏者自身の演奏、プログラム、語り掛けによって素晴らしい時間にして頂いた。

タイトル：外国ルーツコミュニティアクティビティ

期 日：令和8年3月6日 10：00～10：45

会 場：EAS鈴鹿校 食堂

参加者：高校1年から3年 47名

ブラジルルーツの幼稚園児～高校生までが通う学校。授業はポルトガル語で行われている。鈴鹿国際交流協会の通訳者をお願いし、奏者の言葉を母国語で伝えてもらった。楽器を触る試みなどで距離間を縮めてからピアソラやガーシュインなど現代音楽の要素も取り入れたプログラムを実施。足や手でリズムを刻む参加者の様子が印象的だった。校長先生から「今は音楽の授業がないが、今後やりたい。また来て欲しい」との意見がもられた。



タイトル：小学校アクティビティ

期 日：令和8年3月6日 13：45～14：30

会 場：郡山小学校 第一音楽室

参加者：小学6年生 26名

学校再編により郡山小学校としての最後の卒業生が対象。楽器や弦に触れる機会には積極的な参加姿勢と発言がみられた。曲を鑑賞する際も真剣に聞き入る様子があり、奏者の促しでイスを前方に移動して鑑賞した。最後にチェロに合わせて校歌を歌って締めくくり、奏者が退場したが、アンコールが起こり、急遽追加曲の演奏がなされた。



## コンサート

タイトル：すずかで世界の音楽会

期 日：令和8年3月7日 13：30～15：30

会 場：ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿 けやきホール

参加者：160名

音楽の世界旅行をキーワードに世界各地のクラシック音楽を演奏。定番的な楽曲の良さと珍しい楽曲の双方が際立った。ブラジル風バッハの特別編曲や、鈴鹿ゆかりの楽曲など、会館の難しい提案に応じて頂いた。アンケートで「夏は来ぬ」の好評や「世界の曲が聞けてよかった」等の意見があり安堵した。チェロの音色に魅せられたとの意見も多く、奏者の力量あってこそその好評だった。



#### ① 応募の動機・事業のねらい

応募動機は①会館の周知②新規顧客開拓③担当者のスキルアップを主とし、地域の会館利用が少ない層にリーチする事をねらいとした。

#### ② 企画のポイント

会館利用の少ない層として、①小学生②被介護者とその家族③外国にルーツを持つコミュニティを設定。体験格差による機会損失を無くすチャレンジングなターゲットを設定し、おんかつの効果を最大値にする試みであった。

#### ③ 企画実現にあたり苦勞（問題となった）した点

個々のアウトリーチ先の環境が大きく異なるため、必要物品（電子ピアノやスピーカー）など個別対応が必要であった点。通訳は諸条件に恵まれクリアしたが、条件が異なれば難しい内容であった。

#### ④ 上記③をどのようにクリアしたか

下見での実地確認で多くはクリアできた。逆に下見で確認が諸事情で出来なかった事(例①スピーカーの不調により新調※楽器店でケーブルがなく音出し出来なかった②病院での参加者の様子、人数が確定しない※緩和ケア病棟の為、事前に知りえない)などがあったが、致し方ない変数として、臨機応変に対応した。

#### ⑤ 事業を実施しての成果

①新規顧客開拓（コンサートにアウトリーチ先から来場者あり）②体験格差是正（アウトリーチ中の問いかけでチェロの音を聞いた事がない人で挙手・文化会館に来たことがない人での挙手）③アウトリーチ継続の為の接点構築（外国ルーツコミュニティからの継続訪問希望・館内での風土醸成・通訳の方、病院窓口などとの繋がり）④事業の周知（市役所などの見学、新聞報道）

#### ⑥ 事業を実施しての反省点・課題

アーティストとのコミュニケーションがマネジメントを通してしかできない為、病院の入居者の情報など、詳細に伝えられなかった。アーティストには当日に臨機応変に対応頂いた。反省会で地域創造側からのご提言で「アーティストともっと丁寧なやりとりを」「そのためにオンラインMTGなど対面に近いコミュニケーションを」と現状出来ていない大きな改善提案があったので、その手法の見直しについて大いに賛同する。

#### ⑦ 今回の事業を通じて、自身の「町」または「ホール」について改めて考えたこと

【町について】市の多様性に気付く機会だった。今回の対象さえも、担当者の偏った選定である事を忘れず、今後のアウトリーチでは他の事業担当者なども主体となって多様な場所に働きかけたい。【ホールについて】まだまだ知られていないと感じた。多様な方が使用、鑑賞するとハレーションが起きるかもしれないが、その心配のずっと手前に現状があると考え。時間があるうちに、バリアフリー、アクセシビリティ、全員に共通した鑑賞マナー、多言語表示などを試行錯誤したいと思えた。

実施団体の鈴鹿アートライフデザインは、ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿の指定管理者となって2年目にしておんかつへの参加である。様々な自主事業を既に展開しており、ある程度ノウハウはあるものの、アウトリーチなど劇場の外に出向いての企画は経験値が少ないという状況であった。

担当の三輪さんは、4月の全体研修会当初から、かなり具体的に演奏してほしい曲などもイメージができており、そしてその想いが最後までブレることなく貫かれていた。

アクティビティは、市内小学校6年生に向けて2カ所、終末期医療病院の入院患者の皆さん、ブラジル人学校の高校生の皆さんの4カ所であった。

2カ所の小学校6年生の児童たちは、はじめは少し照れた様子もあったが、楽器の振動を体感するという奏者との触れ合いの時間を通して、表情がほぐれていったのが印象的だった。鈴鹿入りして、最初のランスルーでは、後半にチェロの振動に触れてみる時間を設定していたが、修正して前半にもってきたことはとても効果的であった。

緩和ケアを専門とする桜の森病院では、ベッドのままや車いすのお客様で会場はいっぱいになった。午後の昼下がりに柔らかなチェロの音色を聴きながら、ウトウトしたり、メロディーに合わせて身体を揺らしたりと優しい時間が流れた。お付き添いのご家族と、片手同士で手を触れあって拍手する様子や目を合わせて微笑み合う様子に大切な人との大事な時間になったのではないかと感じた。

ブラジル人学校は、児童生徒そして先生方も含めて日常会話がポルトガル語という環境でのコンサートであり、通訳の方を介してのMCはアーティストも初めての経験であった。演奏が進むにつれて、生徒たちも身体を揺らしたり、足でリズムを取ったりして北垣さんが届ける音楽を楽しんでいる様子だった。北垣さんがMCで伝えていた通り、国や言語が違っても音楽で会場が一体となり、繋がり合えた空間になった。

北垣さんの丁寧な言葉は聴く人にまっすぐに届き、力強く暖かな音色はしっかりと心をつかんでいた。4カ所のアクティビティ先は対象者も幅広く、プログラムもその都度変更するなど、ケースバイケースで咄嗟に対応できる柔軟さは見事だった。

ホール公演には、アクティビティ先の小学生、ブラジル人学校の先生と生徒の皆さんが多く来場し、アウトリーチからホールに繋げることが出来た実績は素晴らしい。

コンサート後の最後のフィードバックでは、担当の三輪さんから北垣さんに対して「寄り添っていたいた」という感謝が伝えられ、北垣さんから三輪さんへ「挑戦の機会をいただいた」という感謝の言葉があり、良い関係性を築けたように感じた。

結果的に、担当者の思いが形になり、アーティストとの信頼関係が生まれ、より多くの市民に“ここでしか聴けない音楽”を届けることができた。一方で、準備に多くの時間をかけすぎてしまったこと、そのために必要な議論や確認に時間を割けなかったことは、反省点として挙げられるかもしれない。

「劇場担当者の思いや希望」と「アーティストの届けたい音楽」をすり合わせる作業というのは、とても繊細かつ時間を要するものであり、コンサートの根幹をつくるとも重要な要素となる。劇場として願い、アーティストとして思うことをそれぞれがより深く見つめて“なぜ願うのか、なぜ届けたいのか”をできる限り言語化すること、そしてそのイメージを共有すること。これがとても大切であることをお互いに学ぶことが出来たのではないか。

劇場側、アーティスト側の想いと市民のニーズが重なり合い、それぞれの愛がこもった事業展開が続いていくことを願っている。

実施団体：嬉野市社会文化会館 [リバティ] (株式会社佐賀広告センター)

実施時期：令和8年1月15日(木)～令和8年1月17日(土)

出演アーティスト：小野寺 光 (バス・バリトン) 林 直樹 (ピアノ)

## アクティビティ

タイトル：音のかけ橋プロジェクトin嬉野  
うたのチカラ、君に届け。

期 日：令和8年1月15日 11:30～12:20

会 場：吉田中学校 音楽室

参加者：1、2年生 28名

- ・会館スタッフ挨拶→アーティスト入場→演奏
- ①フニクリ・フニクラ②星めぐりの歌(詞朗読→歌唱)③オペラ『魔笛』より「おいらは鳥刺し」④からたちの花(pfソロ)
- ⑤オペラ『カルメン』より「闘牛士の歌」⑥結婚万歳
- ・演奏の合間MCでコンサート、想像(創造)、オペラ、パンフルート、声帯、語学についても説明。

コンサートへ足を運んだことが少ない生徒たちが多く、最初はやや緊張が見られ、中学生ということもあり中々反応も薄いのかなと思っていたが、アーティストの楽しく迫力がある進行・演奏で生徒たちもアーティストの魅力に引き込まれ楽しんでいる様子だった。



タイトル：音のかけ橋プロジェクトin嬉野  
うたのチカラ、君に届け。

期 日：令和8年1月15日 15:00～16:00

会 場：嬉野市社会文化会館リバティ 文化ホール

参加者：学校関係者、市職員、佐賀広告センター、リバティ  
合計18名

※概要は上記同様

午前中の学校アウトリーチと雰囲気も異なる関係者向けのインリーチは初めてだったが、皆さん積極的に参加され生徒になった気持ちで体験していただき反応が良かった。特に教育関係者には来年に向けて興味や関心を持たれていた。



タイトル：音のかけ橋プロジェクトin嬉野  
うたのチカラ、君に届け。

期 日：令和8年1月16日 10:30～11:15

会 場：五町田小学校 音楽室

参加者：5年生 24名

※概要は上記同様

生徒は音楽室に入室する時から目がキラキラしており、とてもわくわく感が伝わってきた。アーティストの演奏中も全ての曲にノリノリで興味深く反応し、初めて聞くオペラも楽しんでいた様子だった。このクラスでのアクティビティはテンポよくあっという間に45分間が終わった。



タイトル：音のかけ橋プロジェクトin嬉野  
うたのチカラ、君に届け。

期 日：令和8年1月16日 14:05～14:50

会 場：大野原小中学校 音楽室

参加者：小学1年生～中学3年生 30名

※概要は上記同様

大野原小中学校は小学1年生から中学3年生が参加。年齢幅が大きく、どういう反応があるか心配もしていたが、時間が経つにつれ、よく声も出ていた。終盤には中学生もアクティビティに馴染み、全員でアクティビティを楽しむことができた。特に最後の結婚万歳は言葉がわからずとも、とても楽しそうだった。



## コンサート

タイトル：うたのプレゼント 心きらめくオペラの世界へ

期 日：令和8年1月17日 14:00～15:30

会 場：嬉野市社会文化会館リバティ 文化ホール

参加者：107名

広報が遅くなったことこともあり、チケットの売れ行きが伸びず心配だったが、当日にチケットを購入する方も多かった。また、アクティビティに参加していた子どもたちや先生もご家族と来場してくれたり、前日に設営した座席配置はほぼ埋まった。また、コンサートではアクティビティで演奏されなかった曲も披露され、小野寺さんや林さんの演奏や解説を聴きながら会場も盛り上がっていた。オペラを聴く機会はなかなかないので喜ばれたお客様も多かった。



#### ① 応募の動機・事業のねらい

当会館が市直営から指定管理となり、本事業を通じて市民の文化・芸術振興への理解と普及に貢献したいと考えている。特に次世代の子どもたちの自主性・創造力を伸ばすきっかけとして市内小中学校でアクティビティを実施し、クラシック音楽を通じて歴史や語学などについても学び、リバティで行う事業にも関心をもってもらうことを目的としている。

#### ② 企画のポイント

「オペラ」をテーマに小野寺さんの声の持ち味を活かし、耳なじみがある曲からオペラまで間近で演奏・解説・表現することで、「音楽」の楽しさやクラシック音楽に親しみを持ってもらおう。また、衣装や他楽器を用いたり、詩を朗読してから歌唱することでその曲の内容や時代背景も想像してもらおう。

#### ③ 企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

・コンサートの集客

前売り・当日と料金は変わらないが、広報の取り組みが遅かったこともありチケットの売れ行きが当日まで伸び悩んだ。

#### ④ 上記③をどのようにクリアしたか

- ・市内各所にポスター設置、チラシを市内全戸、小中高校の生徒全員に配布した。
- ・アクティビティを実施したクラスの子どもたちへ招待券を配布した。
- ・新聞広告、エフエム佐賀スポットCMを短期間に集中して配信。

#### ⑤ 事業を実施しての成果

アクティビティでは子どもたちが目の前でオペラ歌手の歌声とピアニストのプロの演奏を聴き、その声量の豊かさや、いつも聴いているピアノの音色との違いを体験できたと思う。今後、この体験を機にオペラの世界に少しでも興味を持ってもらえたらと思うし、いろんなジャンルの音楽や楽器に興味を持つきっかけになればと思う。またインリーチでは参加した学校関係者や市職員が、今後行うアウトリーチ事業に関心を持ってもらいたい。

#### ⑥ 事業を実施しての反省点・課題

- ・コンサートについて、チケット販売やポスター、チラシ配布等の周知開始が遅くなり、今後の事業では余裕を持った広報に取り組みたい。
- ・当日券が結構売れたことで、アクティビティを体験したことが集客につながったとも考えられることから、アクティビティ体験者以外の方の集客の難しさを感じられた。これについてはリバティで行う事業に興味を持ってもらい、ファンを増やすことに今後も尽力していきたい。

#### ⑦ 今回の事業を通じて、自身の「町」または「ホール」について改めて考えたこと

アクティビティを通じ、子どもたちに間近で体感してもらおう大切さを感じた。知らなかったこと、興味がなかったことでも学校等へ伺い、目の前でプロの演奏家が行う素晴らしい歌や演奏を体験することで、子どもたちを魅了し、それが家族や友達との会話で広がり、ひいてはそれが市民の文化の向上につながっていくのではないかと考える。

佐賀県の南西部に位置する嬉野市は、お茶、温泉、陶磁器が有名な嬉野町と、古くから長崎街道の宿場町として栄えた塩田町が合併してできた人口約25,000人のエリアである。そのレトロな町並みが魅力的で重要伝統的建造物群保存地区にも認定されている“塩田津”からほど近い場所にあるのが、嬉野市社会文化会館（リバティ）。文化ホールの他にアリーナや会議室などが併設された多目的な施設として、日頃から市民に親しまれている会館だ。

おんかつ事業を機会に、企画・制作のノウハウをリバティ職員で共有していきたいという目的のもと、中島さん、遠藤さん、緒方館長の3名でチームが生まれ、音楽の力で嬉野市民を“Happy”にするためのプロジェクトが始まった。

“嬉野市の子どもたちのために”と大きなテーマを掲げ、小中学校に募集をかけた結果、3つの小中学校がアクティビティ先に決定。ここにいたるまで、まずは緒方館長が、教育長に事業目的やリバティの方針をお話し、その後、校長会にかけて募集を行うという流れであった。この段取りは事業を成功に導くためにとても重要なものであり、この丁寧な対応が功を奏したとも言えるだろう。

さて、アクティビティ先の一つに“大野原小中学校”がある。小学1年生から中学3年生までの全校生徒30名を対象としたものだ。これだけ年齢幅が広いと理解力に差が生じ、プログラムの内容にしてもコミュニケーションの取り方にしても、アーティストにとっては非常にむずかしく、また事業の効果的にもリスクが大きい。では、なぜ実施を決めたのか。標高450mという山間部の学校に通う子どもたちは、自分の力で街に行くことは困難で、音楽に触れる機会も少ない。また、小中一貫校の理念として学年を超えた繋がりを大事にしており、日頃から合同での活動が多いということで、アーティストの小野寺光さんとよく協議を行い、「やってみましょう！」という判断に至った。結果、アットホームな良い雰囲気、年齢関係なくみんなが笑顔になる素敵なアクティビティとなった。

そして、今回、挑戦の一つとなったのが、学校関係者・行政職員に向けたアクティビティである。これから先も事業を継続するためにはどうしたら良いか？とチームで模索を重ね、まずは理解者を増やし、学校との連携を深めていきたいという方針で、実際に子どもたちに行うプログラムをインリーチ形式で教職員に体験してもらった。小野寺さんの明るいキャラクターと巻き込み力で次第に皆さんの心もほぐれ、表情もやわらかに。はじめに遠藤さんからリバティが目指す姿についてお話があった上で、プログラムを通して小野寺さんの想いを体感していただいた。子どもにとってどのような体験が必要なのか、大人たちが考えを巡らせる良い機会にもなったのではないだろうか。

“嬉野市の子どもたちのために”と掲げたプロジェクトの最後を飾ったのは、小学生とその家族をメインターゲットとしたホールコンサートである。1部は、客席から小野寺さんが、ナポリ民謡「フニクリ・フニクラ」を歌いながら登場。小野寺さんにとって思い入れの深い「星めぐりの歌」や「カンツォーネメドレー」など5曲の演奏で、会場はなごやかな雰囲気に。2部はオペラの曲を中心に、ステージ上での早着替えの演出や、曲中に観客が「Bravo」「Viva」を声にする参加型のシーンもあり、多方向から音楽を楽しめる工夫がなされた。コンサートには、アクティビティに参加した子どもたちや先生方もかけつけてくださり、その感想もとても嬉しいものであった。

今回のおんかつを振り返ってみると、“表情の変化”がとても印象的で、はじまる前と後では、参加者一人ひとりの纏う雰囲気がまるで違っていたように感じた。「この時間がずっと続けばいいのに」など純粋な感想も多く聞かれ、ポジティブな気持ちが表情や言葉になってあらわれていたように思う。今

---

回はじめてアウトリーチを体験されたというリバティ職員の遠藤さんも回を重ねるごとに目の輝きが増して、「アウトリーチっていいですね」という嬉しいお言葉があり、今後の事業継続に向けての原動力にもなるのではと感じた。

会館の方は本番を迎えるまでに、各所との調整や手配、広報宣伝などたくさんの業務をこなさなければならず、大変なことも多いが、今回できた繋がりを糧に、嬉野市の子どもたちの笑顔のため、これから先もこのプロジェクトをぜひ継続していただきたいと願う。

実施団体：鹿児島県知名町

実施時期：令和8年2月19日（木）～ 令和8年2月21日（土）

出演アーティスト：北垣 彩（チェロ）山崎 由貴（ユーフォニアム）今田 篤（ピアノ）

## アクティビティ

タイトル：西目（にしみ）っ子と楽しむ音あしび  
～チェロとユーフォニアムの世界～

期 日：令和8年2月19日 10：40～11：25

会 場：上城小学校 音楽室

参加者：全児童 20名

小規模校での音楽室にて全児童を対象に実施。冒頭は少し緊張している様子だったが、新しい楽器との出会いやアーティストの素晴らしい音楽に段々と引き込まれ、自然と笑顔になっていた。また、終了後には、子どもたちから地元の伝統芸能である『西目イシシハカマ踊り』の生演奏と踊りを披露したほか、給食交流も行われ、子どもたちにとって有意義な交流を行えた。教育長にもご見学いただけた。



タイトル：みんなすまいる 音あしび（4歳児編）  
～チェロとユーフォニアムの世界～

期 日：令和8年2月20日 9：50～10：30

会 場：認定こども園すまいる お遊戯室

参加者：4歳児 19名

認定こども園すまいる（4歳児）を対象に実施。普段ホールに来館しづらくクラシック音楽に馴染みが少ないため、初めて見る楽器や演奏に少し戸惑うかと思っていたが、落ち着いた様子でアーティストの演奏やお話を聞くことが出来ていた。また、チェロに触れる体験においても、しっかりとルールが守られていた。これからの担う子どもたちにとって、大変貴重な機会となった。



タイトル：みんなすまいる 音あしび（5歳児編）  
～チェロとユーフォニアムの世界～

期 日：令和8年2月20日 10：45～11：25

会 場：認定こども園すまいる お遊戯室

参加者：5歳児 22名

4歳児に引き続き、5歳児を対象に実施。4歳児と同様にクラシック音楽に馴染みの少ない子どもたちであったが、終始笑顔で楽しんでいた。特に「にじ」を水道ホースなどの創作楽器にて演奏した際には、自発的に子どもたちが島の方言の歌詞で歌い出し、同席していた先生が感極まる光景が印象的であった。改めてアーティストの持つ力の素晴らしさとアウトリーチの大切さを感じた。



タイトル：音あしびで心に癒しを  
～チェロとユーフォニアムの世界～

期 日：令和8年2月20日 16：30～17：15

会 場：おきえらぶ文化ホールあしびの郷・ちな ホール舞台

参加者：役場職員・議員 20名

役場職員と議員を対象に実施。普段ホールに足を運ぶことの少ない職員にもクラシック音楽の素晴らしさを届けたいと思い業務時間内の開催とした。気軽に参加してほしいと思い事前申し込みは行わなかったが、想定を超える皆さんにご参加いただいた。他アクティビティとほぼ同内容で実施したが、純粋に音楽を楽しみ、感謝の声もいただいた。翌日のコンサートにもご来場いただき、新たな仲間づくりも出来た。



## コンサート

タイトル：みんなで音あしびコンサート

～チェロとユーフォニアムの世界～

期 日：令和8年2月21日 18：00～19：30

会 場：おきえらぶ文化ホールあしびの郷・ちな ホール舞台

参加者：町民 130名

私自身が音楽に乏しく、チェロとユーフォニアムのアンサンブルという稀な共演の依頼をしてしまい、アーティストのお二人には大変ご苦勞をかけてしまった。その中で、お二人が様々なチャレンジを行い、初共演とは思えない素晴らしい音楽を来場者にお届けいただいた。また最後には、沖永良部民謡の「永良部百合の花」も演奏していただき、来場者が踊ったり口ずさんだりと、会場一体となってみんなで音あしびコンサートを楽しんだ。



① 応募の動機・事業のねらい

普段、目（耳）にできないアーティストの演奏を聴いたり、体験・交流を通して、今まで音楽に関心を持っていなかった方へも音楽の素晴らしさを感じていただく。特に、島ではほとんど見ることでできないチェロやユーフォニアムの演奏を間近で聴いていただく場の創出を行う。

② 企画のポイント

これまで音楽（クラシック）にあまり関心のなかった方にもアプローチをかけ、音楽や文化に興味を持つきっかけとしたい。ホールに初めて足を運んでくれる方を一人でも増やす。

③ 企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

集客。

④ 上記③をどのようにクリアしたか

町内の様々な店舗へのポスター配布やSNS、学校に協力いただき保護者向けにメール等で周知を行った。

⑤ 事業を実施しての成果

宣伝やアクティビティ実施により、新たな仲間づくりが行えた。

アウトリーチの素晴らしさを改めて感じた。

⑥ 事業を実施しての反省点・課題

未就学児を対象としたアクティビティを行ったが、コンサートにおいては未就学児の入場を不可としてしまった。アクティビティを楽しんだ子どもたちが、おうちの方々と一緒に来場できるようなファミリーコンサートとしての開催も検討するべきであった。（アンケートにも来場したい旨の記載あり）

⑦ 今回の事業を通じて、自身の「町」または「ホール」について改めて考えたこと

ホールの事業に対して、協力してくれるたくさんの仲間がいることを感じた。宣伝の依頼でも快く承諾してくれたり、町中に多くのポスターを掲載できた。Oneチームで取組める環境があることを嬉しく思う。何より島の方々はみんな温かいと再認識させていただいた。

本事業を行うにあたり、地域創造のみなさまに大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

### 《はじめに》

知名町は奄美群島南西部に位置する沖永良部島にあり、現在の人口は約5,300人、距離的には沖縄本島が近いものの鹿児島県に属している。古くは沖縄本島北部との交流が盛んで、17世紀以降は鹿児島（薩摩藩）の直轄領となり鹿児島と沖縄の文化が融合した穏やかな町である。ジャガイモやサトウキビ栽培等の農業が確立され観光地のイメージは少ないものの、近年では多数ある鍾乳洞を探検するケイビングツアーが盛んに行われている。おきえらぶ文化ホールあしびの郷・ちな（「あしび」は遊ぶの方言）は、知名町が直営で管理・運営しており、530席のホールのほかりハーサル室を有している。

今回のおきえらぶ文化ホールあしびの郷・ちなを担当者は坂井輝喜さんと藤崎拓也さん、福井富和さん。アーティストはチェロの北垣彩さんとユーフォニアムの山崎由貴さん。担当の坂井さんが惚れ込んだおふたりとともに町内に改めて音楽の魅力を届ける第1歩といえるような内容であった。

### 《コンセプト》

今回のコンセプトは「みんなで音あしびしましょう」。チェロとユーフォニアム、ピアノという稀有なアンサンブルによる温かく包み込むような演奏をお届けするだけでなく、参加者・来場者に音楽を楽しんでいただく〈音で遊ぶ〉ことを目指した。アクティビティは、小学校1回、認定こども園2回、町役場職員等対象1回で実施することとなった。

### 《アクティビティ》

アクティビティ①知名町立上城小学校：全校児童20名ということもあり全員対象で実施。普段から地元の伝統芸能を学び音楽が身近にある子どもたちで、少し緊張しつつも興味津々でワクワクしている雰囲気が教室内に満ちた中で始まったアクティビティは、終始音楽を心から楽しむと同時に新しい楽器との出会いに驚く子どもたちの様子が見られた。終了後、子どもたちが地元の伝統芸能の演奏と踊りを披露してくださったり、給食を一緒に食べたりと、アクティビティ+αの交流を持つことができた。また、見学された教育長をはじめ町の教育行政に関わる方々もとても感銘を受けられたようで、将来につながるものになった。

アクティビティ②・③知名町立認定こども園すまいる（4・5歳児）：4歳児（19名）、5歳児（22名）を対象に各1回実施。キラキラした瞳と全身で音楽を楽しむ様子が印象的だった。特に5歳児の際に「にじ」の演奏で自然発生的に子どもたちが歌い出し（歌詞は教えてもらっている島言葉）、保育教諭も驚き感極まった様子だった。アーティストが持つ圧倒的な力と子どもたちの純粋な想いが音楽を通して結びつき、あたたかく幸せな空気感が生まれた瞬間に立ち会えたことは制作者としてこの上ない喜びと、ホール公演にはない距離の近さというアクティビティの真骨頂を感じた。

アクティビティ④あしびの郷・ちな：町役場職員対象に実施。他のアクティビティは将来を担う子どもたちやホール公演に来にくい未就学児にも音楽を届けたいということだったが、このアクティビティ④は担当者の坂井さんがこれから知名町で様々な取り組みを実施していく上での仲間探し、仲間作りを目指した。できるだけ気軽に参加してもらえよう事前申込にはしなかったため少し不安があったものの、想定をはるかに超える20名が参加した。内容も子どもたちの追体験をしてもらうために大幅に変えることはせずに実施したが、ある意味子どもたちよりも音楽を楽しみ、心の奥深くまで音楽が染み渡った表情が見られた。町議会議員も参加され、坂井さんにはホールの事業を理解し応援してくれる仲間が

---

見つかったのではないかと思う。

### 《コンサート》

超有名曲のコンサートではなかったものの、チェロとユーフォニアム、そしてアンサンブルの魅力を十分にお届けできた。そもそもチェロとユーフォニアムのための曲は皆無に等しく、おふたりが様々な曲にチャレンジされ、初共演とは思えない素晴らしい音楽に来場者も引き込まれていく様子がまざまざと感じられた。アクティビティに参加した小学生や町役場職員だけでなく、町長や教育長、町立中学校の吹奏楽部員も多く来場し、来場者の約1／3が18歳以下というホールとして理想的な状況であった。また最後にお届けした「永良部百合の花」では最前列と舞台の間にある空間で来場者数名が踊ったり、客席で身体を揺らしたりと舞台と会場が一体となり、コンセプトの通り「みんなで音あしび」するような雰囲気となった。

### 《さいごに》

はじめに知名町おんかつは町内に改めて音楽の魅力を届ける第1歩と述べた。しかし実施後に強く感じたことは、担当の坂井さんをはじめホール職員の方々々が既に町内の様々な人・団体と深いつながりを築いており、そのつながりが今回のおんかつに大きなよい影響をもたらしたという点である。町内のあらゆる店舗に公演のポスターが掲示され（アクティビティでアーティストが「この楽器を見たことある人」という問いに「ポスターで見た」という回答がどれだけ多かったことか！）、他課のSNSや学校の保護者向けメーリングリスト等、今回初めてチャレンジしたPR方法もあったものの、それら全て坂井さんやホール職員の方々のこれまでのつながりがあって実現できたことである。仲間探しのアクティビティで新たな仲間が見つかったと同時に、来場者を含めて身近にいる仲間の再発見の機会にもなったのではないだろうか。おんかつは、担当者ひとりとアーティストだけで実施できるものではなく、ホール職員が様々な役割（舞台、票券、ケータリング準備等）を分担しつつ、地域の人々ともワンチームで取り組んでこそ、その効果は無限大に広がることを知名町おんかつで実感することができた。

今回のおんかつが、坂井さんをはじめホール職員の方々、おきえらぶ文化ホールあしびの郷・ちな、ひいては知名町の文化芸術の振興にとって素晴らしい未来へつながる第1歩であったことを願ってやまない。

実施団体：宮古島市教育委員会

実施時期：令和7年11月14日（金）～令和7年11月16日（日）

出演アーティスト：山崎 由貴（ユーフォニアム） 城 綾乃（ピアノ）

## アクティビティ

タイトル：ユーフォニアムを聴いてみよう in 伊良部こども園

期 日：令和7年11月14日 10：00～10：45

会 場：伊良部こども園 3・4歳児クラス

参加者：3・4・5歳児 38名

最初は大きな音に驚いていた子どもたちでしたが、間近で見るユーフォニアムには興味津々で、段々と楽しんでいく様子が見られ、山崎さんの問いかけにも元気いっぱい答えてくれました。

普段から、太鼓やタンバリンを音楽に合わせて鳴らすことが好きな子も多いとのことで、『幸せなら手をたたこう』では、音楽に合わせて、手や足・おなかをたたき、体を動かしながら音楽を楽しみました。



タイトル：ユーフォニアムを聴いてみよう in 池間小中学校

期 日：令和7年11月14日 13：45～14：30

会 場：池間小中学校 音楽室

参加者：小学生・中学生 14名

離島の小規模な小中学校のためか、子どもたちは初めのうちは少し緊張気味の様子でしたが、山崎さんがホースとじょうごを使って楽器の仕組みを説明すると、驚きを示し、遠慮がちなながらも徐々に受け答えしてくれました。

山崎さんのユーフォニアムとの出会いの話や、夢や好きなことを大切にしてほしいとの話に真剣な様子が印象的でした。終了後、先生からは「普段はおとなしくしていることが難しい子も、演奏中は曲に聴き入っていた」との言葉もあり、子どもたちにとって貴重な体験となりました。



タイトル：ユーフォニアムを聴いてみよう in 宝塚医療大学

期 日：令和7年11月15日 14：30～15：15

会 場：宝塚医療大学 大講義室

参加者：学生・先生 9名

観光学部の1年次のみ宮古島キャンパスで過ごす学生たちは、ほとんどが留学生です。日本語の理解力には個人差があると聞いていたため、やさしい日本語やジェスチャーを交えながらのアクティビティとなりました。

曲のリクエストをしてもらうなどコミュニケーションを深めながら、和やかな雰囲気が進み、参加者は日本の四季メドレーや『ふるさと』などの音色にじっと耳を傾けていました。



タイトル：ユーフォニアムを聴いてみよう in 来間島

期 日：令和7年11月15日 18：00～18：45

会 場：来間離島振興総合センター

参加者：来間島在住者 24名

事前に参加者の調整ができなかったため、参加人数が未知数であったものの、アクティビティ直前に、山崎さんが防災行政無線からお知らせを放送した効果もあり、24名の方が集まってくれました。静かで落ち着いた様子の中、時折リズムをとりながら、熱心に聴いていました。終了後、参加者からは小さな離島での貴重な機会に感謝の声も聞かれました。



## コンサート

タイトル：山崎由貴 ユーフォニアムコンサート

期 日：令和7年11月16日 17：00～18：30

会 場：宮古島市文化ホール（マティダ市民劇場）

参加者：329名（大人173名、学生58名、未就学児38名）

0歳児から入場可能とし、1部：子どもも含めて楽しめる内容、2部：より本格的なクラシックを楽しめる内容のプログラム構成となりました。『にじ』や『宮古島市歌』では、山崎さんの呼びかけで歌い、会場が一体となることを感じられました。

アクティビティをきっかけに来場される方や、アンコール曲『いのちの歌』で涙する人も見られました。終演後、山崎さんと伴奏の城さんのお見送りを実施したところ、多くの来場者が列をなして想いを伝えており、感動的な一幕となりました。



#### ① 応募の動機・事業のねらい

市制施行20周年記念事業として、自主事業を実施したいという思いはあったものの、これまで自主事業の企画制作経験がないため、本事業を通して学ぶ機会とすること、また、市民にクラシックに興味をもつきっかけとなるような公演を提供したいと思い、応募した。

#### ② 企画のポイント

20周年記念事業であることから、アクティビティは幅広い地域・世代を対象とするよう設定した。また、コンサートも全ての世代を対象として0歳児から入場可能とすることで、市民が一体となって20周年をお祝いできる公演にするとともに、クラシックコンサートに馴染みのない方でも楽しんでもらえる内容を目指した。

#### ③ 企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

- ・0歳児から入場可能とすることで、当初はコーディネーターから懸念点が多く難しいのではとの意見があったこと。
- ・アーティスト側とどのように細かい部分の調整をしたらよいか分からなかったこと。
- ・直前までチケットの売れ行きが伸び悩んだこと。

#### ④ 上記③をどのようにクリアしたか

- ・「クラシックに興味をもつきっかけ」のコンセプトがあることから、幅広い世代を対象に0歳児から入場可能とする公演にしたいという思いを汲んでいただき、コーディネーターから2部制の公演とする提案をいただいた。1部を子どもと一緒に楽しめるプログラム、2部を本格的なプログラムとし、更に、1部のみもしくは2部のみのお観賞も可能とすることで、多くの方に参加しやすい公演となったと思う。
- ・小さなことでもコーディネーターに相談して助言を受けながら、マネジメントと連絡を密に取るように努めた。
- ・コンサートにも来て欲しいという思いから、アクティビティの参加者へは招待券を配布することとした。結果的に、多くの方に足を運んでもらうことができた。また、想定以上に当日券の販売が伸び、300名余りの集客となった。

#### ⑤ 事業を実施しての成果

自主事業としてアウトリーチを実施したことがなかったが、どのアクティビティ先も実施先として選定したことを歓迎してくれたため、円滑に調整することができた。アクティビティ終了後も、貴重な機会・体験になったとの感想をいただき、また家族と一緒にコンサートにも足を運んだ参加者も多かったことから、アクティビティの意義を感じることもできた。

長年劇場の委託管理をしている技術スタッフからは、「宮古島でクラシックコンサートの集客は難しい」と話もあり、本番当日まで集客は不安があった。招待客も含めてではあるが、多くの方に来場いただき、また、7割以上の来場者からアンケートを回収できたことや、終演後のお見送りの際に長蛇の列ができたことは、市民の熱い思いを感じることができる公演となった。

コンサートの来場者には未就学児を含め子ども連れが多かったことから、市の意図と合致してクラ

---

シックに興味を持つきっかけとなった手応えを感じている。

⑥ 事業を実施しての反省点・課題

当ホールは市直営ではあるものの常駐するのは委託事業者であり、市担当は普段他の催し物に関わることがないことや、これまで自主事業の企画制作経験がないことから、アクティビティやコンサートのプログラム内容について詳細の要望を出しておらず、アーティストにお任せしてしまったため、大きな負担をおかけしたのではないかと思う。

お願いしていた「クラシックに馴染みがなくても分かりやすい」「ユーフォニアムの魅力が伝わる」「クラシックに興味を持つきっかけとなる」プログラムを構成していただき、山崎さんには感謝の気持ちでいっぱいである。

アンケート結果からも、今後も公演開催を希望する声が多くあり、いかに継続していけるかが今後の課題だと考えている。市職員は人事異動もあるため、ホールの委託事業者とも連携して事業を継続していく体制を検討する必要があると感じた。

⑦ 今回の事業を通じて、自身の「町」または「ホール」について改めて考えたこと

クラシックコンサートに馴染みがある方は少なくとも、アウトリーチといったきっかけや、足を運びやすい内容であれば、来場していただける可能性は大きいと感じた。また、0歳児から入場可能としたことには大きな手応えがあった。

アウトリーチの継続や足を運びやすいクラシックコンサートの定期的な開催は、ホールとしての重要な役割を果たすと思われるため、今後も実施を模索していきたい。

今回のおんかつは、海が身近にあり自然とともに人々が暮らす宮古島市で実施した。宮古島、池間島、来間島、伊良部島、下地島、大神島の大小6つの島からなる宮古島市。2005年に5市町村が合併し、今年度が市制施行20周年の記念すべき年であった。

宮古島市の人口の大部分は宮古島本島の平良地区に集中する。宮古島本島で働き、余暇を過ごす離島の住民も多いようだ。離島の人口減少や高齢化、文化的体験機会の格差が生まれているという状況の中で、今回のおんかつアクティビティを各離島で実施したいという思いが、宮古市文化ホール マティダ市民劇場を管理運営する宮古島市教育委員会生涯学習振興課の友利さん、屋嘉比さんの共通意識としてあった。また、宮古島市は観光業も盛んであり、その業種に従事するために移住する方が、国籍問わず増加しているという背景がある。そのような住民はイベントやホールに足を運ぶことにハードルが高い状況にあるのではないかと、という問題意識も抱えていた。

そのため企画の段階から、市全体として一体感のある雰囲気を作ることを中心に考えていく方向性が固まっていった。まずアクティビティの実施先として、伊良部島、池間島、来間島の3つの離島へ赴くことが決まった。離島ではそれぞれ、伊良部こども園の3・4歳児クラス、小学校と中学校が一体となった池間小中学校の全校生徒、来間島の住民に向けたアクティビティを行った。

プログラムは、日本では「鬼のパンツ」で親しまれる《フニクリ・フリクラ》といった聴き馴染みのある楽曲に、フランク・ブリッジ《春の歌》などユーフォニアムの音色の魅力が詰まった楽曲を織り交ぜた構成であった。その中にマウスピースやピストンの楽器構造の説明を加え、はじめてユーフォニアムを見る、聴く人にとって興味を持てる内容を考えて下さった。今回アクティビティごとに、幼児から年齢の高い層までジェネレーションも幅が広がったが、根本的な構成はそのままに、アクティビティの参加者の年齢層に合わせて、演奏曲目や曲順、話し方やコミュニケーションの時間の量を変えて実施していた。それによってどの回も良い反応が返ってきた。

もうひとつのアクティビティ先としたのは、宝塚医療大学宮古島キャンパスである。宮古島キャンパスは、観光学部1年生が1年間のみ在籍するキャンパスで、隣接する寮で共同生活を送りながら宮古島の地域観光を学ぶ。生徒はミャンマーやネパール、中国などから日本にやってきた学生がほとんどで、年齢層も幅広い。おんかつを実施した11月はちょうどインターンシップ期間と重なる学生の忙しい時期だったが、興味を持つ8名がキャンパスに集まった。

学生たちは日本語を習得する最中にあり、翻訳アプリを用いながらコミュニケーションを取ったり山崎さんの話を聞く学生もいた。山崎さんは「やさしい日本語」を意識した声かけをしながら、ゆっくりと丁寧にコミュニケーションを取る姿が印象的だった。

プログラムには、楽器構造の説明も意図して、マウスピースとホースのみで演奏する時間があった。その際に「何か知っている曲はありますか？」と声をかけると、学生のひとりから久石譲の《Summer》が挙がった。それを即興で山崎さんが演奏すると、ほか何人かも「知ってる」という反応から表情が明るくなっていった。その場でしか起こらない体験を共有し、その時音楽を通して起こる交流はかけがえがなく、ホールを飛び出して地域の中でアクティビティを行うことの意義の一つであると感じた。

最終日のコンサートは、宮古島市制施行20周年記念事業のひとつとして行われた。先述したように、市民全体で一体感を持って市制20周年をお祝いすることが、今回のおんかつが目指すところであった。幅広い層が来場できるよう、子どもから大人までが来場できるコンサートづくりを行った。とはいえ、子どもが楽しめるプログラム構成と、音楽が好きな大人が集中して聴くことができる場づくりを両立することは難しい。話し合いを重ねた結果、二部制で、一部は子どもや親子連れも楽しめる内容、二部はクラシックが好きな方も楽しめる本格的な内容で行うこととなった。結果として、幼児とともにやって

---

くる親子から、音楽に長年触れてきた大人まで、幅広い多くの方が来場した。

ユーフォニアムは、その温かく柔らかい音色から、人間の声に最も近い金管楽器とも言われている。その魅力をふんだんに生かし、コンサートの中で山崎さんの演奏に乗せ、来場者とともに歌う時間を入れることとなった。一部では子どももよく知る《にじ》を、二部では《宮古島市歌》を演奏。子どもの大きく澄んだ歌声に大人の声が重なってホールに響いた。市歌は、担当のお二人曰く子どもの頃学校で歌った曲であり、そのこともあってか、大人の来場者が懐かしみながら歌っていた。その時の会場では、みんなの歌声にみんなが耳を澄ますような一体感があり、その場に居合わせた人たちが同じ体験を共有する、あたたかくも美しい時間であった。第二部の最後には、沖縄にルーツのある作曲家、津堅直弘による《レジェンド》が演奏された。沖縄の風景を想起しながら作られた曲を聴きながら、宮古島市に生きる来場者たちは風景が浮かんだのではないだろうか。

ひとつ課題を挙げるとするならば、コンサートには、宝塚医療大学の学生や外国籍市民は見かけなかった。地理的な条件や勤務の状況なども要因として大きい。情報を得るまでの言語の壁などもあるのかもしれない。そのような社会的障壁を抱える人たちが、どのような方法でならあの場に来ることができたのか、文化芸術を享受できるのか、考えずにはいられない。一方で、アクティビティに参加した離島の子どもたちや来間島の住民の方々も多く来場していた。一度出会って心動かされたものに、数日後もう一度ホールで出会い直す機会があるということは、おんかつ事業の魅力の一つである。

地域の文化を見守り続けるホール、生涯学習振興課として、今回様々な地域や住民と繋がった。その中心となった友利さんは「大変だった」とおっしゃっていたが、アクティビティ先のどこへいっても円滑に進み、コミュニケーションを丁寧にとってくださっていたことが良く分かった。苦労も伴ったこの地域と繋がる経験が、今後の宮古島に更なる一体感を生む芽になるのではないだろうか。

**令和7年度公共ホール  
音楽活性化事業(おんかつ)  
コーディネーター・  
アドバイザーレポート**

「おんかつ」にはご存知のとおりアクティビティとコンサートの大きく2本の柱があります。アクティビティはアーティストから地域の方々へ音楽を届ける一方で、コンサートは地域の方々に音楽を聴きにホールまで足を運んでいただくというベクトルが正反対となる事業を同時に進めなければなりません。それぞれ方向性が異なるため、制作業務も別々に進める必要があります。しかしながら、2本の柱を同時に進めるにあたり、1つの大きな目的、つまり2つの柱の最終的な共通のゴールがあると、アクティビティとコンサートが自ずと連動しやすくなります。そのことが特に実感できたのが、今回担当させていただいた鹿児島県の知名町のおんかつでした。

#### ホール担当者の実体験から生まれた事業目的

知名町は沖永良部島にある2つの町の1つで、人口は5,000人。農業が盛んで自然豊かな環境が魅力的な反面、クラシック音楽の公演に足を運ぶ住民は限られている印象の地域でした。そのような背景のもと、おんかつ担当者の坂井さんが思い描くおんかつの全体の目的は、普段ホールに来られない人やクラシック音楽に馴染みがない人に音楽を楽しんでもらう機会を提供することでした。コンサートのタイトルである「みんなで音あしび」（あしび=遊ぶ、楽しむ）にもその思いが込められていました。坂井さんご自身が、これまで縁のなかったクラシック音楽を生で体感してその魅力を知った経緯から、同じ感動を島の人たちに体験してもらいたいという目的が生まれました。アーティストにチェロの北垣さん、ユーフォニアムの山崎さんのお二人を強く希望されたのも、坂井さんご自身が研修会でのプレゼンを聴いて、2つの楽器の魅力とお二人の人柄に惹かれたことが理由でした。

アクティビティ先についてはいろいろなターゲットに対する候補が挙がり悩まれましたが、今回の事業目的を達成するため、長期的な視点から優先順位をもとに決定しました。またコンサートについては、先述の目的に沿って農業などで忙しい方々や子育て世代の層をターゲットにしました。目的を具体化していく形で事業が進められたことで、アクティビティ先の対象者である小学生や普段ホールと関係が薄い役場職員との繋がりが生まれ、コンサートに来場してもらうだけでなく、ホールにも関心を持ってもらうことにも繋がりました。さらにアーティストが現地入りしてから町のあちこちで島民の方々から声をかけてもらった様子から、コンサートがかなり周知されているのを実感しました。坂井さんが「顔が見える担当者」として、アクティビティ先とのやり取りや、町内での広報活動を懸命に取り組まれた結果が形として見えました。実際にコンサートに来場した多くの方々が坂井さんに話しかけていたのが印象的で、初めてクラシック音楽を聴くという方も多く含まれていました。小規模な地域の公立ホールだからこそ、ホール職員と住民の関係性が重要であると感じたおんかつでした。

#### 地域住民とホールとの信頼関係を築く

幅広い年齢層の地域住民にホールへ足を運んでもらう、ということは想像よりはるかに難しく、定着させ持続させるのは並大抵のことではありません。まずは、ホール自体に関心を持ってもらうことが第一歩ではないかと考えます。そのためにはどうすればよいか——必要なのは地域住民とホールとの信頼関係の構築ではないでしょうか。信頼がおけるシェフが作る料理なら初めてのメニューでも食べてみたいと思いますし、また信頼関係のある美容師が勧める髪型なら新しくイメージチェンジしてみようと思う人も多いはず。ホールでの事業も同様に、信頼がおけるホール職員、強いて言うならば「顔が見える担当者」が企画する公演なら、地域住民が行ってみようかと思うことが期待できます。信頼関係を築くには、地域住民に対し日頃からホールがどのようなミッションをもとに事業に取り組んでいるのかを伝え、また1つ1つの公演の聴きどころ・観どころを企画担当者がチラシやSNS等を通じて分かり

---

やすく伝える、といった積み重ねが必要だと考えます。アウトリーチ活動を通じてホールが地域に向けて発信することも有用な手段の1つです。住民との双方向の関係づくりという意味では、おんかつ事業でのアクティビティとコンサートの両柱を活用することは非常に効果的だといえます。

ホールのミッションとは何か、まちのビジョンとは何かについて考えるきっかけとなるのがおんかつ事業です。おんかつでは、アクティビティ対象者の方々をはじめとする地域住民の方々との関係性を大切にしており、参加者や来場者数だけで事業の成果をはかるよりも、むしろ、どれだけ多くの人たちにアプローチできたかということを重視しています。

コンサート事業において、目にみえる数値的な部分、特に「来場者数の多さ＝成功」に固執してしまいがちですが、集客のためだけに偏向した広報宣伝や、明確な意図のない招待券配布などを行うと、たとえ来場者数が多い結果となったとしても、次回以降につながる成果とはいえません。現状では、ホール設置者である自治体が求める成果と、ホールが目指す成果の間に生じるズレに悩むケースも少なくありません。理想かもしれませんが、ホール設置者である自治体とホール側がともに、地域が目指すビジョンに基づいたホールの役割を考え、それらを地域住民に示すことができれば…と願います。今回の知名町のおんかつでは、議員や役場職員の方々に対しアクティビティ（インリーチ）を実施しましたが、まさに自治体に対してホールの取り組みを理解してもらうための第一歩となったアクティビティでした。今後、どのようにホールと住民の関係性が広がり、発展していくかが期待されます。

## 音楽アウトリーチ事業における訪問先選定の戦略的アプローチ —地域課題の解決とホールの役割—

### アウトリーチは「ホールの外」で行う「ホールの事業」

公共ホールが地域社会においてどのような存在意義を持つのか。その答えの一つが、施設の壁を越え、音楽の力を直接市民に届ける「アウトリーチ（アクティビティ）」にある。しかし、アウトリーチは単なる「奉仕活動」や「無料の移動公演」ではない。それは、ホールが地域課題と真摯に向き合い、新たな信頼関係を構築するための「戦略的事业」である。本稿では、その根幹を成す「訪問先の決定プロセス」について整理したい。

### 訪問先「4箇所」の戦略的意味

おんかつにおいて、1つの地域で4箇所のアクティビティ先を選定することは、地域への戦略的アプローチの起点となる。選定に際しては「地域のセグメント（層）」を多角的に意識することが不可欠である。例えば、次世代育成を担う「学校」、社会包摂が求められる「福祉施設」、多世代交流の拠点である「公民館」、あるいは音楽体験から遠ざかりがちな「未就学児とその保護者」などである。この4箇所の選定プロセスは、ホール担当者にとって極めて重要な「ノウハウ取得」の機会でもある。属性の異なる4つの現場を同時に経験することで、担当者は対象に応じた調整能力やリスク管理、さらには地域ニーズを汲み取る感性を養うことができる。自分たちがどのようなビジョンに基づき、どのセグメントへ優先的にアプローチすべきかを検討する過程そのものが、職員の専門性を高める取り組みとなるのである。

### 企画意図の言語化

訪問先の決定は、単なる事務的な調整ではない。そこには「この事業を通じて何を解決したいのか」という強固な企画意図の言語化が求められる。ホールが主導権を持ち、運営方針と地域の課題を突き合わせて「なぜ今、ここに行くのか」を明確にする必要がある。地域で「子育て世代の孤立」が深刻であれば、訪問先は児童館や保育園。また「伝統文化の衰退」が課題であれば、地元の保存会との連携などのように、重要なのは、選定した4回のアクティビティが単発の「点」で終わるのではなく、一つの共通したメッセージを持つ「線」として機能することである。「解決したいもの」と「アプローチすべき場所」を具体的に合致させることで、アウトリーチは地域課題に対する明確な旗印となり、ホールが地域に対して発信する力強いメッセージとなる。

### 芸術的質を担保するための現場調査

企画意図が固まった後に不可欠なのが、徹底した「現場調査」である。アウトリーチはホールという管理された環境を離れるからこそ、現場の物理的制約を専門的な知見で評価しなければならない。ピアノの状態、残響等の音響特性、空調騒音、そして演奏スペースと聴衆の物理的距離。これらはすべてプログラムの質に直結する。特にこの過程は、将来的にコーディネーターの助言なしで事業を継続するために最も重要な学びの機会となる。現場担当者と「どこで、どのような形で聴かせるのがベストか」を徹底的に議論するプロセスを通じて、ホール職員は芸術的質を担保するための制作力を習得する。アーティストが安心して演奏に集中できる環境を職員自らが作り上げる。この丁寧な準備こそが、地域における音楽体験の価値を決定づける。

---

## アーティストとの共創、企画の「熱」を共有するパートナーシップ

訪問先が決定した段階で、アーティストへの依頼が始まる。ここで肝要なのは、事務的な「出演依頼」に留めず、担当者が練り上げた「企画意図」を熱意を持って伝えることである。「この地域にはこのような課題や特性があり、だからこその施設を選んだ。あなたにはここで、このような体験を共に創ってほしい」という真摯な対話が、アーティストの創造性を刺激する。優れたアーティストは、場の空気や背景にあるストーリーを音に乗せるプロフェッショナルである。彼らが企画の意図を「自分事」として捉えたとき、アウトリーチの質は相乗的に高まり、ホールとアーティストは、地域の課題を共に解決する「パートナー」となる。この共創関係の構築こそが、アウトリーチ事業にとって重要なことである。

## 地域のハブ (Hub) として

アウトリーチにおける訪問先の決定とは、地域社会、ホール、そしてアーティストを有機的に結びつける、高度にクリエイティブな意思決定プロセスである。現状分析に基づいた適切な選定、明確な意図の構築、現場環境への配慮、そしてアーティストとの信頼関係。これらが結実したとき、音楽はホールの壁を越え、住民の心に深く刻まれる。そして、各地で生まれた小さな感動の連鎖は、最終的に「ホールへの信頼感、期待感」へと収束していく。アウトリーチで構築されたコミュニティがホールとの強固な接続点となり、コンサートは、地域とホールが一つになる象徴的な場となる。この好循環を自らデザインすることで、ホールは「地域のハブ (Hub)」として機能し始め、地域にとって「なくてはならない存在」へと変化を遂げる。おんかつ事業を通じて培ったノウハウを糧に、豊かな地域社会の創造に寄与することを切に願っている。

近年、「タイパ（時間対効果）」や「コスパ（費用対効果）」といった価値観が広く浸透し、文化事業においても短期的な成果や数値によって説明を求められる場面が増えている。つまり、私たちは常に「どれだけ生産的であるか」を問われていると言えるだろう。あらゆる分野でスピードが加速している現代において、文化活動、とりわけ芸術はこの流れにどのように向き合っていくべきなのか。その価値はどこにあるのか。三重県鈴鹿市での本事業は、そうした問いを改めて残した機会となった。

三重県鈴鹿市は、製造業を中心とした産業都市として発展してきた一方で、外国にルーツを持つ住民も多く、多文化が共存する地域である。また、地域ごとの環境や生活圏の差も大きく、文化芸術へのアクセスにも偏りが見られる。担当が決まった際は、こうした背景を持つ鈴鹿において、公共ホールが果たす役割は単なる鑑賞機会の提供にとどまらず、多様な人々をつなぐ「場」としての機能を担うことに重きを置こうと考えていた。

今回の設計における合言葉は「鈴鹿市ならでは」であった。これは4月の研修会の段階から担当者の三輪氏が繰り返し強調していた言葉である。そのため本企画では、ホールに来にくい、あるいは来たことがない層と、地域の現実が交差する場所を優先してアクティビティ先を選定し、地域性と対象の具体性を重視した。

第一に、ブラジル人学校（EAS鈴鹿）である。鈴鹿における外国人コミュニティの存在は「多文化共生」という言葉で語られることが多いが、実際には言語の壁や教育制度の違いにより、日本社会との接点が限定的になりやすい現状がある。そのような環境において、音楽が言語能力に依存しないコミュニケーション手段として機能する可能性を強く感じた。また、選曲において南米出身作曲家の作品を取り入れたことは、一方的に文化を届けるのではなく、相手の文化に対する敬意を前提とした「対話」としての音楽体験を成立させる意図があった。

第二に、統廃合が予定されている小学校である。鈴鹿市においては、地域ごとの人口動態の変化により学校統廃合が進んでおり、子どもたちは環境の変化の中に置かれている。今回実施した学校は結果としてホールから最も遠い立地となったが、これは単なる地理的条件ではなく、文化に触れる機会から最も距離がある場所とも言える。こうした環境において音楽が届けられることは、単発の体験にとどまらず、自分たちの地域にも文化が届くという感覚を生み出す契機となる。また、変化の只中にいる子どもたちにとって、音楽を通じた共同体験は、一時的ではあっても安心して存在できる時間と場を提供するものであった。

第三に、緩和ケア施設である。鈴鹿市のように広域で生活圏が分散しており、かつ車移動が主流となる地域においては、身体的な制約により文化にアクセスできない人々の存在が見えにくくなりがちである。そのような中で、ホールに来ることができない人のもとへ音楽が出向くという発想は、公共文化施設の役割を問い直す重要な試みであった。限られた空間の中で、横になったまま音楽に耳を傾ける姿や、ご家族が涙を拭く様子からは、音楽が単なる娯楽や鑑賞対象ではなく、その場の時間の質を変えるものとして作用していることが感じられた。ここでは、音楽が「届けるもの」ではなく、「共に在るもの」として立ち上がっていたと言える。

これらの活動に共通していたのは、音楽を通じて新たな関係性の回路が生まれていくプロセスである。同時に、その実現の裏側には大きな調整負荷が存在した。特に言語の壁は顕著であり、通訳者の確保や多言語対応資源の整理、関係機関との連携など、多層的な調整が不可欠であった。しかし、この過程そのものが関係性を編み直す時間であり、結果として現場には、皆で創り上げていく空気が生まれていっ

---

た。

担当者の強い思いが周囲を動かし、協力者が増えていく様子は、人的ネットワークや信頼関係が地域に残るレガシーとなる可能性を示していた。

本事業の成果は、単なる来場者数では測れない。むしろ、どのような人がそこに集ったのかが重要である。ブラジル人学校の生徒や教職員がホールに足を運んだこと、異なる言語背景の中で身体を通じて音楽を共有した経験、地域の変化の中にある子どもたちとの出会い、そして移動が困難な現場に音楽が届いたこと。これらはすべて、共生社会のあり方が問われる鈴鹿市において、新たな関係性を生み出す契機となった。

一方で、こうした取り組みが単発で終われば、地域の力としては定着しない。重要なのは、そこで生まれた文化的なつながりを日常へとどう接続していくかである。

また、理念だけで走り続けられれば、当然ながら現場は疲弊する。アウトリーチが一般化する中で、それ自体が目的化してしまう危険性もある。持続可能な運営のためには、目的とアウトカムを明確にし、評価と改善を繰り返す仕組みが不可欠である。同時に、個人の熱意に依存するのではなく、組織としての合意形成と体制づくりが求められる。

今後は、アクティビティ先や通訳などの資源の整理、当日の導線やケアに関するチェックリストの整備、リハーサル時間を確保した計画設計、スタッフ配置の見直しなど、運営面の標準化を進めていく必要がある。また、“やりたいこと”と“現実の制約”との間に生じるギャップを前提に、優先順位を明確にしながら関係者と誠実に共有していく姿勢が、持続的な取り組みにつながると考える。

効率と非効率のあいだで揺れながらも、人を動かすのは生産性だけではない。

本事業は、地域資源と届きにくい層の交点に音楽を置き、関係性と次の回路を編み直す試みであった。今後は、この場で生まれた関係や熱量を一過性のものにとどめず、地域に根付く仕組みへと育てていくことが求められる。

### 「笑いあり！涙あり！感動あり！」のおんかつとは

あらためて申すまでもないことですが、おんかつでは、実施団体のご担当者とそのご所属組織の方、アクティビティ先のご担当者、アーティスト（共演者含む）、地域創造の担当者、そしてコーディネーターやアシスタント等、多くの関係者が協働して取り組みます。今年度担当させていただいた愛知県阿久比町でのおんかつを振り返ると、まさに皆様の連携や協力による「みんなで作り上げたおんかつ」だったという思いが浮かびました。実施団体、そして登録1年目のアーティストにとっても、おんかつは初めての経験です。決してスムーズに、予定どおりに運んだわけではありませんが、関わる人一人ひとりがその時点でできることを実践し、試行錯誤し、細部を調整し、全力投球して、気づけば無事本番が終わりました。コンサートのタイトルは「笑いあり！涙あり！感動あり！小野寺さんのわくわくオペラコンサート」。その過程にも、それぞれに笑いと、涙と、感動が（陰ながら）あったはずですが、そこから得られたことを少し振り返ってみたいと思います。

阿久比町のおんかつは、同町教育委員会社会教育課と学校教育課の連携により実施され、当初から町内の4つの小学校にてアクティビティを実施したいという企画でした。阿久比町では近年、子どもたちが増加傾向にあり、小学校側はなるべく多くの児童に体験してもらいたいという希望をお持ちでした。一方で、おんかつのコンセプトである「3つのsmall」（小さな空間、少ない人数、短い時間）を有効に実現するため、2つの課で連携し、小学校との調整を大変丁寧におこなっていただきました。おんかつを通して、子どもたちにどのような体験をしてもらうことが目的なのかをアクティビティ先に伝えていく過程で、ホールを所管する社会教育課と、小学校を所管する学校教育課の、垣根を超えた協力体制は大きな支えとなりました。

ご担当の山本さん（社会教育課）は、バス・バリトン歌手の小野寺光さんをオファーして「楽しい！がいっぱいの音楽体験にしたい」というイメージを企画の中核に持っておられました。個別研修（下見）では、山本さんと上司の方、地域創造の和田さん、サブコーディネーターの古橋さん、そして私を含め、小野寺さんの魅力と山本さんのイメージを公演タイトルでどう表現できるかアイデアを絞った結果、下見終了間際によくタイトルが決定。上述のような楽しげなタイトルが付けられたものの、今度はそれをどう具現化していくのか、アーティストとのやりとりが始まりました。クリエイティブな作業は、予定調和とはいかないもの。演奏曲は決まったとしても、それをどの順番で演奏していくのか。登場シーンはどうするか。子どもたちとコミュニケーションするための適切な言葉選びや道具の使い方は。小野寺さんは直前まで、共演のピアニスト林直樹さんとともに様々な工夫を盛り込んで、プログラムをブラッシュアップされました。

アーティストとご担当者さんの相性や現場の空気感も、素晴らしいパフォーマンスに欠かせません。山本さんは全体研修会での学びをふまえ、アクティビティのアイデアを様々に検討したり、広報の戦略を考えたり、ホール公演の実施体制を組み立てるなど、一つ一つの工程を着実に、丁寧に取られました。準備段階から電話やオンラインミーティングなど、相談を重ねる中で、その丁寧な姿勢に私も巻き込まれていくような感覚でしたが、アーティストのお二人も現場でそれを感じ取られたのだろうと思います。小野寺さん、林さん、山本さんそれぞれに人柄が魅力的なこともあり、現場は緊張しつつも、一丸となっていきました。

小学校では、子どもたちも一緒にオペラ〈カルメン〉のワンシーンを演じているかのような素敵なシーン。そして、コンサートでは歌の魅力にとどまらず、トークにも引き込まれ笑顔のお客様の姿。こうした場面を見るにつれ、アーティストの持ち味を存分に活かしたオリジナルなプログラムになったと感じ

---

ました。今回のプログラムにおける子どもたちやお客様との双方向性は、最終的には現場での細部の調整と、それを可能にするスタッフ間の関係性が支えたのだらうと思います。つまり、今回のプロセスを経てあらためて感じたのは、丁寧な作り込みと、関係者のコミュニケーションの積み重ねが、おんかつにおいては本当に大切だということでした。

終了後の振り返りの時間には、反省点を議論しつつ、アーティストやスタッフからぼつりぼつりと聞かれたのが「楽しかった」「なんだか寂しい気持ち」という言葉でした。おんかつから得られたものを考える時、関係者にこのような感覚が残り、それが次回へのエネルギーにつながる事が大切と考えます。こうした現場に伴走するコーディネーターとは、と聞かれると一言ではお答えできない多義的な役割があると考えていますが、若林朋子氏はコーディネート（coordinate）の語源をもとに「どちらかが一方的に影響を与えるのではなく、相互に作用しあう状況を創り出し、関係性を更新していくことがコーディネートである」<sup>1</sup>と述べておられます。今まで「こうである」、または「こうであるべき」と思い込んでいた関係性を少し、繋ぎ直してみる。そうすることで、より大きな課題に向けて、お互いの必要性を再確認できる。それが可能となるように、現場で連携・協働できる環境づくりに取り組む役割ということなのかもしれません。おんかつの現場が、現在の様々な地域課題を前に、組織内外でお互いの必要性を再確認できるような機会のひとつになれば何よりです。

---

<sup>1</sup> 一般財団法人地域創造（2022）『地域と文化芸術をつなげるコーディネーター インタビューによる事例調査 報告書 変化する地域と越境する文化の役割』、p.30

今回のレポートは、今後おんかつに申し込んでみようとお考えのホール担当者、または申し込んだ後だが実はいまいちおんかつがよくわかっていないというホール担当者、おんかつのアーティストにエントリーしようとお考えのアーティストへのメッセージです。

おんかつとは、地域のホールの担当者が、アーティストと共に学校や地域の施設へ赴き、単なる出前コンサートではなく、クラシック音楽とアーティスト自身に間近で出会うことで、芸術の力を地域に届け、今後のホール事業の活性を見据えたコンサートを企画し、クラシック音楽を媒介に地域振興を目指す事業です。

またアーティストの視点から言えば、おんかつとは、普段のコンサートとは別の視点で演奏、観客との関係を見つめ直す機会。アクティビティは単なる出前コンサートではなく、自分の演奏を聴きにきた観客ではない人たちに、自分にとっての音楽、芸術とは何かを手渡し、分かち合う機会です。そしてコンサートは、そのホールの歴史、その地域に住む人たちの人生に立ち会い、感動を共にする時間です。

これが私がコーディネーターとして目指しているおんかつの姿です。ホール担当者にとってもアーティストにとっても、簡単なことでは無いでしょう。そして、いくら過去の事例や地域創造の担当者、コーディネーターからのアドバイスがあっても、ホール担当者、アーティスト共に、自ら進んでいかないけないことです。周囲のサポートとしてできることは、ご自身で進む道を見出すきっかけを作っていくことだけです。

今年度のおんかつはピアニストの三原未紗子さんと静岡県の藤枝市民会館へと参りました。アクティビティ先は小学校2校、オルタナティブスクールの小中学生、高校のウィンドオーケストラ部でした。三原さんは今年度が1年目でしたがアウトリーチのご経験もあり、小学校でのアクティビティはとても良い時間となりました。オルタナティブスクールの子どもたちはホールの舞台上で間近にピアノを聴いてもらいました。基本的には小学校と同じプログラムでしたが、低学年からの幅広い年齢と舞台上という慣れない環境もあり、小学校の音楽室と同じように全員が集中して聴いてもらうことはできませんでした。特に低学年の子どもの集中力を持続させるのはかなり難しいのですが、子どもたちにとって貴重な時間を作れたとは思います。その日の夕方の高校のウィンドオーケストラ部にもホール舞台上で小学校と同じプログラムを予定していたのですが、昼間のオルタナティブスクールの子どもたちの反応を経て、三原さんがプログラムを大幅に変更しました。低学年の子どもたちの反応から高校生へのプログラムを変更することは一見関連がないように思えるかもしれませんが、三原さんがプログラムを変更した理由は、より相手に向き合わなくてはいけない、ということに気づかれたからでした。そして三原さんは、ご自身の音楽との向き合い方、楽曲、演奏への思いを、素晴らしい演奏と共に高校生に伝え、アクティビティが終わった後に高校生たちがなかなか帰らずに三原さんを囲み感動を伝え交流する姿は、もはや説明のいらぬ結果となりました。コンサートにもクラシックファンからアクティビティで出会った子どもたちがホールでアーティストの本気の演奏に心動かされ、このホールがあるこそその時間となり、アクティビティ先探しや集客に最後までご苦労されたホール担当者の堀井さんの粘り勝ちでした。

アクティビティのプログラムは、アーティスト自身が自分の芸術性に基づいて積み上げていくしかありません。アーティストにアドバイスをする時は、それはあなたではなくてはいけないプログラムですか？と問いかけます。作曲家の思いや楽曲の解説は、あなたではなくても伝えられます、ただ、作曲家の思いと楽曲にどう向き合っているのかはあなたしか伝えられません。それをどう伝えるかはあなた次第です。これは音楽に限らずアーティストが学校や地域に行く理由です。アーティストと先生の違いは、先生というのはどの先生がどう教えても同じことを伝えなくてははいけないという側面があります。ぜひアーティストには、先生にはならず、あなたしか伝えられないことをあなたしかできない方法で伝え

---

てほしいと思います。

そして実はホール担当者にも同じことが言えます。あなたから見える地域、おんかつを通じて、ぜひそこと向き合ってください。あなたから見える地域から、どんな未来が生まれるか。ホールの仕事というのはそんな夢がある仕事だと思います。誰がやっても同じ未来というのはありません。あなたと一緒に地域の未来を見たい、それはコーディネーターだけでなくおんかつに関わる全ての人の思いです。

さあ、ぜひおんかつへ。

今年度も公共ホール音楽活性化事業では10地域での事業が無事終了し、各地でオリジナリティあふれる企画が実施されました。4月の研修会から練っていた企画をブラッシュアップして実施した地域もあれば、関係者との議論やさまざまな調整を行って方向転換をし、新たな企画に取り組む地域もありました。どちらに優越があるわけではなく、企画実施においては、ひらめきを勢いよく組み立てていく時間と一度立ち止まって企画を深掘りし、言葉を作っていく時間の双方が重要なのだと考えます。特に、おんかつは、各地域でそのホールならではのオリジナルの企画を創り上げることが求められています。地域にある資源とアーティストの魅力を掛け合わせて企画を生み出す力は、担当者手腕にかかっています。また、公的な事業として実施する上で、企画者個人の視点だけではなく、ホールの設置者である自治体や所属組織の中で、その事業はどのような位置づけでどのような目的で実施するのか、地域の方にその事業の必要性を明瞭に説明できるか、という視点は不可欠となります。

今年担当させていただいた岐阜県高山市は、4月の全体研修会に多賀さん・坂井さんがおふたりで参加され、全体研修会時点から「地域福祉」に着目した企画を考えました。

高山市おんかつの拠点となったこくふ交流センターは、国府町まちづくり協議会によって管理運営されています。高山市市役所のホームページによると、まちづくり協議会は、市と協働し、地域課題の解決に取り組むことが明記されており、多賀さん・坂井さんは地域課題とそれに対しおんかつでできることを当初から関連付けて考えていたことが印象的でした。

また、国府町まちづくり協議会では、高山市国府町が目指す将来像として「第3次国府町協働のまちづくり計画（2025-2034）」が打ち出され、①だれもが心豊かで安全に安心して暮らせるまちづくり、②子どもから高齢者までゆるやかにつながり活気ある地域コミュニティづくりの二つの基本方針のもと、地域防災、地域福祉、地域交流、地域活性化の4つの柱が示されています。そして、今回のおんかつで着目した「地域福祉」の項目はさらに高齢者福祉、障害者福祉、子育て・教育の3つに分類され、アクティビティ先については障害者福祉施設、高齢者福祉施設、不登校児に向けたアクティビティを行うこととなりました。

コンサートについても、このまちづくり計画の基本方針を咀嚼し、ホールでできることを具体的に落とし込んだ内容となりました。多賀さん・坂井さんがオファーしたアーティストはユーフォニウム奏者の山崎由貴さん。ユーフォニアムのあたたかい音色と楽しそうに演奏する山崎さんの姿に惚れ込み、山崎さんを冬の高山市にお招きし、音楽とともに笑顔やぬくもりをお届けしたいと考えました。また、雪深い冬の季節に、コンサートをきっかけに外出し、アーティストと地域の方々が、そして地域の方どうしが交流する時間が持てるよう、ハワイエではおしゃべりマルシェを開催し、ドリンクやお菓子、ベーグルなどの販売も行いました。公演当日は130名の方にご来場いただき、コンサートに続く終演後の時間も笑顔があふれ、来場者の皆さまが心から楽しまれている様子がうかがえました。さらに、アンケートは113名からご回答をいただき、内容も総じて好意的な評価が多く寄せられ、企画者の目指した方向性が確かな成果として表れたと感じました。

高山市で注目すべき点は、担当者の熱意だけに頼った事業運営ではなく、このように自治体や組織目標をうまく反映した企画立案と、関係者とのチームワークであったと思います。アクティビティ先やアーティストとの打ち合わせにおいて、組織で取り組む意義と企画への想い、そして、アーティストとの協働について、自分たちの立ち位置を俯瞰し、この企画でどのような結果を想像しているのかを熱量をもって具体的に話されていたことが、ホールの職員だけでなく、アーティストや他の関係者を巻き込み、チー

---

ム力と企画をより強いものにしたのだと感じます。

事業終了後、アーティストを含めて今年度の事業の良かった部分や改善点について意見交換をしますが、その時の事業担当者の言葉から、初めての事業へチャレンジやアーティストを含めた大所帯のチームを率いていくことへの不安、そして、公演を成功させることに対し、私たちの想像以上のプレッシャーを感じていらっしゃることを実感します。ひとつの生ものの事業を運営していくには、企画立案・アーティストとの交渉・広報・制作・本番実施・事業の効果検証などのさまざまな要素をクリアしなければなりません。だからこそ、今後アウトリーチ事業を継続的に取り組んでいくのならば、おんかつをきっかけに多くの協力者や仲間をつくり、無理なく持続できる方法を模索していただきたいと思います。そのために、各事業において、組織全体から見た事業の役割や目的を整理し、関係者や地域の方になぜこの事業に取り組むのか、その結果どのようなことが期待されるのかについて明瞭に説明できるよう、組織的な視点で言葉を尽くしていくことが必要です。

高山市はもちろんですが、今年度このおんかつ事業に取り組んだ各ホールにおいて、今年度の取組みを足掛かりとして、仲間を増やし、継続的に事業が展開されていくことを楽しみにしております。

おんかつでは実施団体の担当者やアーティストと共に、創造性豊かな地域づくりに寄与するためにアウトリーチを通して何ができるのかを考えています。おんかつ以外にも市町村連携事業、障がい者関連事業や地域人材育成事業など、令和7年度に新設された様々な事業の現場に関わりましたが、改めて関係づくりの重要性を感じたこの1年。その中で思ったことは、アウトリーチはホールの事業担当者とアーティストとの共創であってほしいということ。考えのきっかけであり、対話のきっかけであり、コミュニケーションをせざるを得ない状況を作り出せるのがアートの力です。音楽を「届ける」だけでなく「関係づくり」のアウトリーチであってほしい。それぞれの専門性がある中で、アウトリーチ先の担当者も含めて住民・地域が様々な関係性を築いていける場にするために何ができるかをとことん考えてほしいのです。

一般的に音楽アウトリーチは、アウトリーチの原点でもある「音楽をより多くの人に届けたい」ということもあり、演奏家が学校や施設を訪ね、演奏を披露する形で良しと捉えられがちですが、果たしてそのアプローチだけで充分なのでしょうか。地域創造では参加型のプログラムも盛り込むなど、地域住民や子どもたちが主体的に関われるよう、アーティストと対象者が双方向で関われるプログラムを目指しています。例えば学校訪問の場合、演奏を聴かせるだけでは一方通行（アーティスト⇒子どもたち）で終わってしまいますが、そこで重要になるのが、相手が能動的に参加していると感じてもらえることです。アーティストが子どもたちへの言葉（投げかけ方）を工夫したり、身体でリズムや振動を感じてもらったり、何かを想像しながら聴いてもらったりすることで、聴く側が主体的に関われる場が生まれるよう趣向を凝らしています。実際おんかつ事業に取り組むホール担当者も、アウトリーチを受け入れる施設の担当者も、現場を見て「アウトリーチとはこういうことなのか！」と認識を改める方も多いのではないのでしょうか。

このようなアウトリーチの取り組みを支えるのが、ホール担当者の「関係づくり」です。どんな地域（コミュニティ）に、どんな背景の住民がいて、どんな時間を望んでいるのかを、現場の環境や状況を丁寧に読み取り、アーティストと共有することが肝となります。地域創造のアウトリーチは、プログラムそのものも重要ですが、その前段階の準備と対話が非常に大切なのだと思っています。対話の目的は“妥協”ではなく“共感”を生み出すことです。互いの立場を理解し合う過程で、アーティストと対象者のより良い出会いの形を探るそのプロセス自体が、アウトリーチの本質的な価値でもあり、その結果、音楽の持つ力がより深く共有されるのではとも思います。

アウトリーチの現場では、アーティストと受け入れ側の双方に異なる言葉と価値観があることが多いです。アーティストは音楽的な完成度を重視し、学校や施設側は教育的・福祉的效果を求めがちです。その両者の間で目的をすり合わせるのが、ホール担当者の重要な仕事で、いわば「音楽」と「社会」をつなぐ役割を担っています。ただ聴いてもらうだけではない時間づくりをアーティストが求めている中で、事前の打ち合わせで、アーティストとアウトリーチ実施先の意図を丁寧に共有し、最終的にはアーティスト・実施先双方にとって印象深い体験となるよう目指していくわけです。このような調整の積み重ねこそ、アウトリーチの質を高める礎となるのではないのでしょうか。

こうした対話と関係づくりの積み重ねは、やがてホールを地域文化の中心、あるいは地域にとってなくてはならない存在へと育てていきます。音楽を介した関係づくりにより、ホールが単に公演の場であるだけでなく、地域の人々や教育機関、福祉施設などをつなぐ節点（ハブ）として機能してほしいのです。アウトリーチの成果を「動員数」や「満足度調査」だけで測るのではなく、「関係の深まり」や「次

---

の協働の芽」で捉えることが重要です。小さな活動でも、関係が続けばそれは地域に文化的な持続力を生み出すでしょう。アウトリーチの本当の成果は、「誰が聴いたか」「誰に届けたか」の先の、「どんな関係が生まれたか」にあります。対話を通して関係を編み、信頼を育むことが、地域の文化を長く支える土台となります。ホール担当者はその最前線に立ち（あるいは地域住民と一緒に考えながら進めていくのもよいかもしれません）、音楽（アート）による地域社会をつなぐ関係づくりの実践者です。

地域のホールが果たすべき役割は、単に“音楽を鳴らす場所”ではなく、“人と人が響き合う場所”を創り育てることにあります。アーティスト、学校、地域住民、行政——そのすべての間に立ち、対話を重ねながら、音楽の響きとともに人の心が動く瞬間を、地域の中で創出し育て続けていってほしいと願います。

2025年度のおんかつでの現場の視察は、三重県の鈴鹿市にお邪魔しました。F1日本グランプリが開催される鈴鹿サーキットで有名な鈴鹿市は、本田技研工業をはじめとして大規模な製造業の工場が置かれている約20万人の都市です。おんかつの実施主体はハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿（鈴鹿市文化会館）で、アーティストはチェリストの北垣彩さん。アクティビティの現場は小学校が2校と病院、そしてブラジル人学校の4カ所で、私はブラジル人学校と公立小学校の2カ所のアクティビティを視察しました。

### 音は空気の振動で、音楽は心の振動だ

ブラジル人学校でのアクティビティは、文化会館でアウトリーチを担当した三輪さんから、年度当初のおんかつの全体研修会でも「鈴鹿市には大きなブラジル人コミュニティがあって、その人たちに母国の音楽を届けたい」という強い思いを聞いていました。日本語だとコミュニケーションが難しい方もいるため、（公財）鈴鹿市国際交流協会の塚本さんに北垣さんのMCの通訳を協力していただき、朝10時からコンサート。ブラジル人学校には3歳から18歳までの子どもたちが通っていますが、コンサートを体験したのは高校生たち。サンバやボサノバといった音楽文化のあるブラジル人の若者だから、きっと音楽を聴くと踊り出す子もいるんじゃないかと思いきや、すごく集中して聴いている様子でした。北垣さんのトークに対してもしっかりと耳を傾けて返事をしたり頷いたりして、北垣さんの思いが、彼ら彼女らに直接届いているように感じました。

午後の公立小学校の6年生を対象としたアクティビティでも、集中して音楽を聴いている様子は先のブラジル人学校と共通していました。私は午前と午後の2つの学校で、子どもたちの様子を後ろから見ていたのですが、ブラジル人学校の高校生にも、日本人の小学6年生にも、とてもよく聴いているオーラを感じる子が何人かいました。チェロを演奏している北垣さんに視線を向けるために上半身を右か左に傾けて、しかも前傾姿勢で、集中して聴いていました。「集中」というよりも「没入」と言う方が正確だと思います。ああ、いま、この子の心は振動しているな、響いているんだなと思いました。

小学校での最後の曲で、北垣さんは「みんな、もっと近くに来て聴いてくれてもいいよ」と言ったことで、手を伸ばせばチェロに触れるくらいの至近距離で子どもたちが聴いていました。子どもが演奏家とこんなに物理的に近くで音楽を聴くことはめったにないことで、音の振動を体で感じるができます。「音」は「空気の振動」ですが、「音楽」は「心の振動」だと私は思います。その音楽を媒介として、人から人へと心の振動が伝わるものだというのを改めて実感したアクティビティでした。

### 外国人でも日本で「普通の暮らし」を

最終日のコンサートの前に、通訳で協力していただいた国際交流協会の塚本さんに話を聞きました。鈴鹿市には1万人を超える外国人（100人に5～6人）が暮らしていて、ブラジルの国籍が最も多く3,108人（2025年10月末時点）だそうです。2000年代から急増しており、多くの方は市内の工場に勤務して、地域産業を支えています。また、親の移住に伴って幼少期に来日した方や、日本で出生して成長した方もいます。

そうした外国人でも日本で「普通の暮らし」を実現することを国際交流協会は目指して、文化会館の一室に事務所を置きながら、言語や文化の異なる土地で生活する外国人の様々な相談を受けています。また、在住外国人も文化会館を貸館として利用することは珍しいことではなく、誕生会や結婚式といったパーティーでよく使われているそうです。

国際交流協会の事務所が文化会館に置かれたのは2年前で、そのときに塚本さんは、文化会館の事業

---

担当である三輪さんと出会ったそうですが、企画を一緒にしたのは今回のおんかつが初めてで、とても貴重な機会でした。地域では異文化に触れる機会はまだ多くはない状態で、ブラジル人学校では日本人との交流が少ないため、「学校内や家庭内だけでは世界が狭くなってしまいますので、もう少し日本人と接触したり、日本の文化に触れさせたりすることができるといいなと思っていました」と塚本さんは言います。

## 「共存」から「共生」への進化

学校や職場など、身近な場所に、異なる言語や文化の人が「一緒にいる」という「共存」するコミュニティから、緊密なつながりを保ちながらお互いに「必要としあう」という「共生」するコミュニティへと進化するために、音楽—つまり、人から人へ、心と心の振動を伝える手段—は必要とされて、地域社会に力を与えてくれるのかもしれません。

文化会館でのコンサートは、まさにそれを体感させてくれていました。2日間で4カ所の訪問先でおそらく出会っていたであろう、ブラジル人の子どもたち、小学生たち、病院に通院する方たち（車椅子の方や杖をついて来られた方も見かけました）と家族の方や付き添いの方が、音楽愛好家の方と同じように文化会館のホールに一堂に会して、「すずかで世界の音楽会」と題したコンサートを楽しんでいただけました。鈴鹿というまちが、世界全体の多様性の縮図であると同時に、その異文化や多文化が「共存」するまちから、「共生」するまちへと進化するプロセスを見せてくれたと思います。



**第2部**  
**令和7年度公共ホール**  
**音楽活性化支援・**  
**市町村連携事業**

---

# 令和7年度公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業 実施概要

---

## 1 事業趣旨

公共ホールの活性化と地域の音楽分野における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりへの寄与、ほかの市町村の公共ホールと連携した事業の実施により公共ホール間の連携について考え学ぶ機会の確保及び公共ホール職員等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、公共ホール音楽活性化事業又は公共ホール邦楽活性化事業を過去に実施した市町村等との連携による地域での研修会、クラシック音楽又は邦楽の公演事業及び地域交流プログラムを実施する。

## 2 実施内容

### (1) 実施団体 1 地域5 団体

#### ① 幹事団体

公共ホール音楽活性化事業又は公共ホール邦楽活性化事業を過去に実施した市町村等（特別区を含み、政令指定都市を除く）。ただし、公共ホール音楽活性化事業、公共ホール邦楽活性化事業または地域創造の他の共催事業を原則として10年以内に実施していること。

#### ② 参加団体

原則として幹事団体の近隣に存する市町村等（公共ホール音楽活性化事業及び公共ホール邦楽活性化事業の実施の有無は問わない。）

### (2) 事業内容

#### ① 全体研修会（幹事団体が企画・実施）

日時：令和7年4月30日（水）、5月1日（木）

場所：前沢ふれあいセンター、岩手県立前沢高等学校、西和賀町立湯田中学校、西和賀町文化創造館

開催地の実施団体担当者等を対象とし、事業の概要説明や事例紹介、下見研修を行った。

#### ② 地域交流プログラム（アクティビティ）

日時：令和7年9月10日（水）～10月2日（木）

場所：実施団体各所  
p.85～事例紹介参照

#### ③ 公演（コンサート）

日時：令和7年9月20日（土）

場所：前沢ふれあいセンター

幹事団体が参加団体と合同で実施。地域交流プログラムを実施するすべてのアーティストが参加した。

#### ④ 実施報告会（幹事団体が企画・実施）

日時：令和7年10月3日（金）

場所：前沢ふれあいセンター

幹事団体から本事業の総括と参加団体それぞれからの報告があり、成果を共有するとともに次年度の方針などを検討した。

## 3 経費負担

実施団体が支出した上記3の事業に係る経費については、次の（1）及び（2）のとおり地域創造が負担する。

ただし、別紙に定める負担金対象経費以外の経費及び実施団体が前項に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した超過分については、各団体の負担とする。

### (1) 幹事団体

幹事団体が支出した全体研修会、公演、地域交流プログラム等の事業実施に係る経費のうち、負担金対象経費（限度額150万円（税込））の2分の1以内

### (2) 参加団体

参加団体が支出した公演、地域交流プログラム等の事業実施に係る経費のうち、負担金対象

経費（限度額100万円（税込））の2分の1以内

#### 4 主催・共催等

主 催：開催地の地方公共団体等

共 催：一般財団法人地域創造

制作協力：一般社団法人日本クラシック音楽事業協会

#### 5 実施団体

都道府県	幹事団体	市町村	実施団体 実施会場	実施会場	アーティスト	日程
岩手県	◎	奥州市 (おうしゅうし)	(一財)奥州市文化振興財団	前沢ふれあいセンター	野尻小矢佳 加藤直明 新崎誠実(伴)	9/18(木)～9/19(金)
		北上市 (きたかみし)	(一財)北上市文化創造	北上市文化交流センター さくらホール feat.ツガワ		9/12(金)～9/13(土)
		一関市 (いちのせきし)	(特非)一関文化会議所	一関文化センター		9/16(火)～9/17(水)
		釜石市 (かまいしし)	釜石まちづくり(株)	釜石市民ホール TETTO		9/23(火)
		西和賀町 (にしわがまち)	西和賀町教育委員会	西和賀町文化創造館 銀河ホール		10/1(水)～10/2(木)
					9/10(水)～9/11(木)	

○全体研修会：令和7年4月30日(水)～5月1日(木)

○実施報告会：令和7年10月3日(金)

幹事団体の奥州市が実施。



**令和7年度公共ホール  
音楽活性化支援・  
市町村連携事業  
事例紹介**

実施団体：(一財)奥州市文化振興財団 前沢ふれあいセンター (幹事団体)  
 全体研修会:令和7年4月30日(水)～5月1日(木)  
 アクティビティ及びコンサート:令和7年9月18日(木)～20日(土)  
 実施報告会:令和7年10月3日(金)  
 出演アーティスト:野尻 小矢佳(パーカッション) 加藤 直明(トロンボーン)  
 新崎 誠実(ピアノ)

## 全体研修会

タイトル：令和7年度 公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業 全体研修会

期 日：令和7年4月30日～5月1日

1日目13:15～17:00 2日目10:30～15:00

会 場：1日目：前沢ふれあいセンター

2日目：西和賀町文化創造館

参加者：実施館ほか 17名

アクティビティ実施前の2日間に渡る全体研修会。アウトリーチ初という会館もあることから、下見の際の注意事項を確認し、実際に学校へ出向きレクチャーするといった内容。活発に質問・意見が出された。お互いの安心のために円滑な意思疎通を行い、アーティスト・学校(担当の先生)・各館担当者間によるコミュニケーションをしっかりとることが大切だということを改めて実感する研修となった。



## 研修スケジュール

4月30日(水)

時間	会場：前沢ふれあいセンター、岩手県立前沢高等学校
13:15～13:30	あいさつ、自己紹介
13:30～14:20	概要説明 (一財)地域創造
14:20～15:00	事例紹介 野尻小矢佳(おんかつ支援事業アーティスト)
15:00～15:15	質疑応答
	移動(15分)
15:30～16:45	岩手県立前沢高等学校で下見研修
	移動(15分)
17:00～17:20	振り返り、質疑応答、翌日の予定について

5月1日(木)

時間	会場：西和賀町立湯田中学校、西和賀町文化創造館
11:00～12:00	西和賀町立湯田中学校で下見研修
	昼食休憩(60分)
13:00～14:30	西和賀町文化創造館で振り返り

## アクティビティ

タイトル：クラシック・楽器の魅力を知ろう！

期 日：令和7年9月18日 9：15～10：00

会 場：奥州市立前沢小学校 音楽室

参加者：4年1組 31名

元気いっぱいのクラスで、みんなが普段見ることのない楽器にふれ、目を輝かせながら見聞きしている様子うかがえた。曲の特徴や楽器の特徴・魅力を知ることにより、より一層、聴くという体制が整い、知らない曲がほとんどである中、各々が自由に楽しみながら音楽にふれている様子うかがえた。

タイトル：クラシック・楽器の魅力を知ろう！

期 日：令和7年9月18日 11：10～11：55

会 場：奥州市立前沢小学校 音楽室

参加者：4年2組 31名

1組と同じく元気いっぱいのクラス。クラス全員でクラシック音楽やトークを楽しんでいる様子うかがえた。各楽器の紹介コーナーでは楽器の魅力や曲の魅力を知り、そしてボディーパーカッションコーナーでは児童の元気が存分に発揮され、クラシック音楽のリズムを楽しんでいた。

タイトル：クラシック・楽器の魅力を知ろう！

期 日：令和7年9月18日 13：20～14：05

会 場：奥州市立前沢小学校 音楽室

参加者：4年3組 32名

1組や2組と比べると比較的落ち着いているクラスであったが、演奏者と交流していくうちに緊張が解れてきたのか、中盤以降は各々が楽しそうに音楽にふれている様子うかがえた。始めと終わりで子どもたちの反応が変わるのもアウトリーチの醍醐味であり、徐々に笑顔になっていく子どもたちを見れる微笑ましい時間であった。

タイトル：クラシック・楽器の魅力を知ろう！

期 日：令和7年9月19日 10：00～11：00

会 場：前沢ふれあいセンター ホール 舞台上

参加者：前沢ふれあいセンター定期利用団体 15名

当初は市役所の担当課や教育委員会の職員を対象にした模擬アウトリーチを実施予定であったが、議会対応期間中となったため、急遽、当館定期利用団体向けインリーチに切り替えた。

前沢では10月は文化祭等が行われていたこともあり、インリーチは文化の秋の前哨戦という位置付けで実施した。目を輝かせながら楽器や音楽を存分に楽しんでいる姿に、音楽は年齢など全く問わずに無邪気に楽しめることを改めて実感した。



## コンサート

タイトル：ふれセン35周年・MAESAWAクラシックサロン15周年  
セレブレーションコンサート

期 日：令和7年9月20日 14:00～16:00

会 場：前沢ふれあいセンター ホール

参加者：121名

当館の周年記念を冠して開催したガラコンサート。普段のクラシックコンサートでは味わえない進行・そしてアンサンブル。非常に素晴らしい内容で、この日のために作曲された新曲も披露していただき、至福のひと時を味わえたのではないかと思います。

なお、運営面において人手不足だった。本事業は連携事業ということもあり、連携館に協力をお願いをした方が良かったのでは、などの反省点が挙げられた。



## 実施報告会

タイトル：令和7年度 公共ホール音楽活性化支援・市町村連携  
事業 全体報告会

期 日：令和7年10月3日 10:00～12:45

会 場：前沢ふれあいセンター 研修室

参加者：参加館ほか 16名

各実施館・団体から実施内容を報告していただいた。良い点・苦勞した点・改善点など参加者で共有することができ、今後の実施をより良いものにしていきたいという意識が感じられる非常に有意義な研修であった。実際に集まることで行われる言葉を交わしてのやり取りは、参加館同士のコミュニケーションの場ともなり、実施必須である事を再度実感した。



#### ① 応募の動機・事業のねらい

岩手県での連携は、北上・大船渡・前沢から始まっており、主には北上市さくらホールが幹事館となって動いている事から、今回この事業を通じて、他館でも幹事館となり実施出来るノウハウを学ぶ機会として、応募することとなった。

他にも、岩手県各地でアウトリーチを行う仲間（会館）を増やしていければという目的もあった。

#### ② 企画のポイント

幹事館として新規に事業を共にする会館のサポートをしつつ、その地域でしか出来ない事業展開を情報共有しながら実施に向けて取り組んでいく。

当館のアウトリーチとしては、クラシック音楽や楽器の魅力を届けることはもちろんのこと、聴き手の育成も視野に入れて実施会場の選定を行っている。

#### ③ 企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

当館の事情であるが、人事異動で担当者が変更になった。後任の者はアウトリーチの経験、支援事業経験はあるが、今回の事業の把握が不十分であり、そのような状況で取り組まなければならなかったことが一番の問題であった。

#### ④ 上記③をどのようにクリアしたか

目の前にある課題を1つ1つ確実に、当館の職員で連携しながら進めていった。

#### ⑤ 事業を実施しての成果

自分ともう一人の担当者がこの事業をとおして「連携の強み」をより実感出来たのではないと思う。

#### ⑥ 事業を実施しての反省点・課題

⑤でも上げているように「連携の強み」を実感出来たのは、実際は幹事館として連携がきちんととれていなかったから逆に「連携の強み」というものを痛感した。幹事館として、他館・団体の進行状況に目をもっと向け、コミュニケーションをとり、当館も他館に頼れるところは頼るべきであった。

#### ⑦ 今回の事業を通じて、自身の「町」または「ホール」について改めて考えたこと

今回、幹事館という立場を担い実施させていただいたが、きちんとしたノウハウがあったとは言い難い。自身で解決しなくてはと思うこともあるため、本事業をただ参加館として実施したのではなく、幹事館の立場で実施し、連携としての課題が見つかったのは今後も本事業を進めるにあたり必要なことであったと考えている。本事業に限らず、連携やコミュニケーションを職員間・他館・地域の方々と綿密になることにより、より地域に根ざした事業が展開出来るのではないかと。

#### ⑧ 今回の事業を通じて、地域間の連携について改めて考えたこと

⑥でも上げているように、コミュニケーションがもっと必要であると考えている。報告会でも話が出ているが、実施前の研修会・実施後の報告会だけではなく、事業開始前の実施状況を共有する為の報告会もぜひ実施していけるよう、そして、お互いがSOSを出せる関係になれるよう、今回、幹事館を体験して実感した事である。互いに何でも言い合える間柄になれば、文字や形だけの連携ではなく、素晴

---

らしい地域間連携が出来るのではないかと思う。

実施団体：一般財団法人北上市文化創造

実施時期：令和7年9月12日（金）～令和7年9月13日（土）

出演アーティスト：野尻 小矢佳（パーカッション） 加藤 直明（トロンボーン）  
新崎 誠実（ピアノ）

## アクティビティ

タイトル：子どもたちと、演奏家と音楽と楽器との幸せな出会い

期 日：令和7年9月12日 10：25～11：10

会 場：北上市立飯豊小学校 音楽室

参加者：特別支援学級（4年生、5年生） 18名

当初は35名で1回の実施を予定していたが、演奏家との相談の結果、児童の特性に応じておおむね「アクティブさん」と「おだやかさん」の2グループに分けて実施することとした。特別支援学級の児童が安心して活動に参加できるよう、生活リズムをできるだけ「いつも通り」に保つことを重視した。そのため、チャイムを止めずに実施したり、活動内容を示すイラストを掲示したり、演奏家が先に音楽室に入り児童を迎え入れるなどの工夫を行った。これらの配慮により、児童が過度に緊張することなく音楽を楽しむ姿が多く見られた。



タイトル：子どもたちと、演奏家と音楽と楽器との幸せな出会い

期 日：令和7年9月12日 11：15～12：00

会 場：北上市立飯豊小学校 音楽室

参加者：特別支援学級（1・2・3年生、6年生） 17名

2グループとも曲目や構成は同じであったが、児童の特性に合わせて緩急のつけ方や進行に変化をもたせていた。活動は「おとあそび」の時間から始まり、音と“友達になる”感覚で耳を慣らしながら、自由に音を出す楽しさを味わってもらった。こうした導入により、「音楽は楽しい」「今日の授業はおもしろい」と感じる児童が多く見られ、後半のコンサート部分でも集中して曲を聴く姿が見られた。特別支援学級の児童にとって参加しやすく、タイトルどおり演奏家と音楽と楽器との幸せな出会いとなった。



タイトル：子どもたちと、演奏家と音楽と楽器との幸せな出会い

期 日：令和7年9月12日 16：00～16：45

会 場：江釣子地区交流センター 大ホール

参加者：江釣子学童保育所（1～3年生） 60名

学童保育所内にピアノがないため、近隣の地区交流センターを会場として実施した。児童は学校の授業終了後に学童保育所から歩いて参加しており、初めは少し集中するまでに時間を要した。学童保育所へのプログラム実施については、長期休暇期間に行う方が児童の負担が少なく、より効果的であると感じた。一方で、一旦興味のスイッチが入ると、児童は目を輝かせてボディパーカッションに取り組み、演奏や演奏家とのやりとりを楽しむ姿が多く見られた。



タイトル：子どもたちと、演奏家と音楽と楽器との幸せな出会い

期 日：令和7年9月13日 14:00～15:00

会 場：野中公民館

参加者：和賀東学童保育所（親子、先生） 25名

学童保育の施設が狭いため、近隣の公民館を会場として実施した。学童保育所では土曜日の利用者が少ないことから、希望者を募り、親子での参加形式とした。その結果、ベテランの先生方、保護者、児童の三世代がそろってアクティビティとなった。どの世代の参加者もボディパーカッションに積極的に取り組み、演奏や演奏家とのやりとりを楽しむ様子が見られた。活動後には、ご家庭や週明けの学童でアクティビティの話題が出るなど、音楽を通して世代を超えた共感やつながりが生まれたことを実感でき、たいへんうれしく思った。



## コンサート ※幹事館と共同して実施

タイトル：

期 日： ※幹事館参照

会 場：

参加者：

主に宣伝面での協力を行った。公演チラシを主催事業で折り込み配布したほか、北上市内の各アクティビティ先でチラシを配布し、希望者には整理券を配布した。

公演当日は都合により参加できず、参加館として十分な連携が図れなかった点は今後の課題である。

#### ① 応募の動機・事業のねらい

(連携)

これまで岩手県内で行われてきた公共ホール間の連携に、新たに参加する館を募り、ネットワークを拡大するきっかけとすることを目的に応募した。本事業は助成金の支援に加え、研修会の開催やアドバイザー派遣も受けられるため、おんかつ事業の未経験館やアウトリーチにまだ取り組んでいない館を誘致するうえで有効であった。連携館を増やし、顔を合わせて協議・協力する機会を重ねることで、職員等の企画・制作力の向上と、創造性豊かな地域づくりの促進をねらいとした。

(自館)

自館では、アクティビティを通じて、子どもたちと演奏家、そして音楽・楽器との幸せな出会いが生まれることを期待し、経験値の高い演奏家によるトリオ編成での実施を依頼した。

#### ② 企画のポイント

(連携)

連携の継続性を高めるため、幹事館を輪番制で担当する方式を提案し、今回は前沢ふれあいセンターが引き受けてくださった。

(自館)

子どもたちに、演奏家や音楽、楽器との幸せな出会いを届けることを目的として実施した。実施先の熱意が活動の成功に大きく影響することから、公募によって実施先を募集した。応募のあった小学校の特別支援学級と学童保育所で実施することとした。

#### ③ 企画実現にあたり苦勞（問題となった）した点

(連携)

幹事館担当者の異動、連携全体のスケジュールの調整、情報の共有、コミュニケーション不足。

(自館)

小学校の担当者と特別支援学級の担任が違う先生だったため、演奏家に伝えたい情報をなかなか引き出せなかった点。公民館等の地域の施設には設備や備品が不足している点。

#### ④ 上記③をどのようにクリアしたか

(連携)

Google ドライブを活用することで、各地域の情報を効率的に集約することができた。集約した情報は、ホール担当者、マネジメント担当者、アーティスト、地域創造の各担当者間で共有し、連携体制の強化に役立てた。

(自館)

小学校の特別支援学級では、演奏家が当日、担任の先生と直接お話しすることで、児童のために丁寧に準備されたプログラムであることを理解していただき、会場の雰囲気が一変した。その空気は児童にも伝わり、なごやかで楽しいアクティビティとなった。

公民館での実施にあたっては、ピアノとエアコンがなく必ずしも良い環境とは言えなかったが、電子ピアノとスピーカーを持ち込み、環境の改善を図った。

---

## ⑤ 事業を実施しての成果

(連携)

連携館が新たに2館増えたことは大きな成果である。岩手県南エリア8市町において公共ホールを有する6市町のうち、5市町が連携に参加する体制となった。

(自館)

アクティビティの実施を希望し、手を挙げてくださった実施先の先生方の思いに応えることができたこと、また、先生方が感じている体験格差などの課題に対し、共に取り組むことができたこと。

## ⑥ 事業を実施しての反省点・課題

(連携)

「幹事館」を十分にサポートできなかったことを反省している。また、連携事業の開始時点で、各館の役割分担やスケジュールを明確に定めておくことが必要である。

(自館)

連携期間が長期にわたったことで、演奏家への情報共有が遅れる場面があり、対応に甘さが見られた。今後は、連携期間が始まる前に情報共有や打合せを完了させる体制を整える。

## ⑦ 今回の事業を通じて、自身の「町」または「ホール」について改めて考えたこと

平成18年度のおんかつ事業への参加をきっかけに、毎年継続して取り組みを重ね、本年度で20年目を迎えた。

当初は年間4回であったアクティビティは、現在では年間50回にまで拡大し、音楽、ダンス、浪曲、落語、演劇など、多様なジャンルへと発展している。この間、クラシック音楽や舞台芸術の鑑賞機会の拡充を目指して活動を進めてきたが、明確な数値的根拠はないものの、市民の関心やホール運営への理解が着実に広がっていると感じられている。

実施先は、幼稚園、保育園、認定こども園、学童保育所、小・中・高等学校、特別支援学校、高齢者福祉施設、障がい者福祉施設、企業、公民館、病院など多岐にわたり、手を挙げてくださる施設担当者も増加している。

現在では、舞台芸術の鑑賞者を増やすことにとどまらず、文化芸術活動の体験格差の是正やホールに来ることが難しい方々への体験機会の提供に意義を見出している。「知らなかったことを知る喜び」「共に楽しむ体験」「懐かしい記憶を呼び起こす体験」など、文化芸術がもたらす多様な価値を届けることで、心のビタミンのように、人々がより健やかに、幸せに暮らすための小さなお手伝いができていると考える。

これまで、公共ホール間の連携、地域の演奏家との協働を進めてきたが、現在は運営側であるコーディネーターとの協働にも取り組んでいる。

今後も、文化芸術を通じた創造性豊かな地域づくりを目指し、多くの仲間とさらなる連携と協働を推進していきたい。

---

⑧ 今回の事業を通じて、地域間の連携について改めて考えたこと

連携の大きなメリットは、各団体が有する資源や専門知識、経験を相互に活用できる点にある。

連続する日程の中で、演奏家の負担を軽減するために最寄りの館でリハーサルを行ったり、備品の貸し借りや人員の補完を行ったりすることが可能となる。また、新しい実施先における留意点の共有や、先行館からの舞台技術に関する助言、広報における折込代行や各館媒体での相互宣伝など、さまざまな協力体制が考えられる。

こうした連携をより有効に機能させるためには、各館の担当者が信頼関係を築き、気軽に支援を求め合える雰囲気や仕組みづくりが重要であると感じている。

隣接する地域が協働して本事業を推進することにより、広域的に創造性豊かな地域づくりを促進することができる。これらの取り組みを通じ、岩手県の未来は一層明るいものになる。

実施団体：NPO 法人一関文化会議所

実施時期：令和7年9月16日（火）～令和7年9月17日（水）

出演アーティスト：野尻 小矢佳（パーカッション） 加藤 直明（トロンボーン）  
新崎 誠実（ピアノ）

## アクティビティ

タイトル：岩手星巡りプロジェクトのわくわくコンサート

期 日：令和7年9月16日 10：35～11：20

会 場：一関市立黄海小学校音楽室

参加者：1・2・3年生 23名

音楽の演奏家3人による、音楽を通じた小学校児童との交流。

演奏家がとても上手に子どもたちをリードして、集中を途切れさせることもなく演奏を楽しく体験する事が出来た。初めて出会う大人たちとのコミュニケーションも、音楽を通して自然と演奏家に向けられており、児童たちのコミュニケーションもお互いの笑顔で楽しんでいる繋がりを得られていたと思う。



タイトル：岩手星巡りプロジェクトのわくわくコンサート

期 日：令和7年9月16日 14：05～14：50

会 場：一関市立黄海小学校音楽室

参加者：4・5・6年生 35名

コンサートの内容は午前中と同じ。低学年の子たちよりは、お互いのコミュニケーションとして少し会話が合ったように感じた。ニコニコ飛んだり跳ねたりの合間の笑顔でのコミュニケーションだけではなく、「これは〇〇だよね」「これはこんな感じじゃない？」のような、直感的なインスピレーションだけではない、子どもたち個々の思考が、上手く自分の中に取り入れられるようなプログラムだと思った。



タイトル：岩手星巡りプロジェクトのわくわくコンサート

期 日：令和7年9月17日 11：20～12：05

会 場：一関市立藤沢小学校音楽室

参加者：1・2年生 41名

黄海小の児童たちも同じようであったが、最初は大人しく何が起るのかといった様子でうかがっていた子たちも、2曲目3曲目と進み、演奏家の皆さんの楽器や曲目にまつわる話など、徐々に引き込まれていく様子を感じられた。

2日間通して低学年の方が比較的最後までおとなしく鑑賞している印象だった。



タイトル：岩手星巡りプロジェクトのわくわくコンサート

期 日：令和7年9月17日 13:55～14:40

会 場：一関市立藤沢小学校音楽室

参加者：5・6年生 50名

2日間で一番人数が多かったアクティビティ。20人位だと少し寂しい気もして、周りに合わせてしまいやんちゃさが隠れてしまって大人しめ。40人、50人になると演奏間の集中具合が若干途切れがちの印象。人数はやはり大事な気がした。目の前で起きた事にすぐに反応する子、おとなしくてまわりの様子を恐る恐るうかがっている子と、その場で起こる事に反応が上手くマッチするのは30人位が良いのかと感じた。

お話も含めたプログラムが良いので脱線が長引く事は無かった。



## コンサート ※幹事館と共同して実施

タイトル：

期 日：

※幹事館参照

会 場：

参加者：

一関のアクティビティ先からアーティストをコンサート会場へお送りし、搬入を手伝いました。

本番まで一緒にできた方が楽しかったと思います。

#### ① 応募の動機・事業のねらい

市町村合併によって市の面積は増えたが、市の中心から離れる町ほどそれまで町毎に行っていた習慣が続けられており、市内から一時間離れた地域などは文化センターがどういった施設なのかを考える事もないほど、存在すらも知らないという状況から、ホールからその地域まで出向き、まずその存在を知ってもらいたいという思いから。

#### ② 企画のポイント

普通の鑑賞事業だけでは得られない、演奏者とのコミュニケーションが有る事で、言い方は悪いが、そんなに興味が無くても周りの反応につられて体験してしまう事で、ただ聴いて終わりというだけではないことを経験して欲しい。

#### ③ 企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

職場内の説得

#### ④ 上記③をどのようにクリアしたか

17年かかりました。

地道な説得です。

館長が3人目になりました。

#### ⑤ 事業を実施しての成果

年代によって反応はまちまちであろうとは予想したが、思った通りの反応だったのではないかとの確認と、企画の段階で考えていた1コマ1クラスではなかったが、その場の児童たちの様子を、完全ではないが一人ひとり見られたと思う。全校生徒にしてしまうと一方通行になってしまうのかなと感じた。

#### ⑥ 事業を実施しての反省点・課題

外に出る事で精一杯になってしまった。

アーティストに食事の心配をさせてはいけない。

#### ⑦ 今回の事業を通じて、自身の「町」または「ホール」について改めて考えたこと

ホールを利用してもらうためには、ホールが地域（町）と連携しなければならない。

まずは町の人たちと出会う事から始めなくてはと思っていたが、スタートが遅かったと言いたくはないが色々な人や団体などとの繋がりを、より増やしていかなければならないと思った。

#### ⑧ 今回の事業を通じて、地域間の連携について改めて考えたこと

18年近くこの業界にいたのでそれなりに沢山経験させていただいているが、他の地域と全く同じという事は無く、それぞれの地域でのかかわりや考える手段など、同じような体験は有っても全く同じではない事から見えてくる事も有るか。

周りの地域ではどんなやり方で事業を行っているのか、今後に生かすために学ぶ良いチャンスだと思う。

実施団体：釜石まちづくり株式会社

実施時期：令和7年9月23日（火）、10月1日（水）～10月2日（木）

出演アーティスト：野尻 小矢佳（パーカッション） 加藤 直明（トロンボーン）  
新崎 誠実（ピアノ）

## アクティビティ

タイトル：TETTOおでかけミニコンサートinイオンタウン釜石  
『もうすぐTETTO！』

期 日：令和7年9月23日 11：30～12：00

会 場：イオンタウン釜石 2階専門店イベントスペース

参加者：子どもから大人 約30名

同日午後開催する子ども向けワークショップ事業への参加呼び込みと音楽の楽しさを伝えるミニコンサート。中心市街地活性化という目的を共有するイオンタウンとの協力体制を構築する目的もあり。

ポップで楽しい曲目を中心に選曲していただき、会場に集まった人以外にも通りすがりの人たちにも楽しんでいただけたと思います。また午後のワークショップにも流れてきてくれたお子さんもいて、参加者増に繋げることができました。

タイトル：おんがくたいけんプログラムforきつず

期 日：令和7年9月23日 13：30～15：10

会 場：釜石市民ホールTETTO ホールBおよびA

参加者：概ね小学生までの子どもと保護者 47名

各楽器の音を楽しく学べるワークショップとホールAバックステージツアーを組み合わせた子ども向けプログラム。ホールBで、トリオ演奏→ピアノ→トロンボーン→パーカッション（参加者とのアンサンブルあり）→トリオ演奏。ホールA舞台上に移動、技術スタッフによる照明機材解説、その後、調整室に移動して調光卓を触って実際に照明操作体験。昨年実施時の反省からチラシテキストを見直したことで、大幅な参加者増になりました。

タイトル：TETTOおでかけコンサートinピッコロ子ども倶楽部  
桜木園

期 日：令和7年10月1日 10：00～10：40

会 場：ピッコロ子ども倶楽部桜木園

参加者：園児 51名

アウトリーチ初訪問。園側としてもアウトリーチ受け入れの実績がほとんど無し。

内容は大まかに、ボディパーカッションで園児とアンサンブル、楽器紹介（動物を絡めながら）、リズム遊び、トリオ演奏。先生方が指導したわけではないのですが、素直に耳を傾けてくれる園児が多かったのが印象的でした。



タイトル：TETTOおでかけコンサートinかまいしこども園

期 日：令和7年10月1日 15：00～15：40

会 場：かまいしこども園

参加者：園児と近隣住民数名 83名

2年前にも同じアーティストで訪問。内容は上記と同じ。

人数が多いこともあって園児はイス着席でしたが、リラックスした雰囲気をアーティストから創り出していただいたこともあって、とても素直な反応があり、先生含めて楽しんでもらえたように感じました。こども園としてはイレギュラーな時間帯での実施になりましたが、特段影響は無かったように感じました。



タイトル：TETTOおでかけコンサートin鵜住居保育園

期 日：令和7年10月2日 10：00～10：40

会 場：鵜住居保育園

参加者：園児と子育て支援センター利用者 91名

ホールとしては初めてのアウトリーチ訪問。園児の他に併設する子育て支援センター利用者（乳幼児と保護者）、近年中に閉園する鵜住居幼稚園の園児が加わり大人数になりました。内容は他のこども園と同じ。園児は自由に楽しんでいる様子で先生方からも喜んでいただくことができました。



タイトル：Going My Way concert in 栗林小学校

期 日：令和7年10月2日 13：10～13：55

会 場：釜石市立栗林小学校

参加者：児童 25名

音楽に触れるだけではなく、「演奏家」という職業を知ることがコンセプトに、おんかつ導入より続けている訪問コンサート。トリオ演奏での他に、各アーティストから演奏家になったキッカケとターニングポイントとなった楽曲の演奏もあり。コンセプトの都合上、トークの時間が長めの内容になりますが、終了した後に「ピアノを辞めるのを辞めた」と言ってくれた児童もいて、今後もこのコンセプトを大事にしていきたいと感じました。



## コンサート ※幹事館と共同して実施

タイトル：

期 日： ※幹事館参照

会 場：

参加者：

職員1名を派遣し、舞台裏テクニカルサポートや舞台転換等のスタッフを担当。

#### ① 応募の動機・事業のねらい

事業評価は高いものの、市人口減少に伴って自主事業費に充てられる指定管理料が年々減少してきており、今後もクラシック音楽の普及育成事業を継続するために、他ホールと連携して事業実施することにより制作ノウハウや知見を蓄積させ、より効果の高い事業とすることや費用面の負担を軽減することを目的として応募しました。

事業対象は主に小学生以下の子どもたちとして、【文化芸術の提供】【次世代育成】【キャリア教育の一助となること】を目標としました。また親世代にもアプローチする一環として【文化的コモンズの形成】【裾野を広げる活動】にも取り組みました。

#### ② 企画のポイント

大人向け・地域コミュニティ向けのクラシック音楽普及育成は他の事業で取り組んでいるため、「子どもたちの未来のために」というテーマに絞って企画。子どもたちが気軽に楽しんでもらえるような内容とすること、来館者数が少ない子育ての親世代（30～40代）にも興味を持ってもらえるようにすること、子供・青少年世代に「演奏家」と言う職業を知ってもらうこととその人となりに触れることで、将来の夢や仕事の選択肢を広げることに取り組みました。

#### ③ 企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

アウトリーチ訪問先について、最も優先して訪問したい小学校に対して実施受入れ希望調査をしましたが、希望が全くありませんでした。ホール側からの情報提供が年度明けになってしまったのが原因と思われる。またキッズプログラム（ワークショップ）での声かけや参加者集めで思った成果が得られなかったことも課題でした。

#### ④ 上記③をどのようにクリアしたか

アウトリーチ先については、教育委員会で定期的に行われている学校長会でホール担当者から情報提供や説明を行ったほか、これまでアウトリーチ訪問をしていなかった小学校を中心に、メールや電話ではなく実際に出向いて受入れをお願いをしたところ、別の学校で受入れしたことがある先生が校長先生をしている学校に受入れしてもらうことができました。またこども園施設にも出向いて受入れをお願いして歩きました。キッズプログラムの参加者集めについては、前述のとおりチラシデザインやテキストを見直すこと、申込制にすることで前年度よりも多くの親子に参加してもらうことができました。

#### ⑤ 事業を実施しての成果

助成を頂くことで事業内容を充実させることができ、例年よりも多くの子ども・親子にアプローチすることができました。またアウトリーチ訪問先の3カ所が初めての訪問で、より広く普及育成に取り組むことができました。連携した他のホールの実施例を参考にしながら、制作面を見直す事により事業内容の充実や参加者アップに繋がられたと思います。またホールとほぼ隣接する商業施設でのミニコンサートを通じて、多くの世代に音楽を楽しんでもらうことができ、中心市街地の活性化という目的を共有する商業施設との関係・連携構築もすることができました。

#### ⑥ 事業を実施しての反省点・課題

訪問先の交渉が遅れたため、最もアプローチしたかった年齢層である小学校でのアウトリーチ実施が

---

1件に留まってしまったこと、アウトリーチ・ワークショップの内容について経験豊富なアーティストに頼りきりになってしまったことが大きな反省点でした。また事業担当者の人的パワー不足も露呈したと思われ、後任育成も大きな課題だと感じられました。

⑦ 今回の事業を通じて、自身の「町」または「ホール」について改めて考えたこと

震災後に少子高齢化が加速している中で、市民ホールは地域の将来を担う「人」を育てる「器」であること、コミュニティ作りのハブであることを改めて認識しました。子供の頃に出会ったアーティストから得たインスピレーションやホールで体験したことは、大人になった時に活かされるものと思いますので、様々なジャンルの普及育成に取り組みたいと考えています。

⑧ 今回の事業を通じて、地域間の連携について改めて考えたこと

他ホールとの連携を通じて、お互いの良いところ悪いところを学べることで、共同で事業を行うことで責任感などの良い意味での強制力が働き、事業運営の原動力となることが良い面と考えられます。今回は連携に掛かる制作業務を幹事館に任せきりになってしまい、フォローできなかったことも反省点と考えられました。お互いの足りないところを補足しあうことも連携の良いところと考えるので、アーティストとも連絡を密にしながら今後も取り組んでいきたいと思いました。

実施団体：西和賀町教育委員会（西和賀町文化創造館 銀河ホール）

実施時期：令和7年9月10日（水）～令和7年9月11日（木）

出演アーティスト：野尻 小矢佳（パーカッション） 加藤 直明（トロンボーン）  
新崎 誠実（ピアノ）

## アクティビティ

タイトル：Music Program IWATE 星巡りプロジェクト  
in 西和賀

期 日：令和7年9月10日 10：30～11：15

会 場：西和賀町立湯田小学校体育館

参加者：湯田小学校全校児童 66名

出演者が児童生徒と活発にコミュニケーションを取りつつ、聴くところは聴かせ、一方の場面では大いに体を動かして表現させるというプログラムである。緊張と緩和の中において自然と聴く姿勢と楽しむ姿勢を学ばせること、また、全体を通して音楽の楽しさと出演者への親しみを醸成する構成となっており、児童と教職員が一緒になってワークショップを楽しんでいた。



タイトル：Music Program IWATE 星巡りプロジェクト  
in 西和賀

期 日：令和7年9月10日 13：35～14：25

会 場：西和賀町立湯田中学校多目的ホール

参加者：湯田中学校全校生徒 37名

湯田中学校は、20年以上に亘って当館が主催する演劇ワークショップを受け入れており、同校文化祭は、西和賀町文化創造館を会場に各学年の演劇発表をメインとして開催されている。本アウトリーチにおいても表情豊かにアーティストの演奏に反応する生徒が大半で、これまでの演劇創作で培った文化への接し方や楽しみ方を醸成させる取り組みが、着実に実を結んでいると実感できる機会となった。



タイトル：Music Program IWATE 星巡りプロジェクト  
in 西和賀

期 日：令和7年9月11日 10：35～11：20

会 場：西和賀町立沢内小学校体育館

参加者：沢内小学校全校児童 57名

前日の湯田小学校同様に1から6学年までが一堂にワークショップに参加。年齢差を超えて全校児童が楽しんでいる様子であった。特に校長からは、「これまで見たことのない児童の表情に驚かされた。音楽の力、アーティストの皆さんの技量が、普段接している教職員ですら見たことのない子供たちの表情を、あの短時間で引き出してくれた」と、驚きと感謝をもって感想を述べられていたことが印象的であった。



タイトル：Music Program IWATE 星巡りプロジェクト  
in 西和賀

期 日：令和7年9月11日 13:35～14:25

会 場：西和賀町立沢内中学校第一体育館

参加者：沢内中学校全校生徒 31名

沢内中学校においても、例年当館主催の演劇ワークショップに取り組んでいただいている。冒頭は緊張感が漂っていたものの、普段から創作太鼓にも触れている同校生徒たちは、体を動かし始めると緊張がほぐれ、ボディパーカッションでは体すべてを使って表現し、声も出てくるようになった。授業が終わった後の生徒たちの豊かな表情をうかがうことができた。



## コンサート ※幹事館と共同して実施

タイトル：

期 日： ※幹事館参照

会 場：

参加者：

スケジュールの都合から当日のみの参加となったが、コンサートの仕込みから本番当日において、参加館からもスタッフを招集し深く関与する仕組みづくりが必要と感じた。これは、当館のような小規模館における人材育成において、他館の取り組みや実施体制等を実地形式で吸収できる大変貴重な機会になると考えられる。次年度においてはこの試みの実現に向け、関係館と協議を行いたい。

① 応募の動機・事業のねらい

本町においては急激な少子高齢化から、現在では人口が4,700人あまりに減少しており、町内に存在するそれぞれ2校の小中学校においては文化館が存在しない状況になっている。そのような中で、小中学校の文化祭では例年演劇制作に取り組んでおり、うち2つの中学校へは町の事業として演劇指導講師を派遣し、演劇制作におけるアウトリーチ事業を20年以上に亘って展開しているところである。

一方、音楽分野における取り組みは、小学校に対する年1度の芸術鑑賞事業のみに留まっており、本事業を通して、間近で音楽へ親しむ機会を構築すると共に、児童生徒の音楽への興味関心を醸成したいと考える。

② 企画のポイント

当館がこれまで実施してきた鑑賞事業や演劇アウトリーチなどで、普段から当館とも距離が近い子どもたちに、今まで鑑賞機会の少なかった音楽アンサンブルに間近に触れてもらうこと。

③ 企画実現にあたり苦勞（問題となった）した点

特にありません。

④ 上記③をどのようにクリアしたか

—

⑤ 事業を実施しての成果

アクティビティでの児童生徒の反応と教職員の反響に接して、今年度初めて取り組んだ本事業の成功と来年度への事業継続を確固たるものとする「手応え」を感じた。当町は、小規模自治体且つ直営会館としての特性を生かし、日頃より小中学校との密接な関係を築き、長年に亘って小中学校児童生徒に対する鑑賞事業や演劇アウトリーチ事業を展開してきたところである。そのような中、昨今における文化芸術関連予算の確保に際しては、その「費用対効果」を求められる傾向があり、文化芸術分野における事業効果の検証は、短期間では計り知れないものであるためにその対応に苦慮していたところであるが、今回の子どもたちの聞く力、楽しむ力を目の当たりにして、当町が長きにわたって取り組んできた成果を実感することにも繋がった。

⑥ 事業を実施しての反省点・課題

初めての取り組みであったため、アーティストの皆さまには不自由な部分があったことと感じる。ご意見等を伺って来年度以降への改善に繋げたい。また、アウトリーチ先がいずれも小規模校であることから、その対象は各校の希望もあり全校児童生徒であり、ほとんどの会場が体育館となった。そのうち屋根葺きの体育館も2か所あったことから天候次第では雨音の干渉も心配されたが、当日は天候に恵まれ、また暑さの面でも大きな影響を受けることなく計画どおり事業を終えた。

⑦ 今回の事業を通じて、自身の「町」または「ホール」について改めて考えたこと

人材育成については急務と捉えており、事業企画制作のノウハウ・技術継承等、課題は山積している。その一方で、本事業における地域間での連携による人的な交流が、私共のように職員層が薄い施設において大きな支えになることを感じた。

---

⑧ 今回の事業を通じて、地域間の連携について改めて考えたこと

幹事館コンサートでは、出来れば舞台運営等に連携館も関与させていただき、大変厚かましくも当館職員が勉強させていただけるような機会ともなれば、いよいよ人的な交流も深まるのではないかと感じた。

**第3部**  
**令和7年度公共ホール**  
**音楽活性化・**  
**地域人材育成事業**

---

# 令和7年度公共ホール音楽活性化・地域人材育成事業 実施概要

## 1 事業趣旨

公共ホールの活性化と地域の音楽分野における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりへの寄与、地域にゆかりのあるクラシック音楽及び邦楽の演奏家（以下「アーティスト」という。）と共に行う事業の実施及び継続、公共ホール職員等の企画制作能力の向上及び創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、市町村等との共催により、公共ホール等を拠点としたアーティストによる双方向のミニコンサートやワークショップ等を行うアウトリーチの手法を活用した地域交流プログラムに関する研修会等を実施する。

対象団体：公共ホール音楽活性化事業又は公共ホール邦楽活性化事業を過去に実施した市町村等（特別区を含み、政令指定都市を除く）。ただし、公共ホール音楽活性化事業、公共ホール邦楽活性化事業または地域創造の他の共催事業を原則として10年以内に実施していること。

## 2 実施内容

### (1) 実施団体

都道府県	市町村	実施団体	実施場所
長崎県	長崎市（ながさきし）	長崎市	ベネックス長崎ブリックホール

### (2) 事業内容

#### ①研修プログラムの策定

#### ②研修会等の実施

- ・令和7年6月27日（金）～28日（土）

実施団体の職員、指定管理者、文化行政担当者、近隣文化施設の担当者、アーティスト等を対象とする地域交流プログラムに関する研修会

- ・令和7年9月11日（木）、11月14日（金）

長崎市登録演奏家選出に係る審査会

- ・令和7年12月23日（火）～24日（水）、2月19日（木）～20日（金）

長崎市登録演奏家を対象とする、アウトリーチで行うプログラム開発に関する研修会

#### ③報告会の実施

## 3 事業実施に対する支援

### (1) アドバイザー等の派遣

地域創造は、必要に応じて、研修会プログラムの策定及び研修会等の実施にあたり地域の芸術活動に詳しい専門家をアドバイザー等として派遣する。

### (2) 講師の派遣

地域創造は、必要に応じて、研修会等の実施にあたり地域の芸術活動に詳しい専門家、アウトリーチに積極的に取り組むアーティスト等を講師として派遣する。

## 4 経費負担

事業実施に伴う下記の経費については、地域創造が負担する。

### (1) アドバイザー等及び講師の派遣に係る経費

（アドバイザー等・講師の謝金、交通費、宿泊費、日当、楽器運搬費、保険料（演奏家））

### (2) 地域交流プログラムに関する研修会等の実施に係る経費のうち、負担金対象経費（上限100万円）の1/2を負担

負担金対象経費：音楽・文芸費、舞台・会場費、旅費・諸謝金、広報・印刷費、記録費、保険料、消耗品費、その他事業の企画・制作に要する経費（振込手数料、印紙代を含む）

## 5 派遣アドバイザー／派遣講師

### (1) アドバイザー

福田 修志 (劇作家・演出家、F's Company代表、リージョナルシアター事業派遣アーティスト)

### (2) 講師

北島 佳奈 (ヴァイオリニスト、おんかつ支援登録アーティスト)

児玉 真 (長崎市芸術アドバイザー)

桜井 しおり (一般社団法人IROHAMO アーティスト・ディレクター、公共ホール音楽活性化事業コーディネーター)

## 6 事業概要

### (1) 内部研修

日 程：6月27日(金) 13:30～16:45

会 場：ベネックス長崎ブリックホール 会議室等

参加者：長崎市職員、指定管理者等

時間	会場
13:30～13:40	開会・講師紹介
13:40～14:05	アイスブレイク 福田修志
14:05～14:55	講義 児玉真
休憩(10分)	
15:05～15:50	模擬アウトリーチ 北島佳奈(伴奏:上野絵理子)
移動(5分)	
15:55～16:45	ディスカッション 福田修志、児玉真、北島佳奈、参加者(長崎市職員、指定管理者等)

### (2) 公開講座 I

日 程：6月27日(金) 18:00～21:05

会 場：ベネックス長崎ブリックホール 会議室等

参加者：アーティスト等

時間	会場
18:00～18:10	開会・講師紹介
18:10～18:30	講義 長崎市職員
18:30～19:15	講義 児玉真
休憩・移動(10分)	
19:25～20:10	模擬アウトリーチ 北島佳奈(伴奏:上野絵理子)
20:10～21:05	トークセッション 福田修志、児玉真、北島佳奈、参加者(アーティスト等)

(3) 公開講座Ⅱ

日 程：6月28日（土）13：00～16：10

会 場：ベネックス長崎ブリックホール 会議室等

参加者：アーティスト等

時間	会場
13：00～13：10	開会・講師紹介
13：10～13：30	講義 長崎市職員
13：30～14：15	講義 児玉真
休憩・移動（10分）	
14：25～15：10	模擬アウトリーチ 北島佳奈（伴奏：上野絵理子）
15：10～16：10	トークセッション 福田修志、児玉真、北島佳奈、参加者（アーティスト等）

(4) 登録演奏家選考会Ⅰ

（令和8・9年度長崎市音楽アウトリーチ事業登録アーティスト選考 第1次審査）

日 程：9月11日（木）11：00～15：00

会 場：オンライン

審査員：福田 修志、桜井 しおり、池田 祐希（平成21・22年度長崎市音楽アウトリーチ事業登録アーティスト）、長崎市文化振興課長

審査対象：応募者10組のうち、1次審査免除\*の2組を除く、計8組

\*令和6年度（第51回）もしくは令和7年度（第52回）の長崎県新人演奏会に出演した方は、第1次選考免除

時間	会場
10：30～11：00	打合せ
11：00～12：00	審査（4組）
昼休憩（60分）	
13：00～14：00	審査（4組）
14：00～15：00	審査会議、審査会の在り方や今後の予定について

(5) 登録演奏家選考会Ⅱ

(令和8・9年度長崎市音楽アウトリーチ事業登録アーティスト選考 第2次審査)

日 程：11月14日（金）14：00～20：00

会 場：ベネックス長崎ブリックホール 練習室2

審査員：福田 修志、桜井 しおり、池田 祐希、長崎市文化振興課長

審査対象：1次審査を通過した6組に、1次審査免除の2組を加えた、計8組

時間	会場
13：00～14：00	打合せ
14：00～14：30	審査（1組目）
14：35～15：05	審査（2組目）
15：10～15：40	審査（3組目）
15：45～16：15	審査（4組目）
休憩（30分）	
16：45～17：15	審査（5組目）
17：20～17：50	審査（6組目）
17：55～18：25	審査（7組目）
18：30～19：00	審査（8組目）
休憩（15分）	
19：15～20：00	審査会議、12月23日以降の登録演奏家に向けた研修会の打合せ

(6) アウトリーチ研修Ⅰ

日 程：12月23日（火）13：00～18：00、12月24日（水）11：00～16：00

会 場：ベネックス長崎ブリックホール 練習室1

参加者：令和8・9年度長崎市音楽アウトリーチ事業登録アーティスト

（濱田 恵玲菜、田邊 詠美）

12月23日（火）

時間	会場
13：10～13：20	開催挨拶・講師紹介・長崎市の取組みについて 長崎市
13：20～14：30	演劇アウトリーチ 福田修志
休憩・移動（10分）	
14：40～15：30	アウトリーチ概論 桜井しおり、福田修志
休憩（10分）	
15：40～18：00	グループワーク ・アーティストの活動について ・プログラムの作りについて ・プログラムのプレゼン（小学校4・5年生向け／45分間） 福田修志、桜井しおり、池田祐希、登録演奏家（濱田恵玲菜、田邊詠美）

12月24日（水）

時間	会場
11：00～12：00	各演奏家プログラム検討 福田修志、桜井しおり、池田祐希
昼休憩（60分）	
13：00～16：00	各演奏家プログラム検討 福田修志、桜井しおり、池田祐希

(7) アウトリーチ研修Ⅱ

日 程：2月19日（木）13：30～17：00、2月20日（金）11：00～16：40

会 場：ベネックス長崎ブリックホール リハーサル室

参加者：令和8・9年度長崎市音楽アウトリーチ事業登録アーティスト  
(濱田 恵玲菜、田邊 詠美)

2月19日（木）

時間	会場
13：00～13：30	音出し
13：30～14：45	ランスルーとフィードバック① 福田修志、桜井しおり、池田祐希
休憩（10分）	
14：55～16：10	ランスルーとフィードバック② 福田修志、桜井しおり、池田祐希
休憩（10分）	
16：20～17：00	プログラムの再検討 福田修志、桜井しおり、池田祐希

2月20日（金）

時間	会場
11：00～12：00	再検討したプログラムの内容を発表、フィードバック 福田修志、桜井しおり、池田祐希
昼休憩（60分）	
13：00～14：10	再検討したプログラムの内容を発表、フィードバック 福田修志、桜井しおり、池田祐希
休憩（10分）	
14：20～14：40	再検討したプログラムの内容を発表、フィードバック 福田修志、桜井しおり、池田祐希
休憩（5分）	
14：45～15：45	ランスルーとフィードバック① 福田修志、桜井しおり、池田祐希
休憩（5分）	
15：50～16：40	ランスルーとフィードバック② 福田修志、桜井しおり、池田祐希

実施報告会

日 程：2月20日（金）16：45～17：15

会 場：ベネックス長崎ブリックホール リハーサル室

参加者：福田修志、桜井しおり、池田祐希、長崎市職員、地域創造職員  
研修振り返り、次年度方向性検討

## 講座

タイトル：長崎市音楽アウトリーチ研修会  
(職員・指定管理者向け)

期 日：令和7年6月27日 13:30～16:30

講 師：児玉真、福田修志、北島佳奈

参加者：長崎市職員、指定管理者 11人

アイスブレイク、アウトリーチ概論の講座、ヴァイオリニストの北島佳奈さんによる模擬アウトリーチ体験の後に、参加者全員でディスカッションを行った。ディスカッションでは、アウトリーチの必要性やどのように実施していくかなどのお話が上がり、実施後のアンケートでは、日頃職員で事業について意見交換する機会があまりないので今回が良い機会となった、アウトリーチについて理解が深まったとの意見があった。



タイトル：長崎市音楽アウトリーチ研修会  
(地元アーティスト等向け)

期 日：令和7年6月27日、28日 ①27日 18:00～21:00  
②28日 13:00～16:00

講 師：児玉真、福田修志、北島佳奈

参加者：地元演奏家、アウトリーチ活動に興味・関心がある方  
①16人、②10人

2日間、2回に分けて地元演奏家やアウトリーチに興味のある方を対象に実施した。職員向け研修と同じく、アウトリーチ概論の講座やヴァイオリニストの北島佳奈さんによる模擬アウトリーチを実施した後、参加者全員で円になって、ディスカッションを行った。ディスカッションでは、北島さんのこれまでのアウトリーチのエピソードをお話いただいたり、アウトリーチの手法や活動していく中での悩み、コーディネーターについてなど様々な話題となり、実施後のアンケートでは、生演奏の素晴らしさと意義を改めて感じる事ができて良かった、またこのような研修に参加したいなどの意見があった。



タイトル：長崎市音楽アウトリーチ事業登録アーティスト  
オーディション

期 日：令和7年9月11日（1次審査） 10：30～15：00  
令和7年11月14日（2次審査） 14：00～19：30

講 師：福田修志、池田祐希、桜井しおり

参加者：長崎市にお住まいか通勤、通学している方。または、  
長崎市内で音楽活動を行っている方。今後長崎市内で  
音楽活動を行う予定の方。

（1次審査対象）10人（2次審査対象）7人

令和8～9年度に長崎市で活動するアウトリーチアーティスト  
を選定するため、オーディションを実施した。1次審査は事前に  
提出いただいた音源・書類での審査で、地域創造と長崎市をオン  
ラインでつないで実施した。2次審査は実演・面接の審査を実施  
した。6月のアウトリーチ研修会でオーディションについても周  
知していたため、例年よりも応募者が多かった。最終合格は2名  
となった。

タイトル：長崎市音楽アウトリーチ事業登録アーティスト研修

期 日：令和7年12月23日、24日  
（23日）13：00～18：00、（24日）11：00～16：00  
令和8年2月19日、20日  
（19日）13：00～17：00、（20日）11：00～16：00

講 師：福田修志、池田祐希、桜井しおり

参加者：長崎市音楽アウトリーチ事業登録アーティスト合格者  
（2名）及びピアノ伴奏者（1名） 3人

12月の研修では、長崎市の事業紹介、演劇アウトリーチ体験、  
音楽アウトリーチ概論を実施した後、アーティストが事前に考え  
てきたアウトリーチのプログラム発表を行い、それに対する講師  
からのアドバイスをいただいた。2月の研修では、検討したアウ  
トリーチプログラムについて実演し、講師からのフィードバック  
をいただいた。アウトリーチの短い時間で伝えたいことは何なの  
か、伝えるためにはどの曲でどのように演奏やお話を入れるべき  
のかなど講師からアドバイスを受け、アーティストも相当悩み  
ながらも熱心に取り組んでいた。



#### ① 応募の動機・事業のねらい

地元アーティストの人材育成と市民の鑑賞機会の充実に目的を、長崎市では音楽アウトリーチ事業を実施し、登録アーティストの募集を行っているが、応募者が少なく、また、アウトリーチの意義が十分に浸透していないのが現状である。そこで、登録アーティストの募集に先立ち、地元アーティスト等向けの研修会を開催し、アウトリーチの意義を広く伝えるとともに、応募意欲の向上とスキルアップを図り、将来的に長崎で活躍する人材の確保・育成につなげることを狙いとした。

#### ② 企画のポイント

6月に地元アーティスト等向けの研修会を開催し、オーディションの応募へつなげるようにした。また、併せて、市の職員や指定管理者向けの研修会も実施し、事業の意義や必要性などを再確認できるようにした。オーディション合格者を対象とした研修では、講師に演出家や地元登録アーティストOGも参加し、様々な視点から次年度以降のアウトリーチ実施について検討できるようにした。

#### ③ 企画実現にあたり苦勞（問題となった）した点

オーディションには、研修会に参加していない方の応募もあり、募集要項だけではアウトリーチの目的や求める人材について十分伝わっていないと感じる方もいた。登録アーティストの質をどう確保するかが問題となった。

#### ④ 上記③をどのようにクリアしたか

研修会やオーディションについては、過去の登録アーティスト等に知り合いのアーティストに声をかけていただくなど、周知にご協力いただいた。オーディションや登録アーティストについては、地元アーティストを募集し、育成していくという事業趣旨の中でどのように質の高いアウトリーチを提供していくのか来年度も引き続き検討していきたい。

#### ⑤ 事業を実施しての成果

登録アーティストの募集に先立ち、6月に研修会を行ったことで、地元アーティストのアウトリーチへの理解が深まり、オーディションの応募者増につなげることができた。また、併せて市の職員や指定管理者向けの研修も行い、事業の意義や必要性について再確認することができた。オーディション合格後の研修においては、講師の皆様から様々な視点でプログラム検討等のアドバイスをいただき、来年度以降のアウトリーチ実施につながる充実した研修となった。

#### ⑥ 事業を実施しての反省点・課題

オーディションの募集要項にアウトリーチの基本的な条件（PA使用不可など）について記載がなく、また、年齢制限は設けてはいないが、地元アーティストの育成の観点から、年齢や実績等を踏まえた将来性も審査項目としていることから、その記載も必要であったと感じた。課題としては、長崎で音楽を専門に学ぶことのできる大学がない中で、登録アーティストをどう確保し、質の高いアウトリーチを提供していくのか、また市の職員の人事異動が数年ごとにある状況でどのような体制でアウトリーチを進めていくかが課題である。

---

⑦ 今回の事業を通じて、自身の「町」または「ホール」について改めて考えたこと

今回、地元アーティストやアウトリーチに関心がある方に向けた研修会を初めて行い、研修会後のアンケートでもとても好評であったことから、地元アーティストがアウトリーチに対して関心が高いことが分かった。今後アウトリーチを継続して実施するために、どのように地元アーティストを確保していくのか、どのような体制で進めていくか引き続き検討していきたい。

長崎市というのは少し特殊な文化事情を抱えている街でして、僕自身、長崎市に住む人間なので、少し細かい部分も含めてまずは状況をお話していきたいと思います。

長崎市は人口が38万人いる都市としては珍しく、指定管理制度を導入しながら、財団や事業団などが劇場の指定管理者として存在しておらず、文化事業を企画するのが長崎市であるという事情になっています。ですから、『劇場の自主事業』という、一般的には劇場の指定管理者（多くの場合、財団や事業団）が行政から予算を付けてもらい、企画し、実施するわけですが、長崎市の場合は、『文化振興課が自ら企画し実施する』という形になっておりまして、音楽アウトリーチについても、2002年から芸術アドバイザーから意見を伺いながら、ずっと続けているという状況になっていました。手前味噌ではありますが、文化行政に携わる行政職員としては、ただ助成金を出すだけの行政職員とは違って、メチャクチャ色々な仕事をしている職員さんたちだと思います。

ただ、同時にデメリットもありまして、定期的に行政の担当者は数年に一度の部署移動というもので別の課に移動したり、課の内部での配置転換などが頻繁に起こり、『専門家』という物が生まれにくい状況にありますので、仕事の引き継ぎはするものの、文化事業が専門的すぎて分からないまま担当者になるという状況が続いていました。その専門的な部分をカバーしていたのが、おそらく『芸術アドバイザー』だったのではないかと思います。数年ごとに代わる担当者へレクチャーを行ったり、文化事業の意義を伝えたり、アウトリーチのプログラム作成の際にアドバイスをしたりと、芸術アドバイザーの仕事は多岐に渡っていると思います。

そのような状況下なので、「このままの形で続けて良いのか？」という危機感を持って今回の応募に至ったのではないかと思います。長崎市側の懸念点として僕の目に映ったのは大きく分けて二つ。一つは、「現状からの改善点」と、もう一つは「コーディネーターの人材」という問題でした。

現状からの改善点については色々ありまして、これからこのまま長崎市の文化事業を企画・実施する状況が続かない可能性も考えられ、いずれは各種アウトリーチ事業を指定管理者（財団や事業団など）に任せる日が来るのかもしれない。そういった可能性を考えた時に、アウトリーチに関する事であったり、文化事業に関する事に対する今後の方向性を文化振興課内で議論が出来るぐらいに深める必要があるということ。他には、芸術アドバイザー以外の人間にアドバイスをもらいながら、学校アウトリーチのプログラムを作成する形への模索であったり、長崎市在住（または出身）のアーティストによる『実施アーティストの登録』がなかなか多くの人に広がらないという事であったり、改善点として考えられる物は色々あったのだと思います。

今回の研修では、事前に一般対象で体験会を行う事で、これまで以上にアウトリーチ事業を多くの方面に広げる事は出来たと思いますし、実際に応募にまで至らずとも、アーティストにとっても、市の職員にとっても『アウトリーチ』という物を深める時間を作ることは出来たと思います。アーティストの選定やプログラムの作成に関しても、これまでの芸術アドバイザーに依存した形から脱却し、多方面からの意見を取り入れる事で、より良いプログラム作成の時間を作ることが出来たと思います。

また、二つ目の「コーディネーターの人材」という部分にも関わる事かと思いますが、永遠に同じ芸術アドバイザーの方にお世話になることなど出来る事ではないので、世代交代と言いますか、その役割の一部を他の人に引き継いでいく必要があります。

「コーディネーター」（今回の文脈では『アウトリーチのコーディネーター』の意）の機能としては、打合せを含む学校対応とプログラム作成の二つ。これまでは、学校との打合せは市の担当者が行い、プログラム作成のアドバイスは芸術アドバイザーが行っていたそうなので、ここに対して改善を考えるのであれば、数年で代わる市の担当者に学校対応を求めるのではなく、プログラム作成へのアドバイスを

---

含めて「コーディネーター」へと移行して行くのが良いとは思いますが、しかし、現実的な話として、そういったコーディネーター業務が出来る方が長崎市にいるのかどうか？は難しい部分ですので、次の課題へと持ち越した形になりました。

まだまだ解消されない課題が残されてはいますが、プログラム作成の研修会に参加した若い二人のアーティストにとっては、産みの苦しみがあつたと思いますが、自分の音楽観と向き合うとても有意義な、良い時間になったと思います。その時間が、今後の二人の音楽人生の糧となることを願っています。

# 第4部 要綱集

---

# 令和7年度公共ホール音楽活性化事業（導入プログラム）実施要綱

---

## 1 趣旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化と地域の音楽分野における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホール職員等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、市町村等との共催により、公共ホールを拠点とした身近で親しみのあるクラシック音楽の公演事業及び地域交流プログラム等を実施する。

## 2 対象団体

次の団体を対象とする。

- (1) 市町村（特別区を含み、政令指定都市を除く。）
- (2) 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、市町村の設置する公の施設の管理を行う法人その他の団体
- (3) 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設置された、公益財団法人等（(2)を除く。）のうち、市町村が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの

## 3 実施団体の決定

地域創造は、上記2の団体から提出された事業申込書等をもとに審査し、実施団体を決定の上、当該実施団体に対して速やかに通知する。

実施団体の決定に当たっては、当該事業を実施したことがない団体を優先するが、過去に当該事業を実施した団体であっても、市町村合併の有無、公共ホールの管理者の変更、当該事業についての担当者の習熟度等の事情を考慮して、予算の範囲内で決定する。

## 4 事業内容

実施団体は、原則として3日間の連続した日程で地域創造が派遣する演奏家（登録アーティスト（別紙）及び伴奏共演者をいう。以下同じ。）※により、次の事業を実施する。

実施にあたっては、実施団体、地域創造及び登録アーティスト所属マネジメントによる3者契約を締結する。

※ソリストは2名以内（伴奏共演者が必要な場合は別に1名）。

アンサンブルの場合は1組。

### (1) 公演（コンサート）

公共ホール等で開催する有料のクラシック音楽公演を1回実施する。

なお、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

### (2) 地域交流プログラム（アクティビティ）

学校や福祉施設等でのミニコンサートやワークショップなど地域との交流を図る事業を原則として4回（1日につき2回）実施する。

## 5 経費負担

事業実施に伴う次の経費については、地域創造が負担する。

次の経費以外の現地移動費、舞台制作費、広報宣伝費その他の諸経費及び実施団体が上記4に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した経費については、実施団体の負担とする。

なお、実行委員会形式により事業を実施する場合においては、企画・運営について市町村等が相当の責任を負う場合に限り、当該市町村等の負担する額に相当する範囲内の経費を地域創造が負担する。

### (1) 演奏家派遣経費

出演料、現地移動費を除く旅費（地域創造の規定に基づく。）、楽器運搬費（現地運搬費を除く。）、出演者に係る損害保険料、マネジメント料

---

## (2) 地域交流プログラム負担金

実施団体が支出した地域交流プログラムに係る経費のうち、ピアノ調律料及びその他特に地域創造が認めたもの（限度額10万円）

## 6 事業実施に対する支援

### (1) 全体研修会の開催

地域創造は、事業実施前に実施団体を対象として、事業の実施に必要な実践的ノウハウ等についての研修及び登録アーティストによるプレゼンテーションを内容とする全体研修会を開催する。  
なお、参加に係る旅費等は実施団体の負担とする。

### (2) コーディネーターの派遣

地域創造は、実施団体に実践的ノウハウを習得する機会を提供するとともに、事業の円滑な運営を図るため、企画制作の経験が豊富なコーディネーターを派遣する。

コーディネーターの派遣は、個別研修（現地地下見）及び事業実施時の2回行う。

## 7 提出書類等

### (1) 事業申込書 …別記様式1-1、1-2

令和7年度に本事業の実施を希望する対象団体は、次の関係資料を添えて、令和6年9月5日（木）までに当該書類を提出すること（地域創造必着）。

なお、上記2（2）及び（3）に該当する団体が申込みをする場合には、施設設置者又は、出資者である地方公共団体の長の副申を受けること（別記様式1-3）。

#### ①全団体

・コンサート実施予定会場パンフレット

#### ②2（2）に該当する団体

・指定管理者として指定を受けていることを証する書類

#### ③2（3）に該当する団体

・令和6年度事業概要  
・令和5年度決算及び令和6年度予算資料

#### ④実行委員会形式により実施する場合

・実行委員会等への関与の状況 …別記様式1-4  
・規約  
・実行委員等名簿  
・組織体系図  
・事業計画  
・予算資料

### (2) 実施計画書及び事業収支予算の内訳 …別記様式2-1、2-2

事業実施2か月前までに企画内容を決定し、当該書類を提出すること。

### (3) 実績報告書及び事業収支実績の内訳 …別記様式3-1、3-2

事業終了後30日以内または令和8年4月15日（水）のいずれか早い日（必着）までに、別途指定する関係書類を添えて提出すること。

### (4) 地域交流プログラム負担金請求書 …別記様式3-3

該当する経費がある場合は、事業終了後30日以内または令和8年4月15日（水）のいずれか早い日（必着）までに、別途指定する関係書類を添えて提出すること。

### (5) 変更（承認申請・報告）書 …別記様式4-1、4-2

実施団体の決定通知を受けた後に事業内容に重大な変更が生じた場合は、ただちに当該書類を提出すること。

なお、変更の内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

---

## 8 その他

### (1) 共催・制作協力に関する表示

#### ①共催の表示

実施団体は、事業実施会場及び事業実施に際して作成される印刷物、ホームページその他の宣伝媒体（以下「印刷物等」という。）に、地域創造が共催している旨を表示すること。

【表示例】 共催：一般財団法人地域創造

共催：（一財）地域創造

#### ②制作協力の表示

実施団体は、印刷物等に一般社団法人日本クラシック音楽事業協会が制作協力している旨を表示すること。

【表示例】 制作協力：一般社団法人日本クラシック音楽事業協会

制作協力：（一社）日本クラシック音楽事業協会

### (2) 損害賠償の免責

事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。

### (3) 関係書類の提出

地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか、実施団体の決定等の審査に当たって必要な書類の提出を求めることができる。

### (4) 情報提供

地域創造が全国の地方公共団体に対して行う事業に関する情報提供等のため、資料提供を求めた場合や現地調査を行う場合は、実施団体は協力するものとする。

### (5) その他

事務手続き、スケジュールその他細目について必要がある場合は別途定める。

また、事業の実施に関し疑義が生じたときには、地域創造と実施団体が協議して決定する。

**別紙****【登録アーティスト】**

登録アーティストは令和6年7月中に決定し、地域創造ホームページにて公開予定

**参考【事業の流れ・手続き等】**

## ●令和6年度（事業実施前年度）

実施時期	内 容	提出書類
6月下旬～9月	申込み受付（9月5日（木）締切）	事業申込書 （別記様式1-1～1-4）
10月頃	事業内定通知	

## ●令和7年度（事業実施年度）

実施時期	内 容	提出書類
4月中旬 4月21日～23日	事業決定通知 全体研修会、公開プレゼンテーション	
5月	アーティスト出演交渉	
5月～6月	企画内容の調整及びアーティスト・ コーディネーターの決定	
適時	個別研修（現地下見）の実施 ※コーディネーター現地派遣	
実施1ヶ月前まで	企画内容の決定 3者契約締結	実施計画書等 （別記様式2-1、2-2）
事業終了後	実績報告、負担金の請求※	実績報告書等 （別記様式3-1～3-3、事業報告書）

※事業終了後30日以内または令和8年4月15日（水）のいずれか早い日（必着）までに、別途指定する関係書類を添えて提出すること。

# 令和7年度公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業 実施要綱

---

## 1 趣旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化と地域の音楽分野における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりへの寄与、他の市町村の公共ホールと連携した事業の実施により公共ホール間の連携について考え学ぶ機会の確保及び公共ホール職員等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、公共ホール音楽活性化事業又は公共ホール邦楽活性化事業を実施した市町村等と他の市町村等との連携による地域での研修会、クラシック音楽又は邦楽の公演事業及び地域交流プログラムを実施する。

## 2 対象団体

### (1) 幹事団体

令和6年度までに公共ホール音楽活性化事業又は公共ホール邦楽活性化事業を実施し、かつ、原則として10年以内に公共ホール音楽活性化事業、公共ホール邦楽活性化事業又は地域創造の他の共催事業を実施した市町村等

### (2) 参加団体

原則として幹事団体の近隣に存する市町村等（公共ホール音楽活性化事業及び公共ホール邦楽活性化事業の実施の有無は問わない。）

※この要綱において「市町村等」とは、次の団体をいう。

- ①市町村（特別区を含み、政令指定都市を除く。）
- ②地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、市町村の設置する公の施設の管理を行う法人その他の団体
- ③地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設置された、公益財団法人等（②を除く。）のうち、市町村が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの

## 3 実施団体の決定

地域創造は、上記2の団体から提出された実施申請書等をもとに審査し、予算の範囲内で幹事団体及び参加団体（以下「実施団体」という。）を決定の上、当該団体に対して速やかに通知する。

なお、本事業は、継続して3回まで実施することができるものとする。

## 4 事業内容

### (1) 全体研修会、意見交換会、企画会議等

幹事団体は、実施団体の職員、周辺地域の公共ホール職員、文化行政担当者、教育関係者、アーティスト等を対象とした、地域交流プログラム及び文化・芸術による地域づくりに関する全体研修会（1回以上）及び連携による事業実施のための企画会議等を開催する。

また、実施団体は必要に応じて実施団体同士の事業視察等を行う。

### (2) 公演（コンサート）及び地域交流プログラム（アクティビティ）の実施

実施団体は、別紙2の対象アーティスト（※）と共に次の事業を実施する。

※ソリストは2名以内（伴奏共演者が必要な場合は別に1名）。アンサンブルの場合は1組。各実施団体でアーティストが異なることも可。

#### ①公演（コンサート）

実施団体は公共ホール等における有料の演奏会を少なくとも1回実施する（幹事団体が参加団体と共同で公演を実施すること、又地域交流プログラムを実施する全ての対象アーティストが少なくとも1回出演する機会を設けること。ガラコンサートも可）。

なお、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

#### ②地域交流プログラム（アクティビティ）

実施団体が主体となり、学校や福祉施設等でのミニコンサートやワークショップなど地域との

---

交流を図る事業を原則として4回以上（1日につき2回の実施を基本とする。また、2名（組）以上のアーティストを招聘する場合においても、1名（組）あたり4回以上）実施する。

### (3) 実施報告会

幹事団体は、本事業の総括とその成果等を共有するとともに、今後の方針等を検討することを目的とした実施報告会を開催する。

## 5 経費負担

実施団体が支出した上記4の事業に係る経費については、次の（1）及び（2）のとおり地域創造が負担する。

ただし、別紙に定める負担金対象経費以外の経費及び実施団体が前項に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した超過分については、各団体の負担とする。

### (1) 幹事団体

幹事団体が支出した全体研修会、公演、地域交流プログラム等の事業実施に係る経費のうち、別紙1負担金対象経費（限度額150万円（税込））の2分の1以内

### (2) 参加団体

参加団体が支出した公演、地域交流プログラム等の事業実施に係る経費のうち、別紙1負担金対象経費（限度額100万円（税込））の2分の1以内

## 6 事業実施に対する支援

### (1) アドバイザーの派遣

地域創造は、必要に応じて、本事業の実施にあたり実施団体の担当者のコーディネート能力の向上、地域におけるアウトリーチ手法のノウハウ蓄積等を図るため、地域の芸術活動に詳しい専門家をアドバイザーとして派遣する。

### (2) 講師の派遣

地域創造は、必要に応じて、実践的なノウハウを提供できる企画制作の経験が豊富な講師等を全体研修会実施時に派遣する。

## 7 提出書類等

### (1) 実施申請書及び計画書 …別記様式1-1、2（幹事団体）、1-2（参加団体）

令和7年度に本事業の実施を希望する対象団体は、次の関係資料を添えて、令和6年9月5日（木）までに申請すること（地域創造必着）。

なお、上記2※②及び③に該当する団体が申請する場合には、施設設置者又は出資者である地方公共団体の長の副申書を添付する。…別記様式1-3

計画書（別記様式2）については、独自の様式の使用も可とするが、令和7年度とそれ以降の長期的な計画を具体的に記入すること。

#### 【添付資料】

#### ①共通資料

・会場パンフレット

・（参考）公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業アーティスト出演依頼票 …別記様式3

#### ②申請団体が2※②に該当する場合

・指定管理者として指定を受けていることを証する書類

#### ③申請団体が2※③に該当する場合

・令和6年度事業概要

・令和5年度決算及び令和6年度予算資料

### (2) 公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業アーティスト出演依頼票 …別記様式3

事業内定通知を受理した後に、出演希望アーティストの所属事務所あてに送付すること。

(3) 実施計画書及び事業収支予算の内訳 …別記様式4-1、4-2、4-3、4-4

出演アーティストの所属事務所と連絡調整を行い、日程等を決定の上、令和7年1月20日(月)までに当該書類を提出すること。その際、各負担金対象経費については積算根拠を明記もしくは見積書等の資料を添付すること。

(4) 実績報告書及び事業収支実績の内訳 …別記様式5-1～5-7

事業終了後30日以内又は令和8年4月15日(水)のいずれか早い日(必着)までに、次の関係書類を添えて当該書類を提出すること。

【添付資料】

共通資料

- ・チラシ、プログラム、写真等
- ・出演契約書の写し
- ・負担金対象経費に係る領収書等(支払いを証明できる書類)の写し

(5) 負担金請求書 …別記様式6

該当する経費がある場合は、事業終了後30日以内または令和8年4月15日(水)のいずれか早い日(必着)までに、別途指定する関係書類を添えて提出すること。

(6) 変更承認申請書又は変更報告書 …別記様式7-1、7-2

事業決定通知を受けた後に申請(計画)内容に重大な変更が生じた場合は、次の区分に応じて直ちに当該書類を提出すること。

①変更承認申請

次に掲げる変更については、変更承認申請書を提出し、地域創造の承認を得るものとする。なお、変更内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

- ア 公演実施日程の変更
- イ 公演実施会場の変更
- ウ その他、事業内容が大幅に変更される場合等、地域創造が特に承認を必要とする変更

②変更報告

次に掲げる軽微な変更については、変更報告書により地域創造に報告するものとする。なお、この場合、地域創造の承認は不要とする。

- ア 申請者の団体名称の変更
- イ 申請者の代表の変更、人事異動等によるその他関係者の変更
- ウ その他、事業内容の大幅な変更を伴わない場合の事業概要の変更

## 8 その他

(1) 共催・制作協力に関する表示

①共催の表示

実施団体は、対象事業実施会場及び事業実施に際して作成される印刷物、ホームページその他の宣伝媒体に、地域創造が助成している旨を表示すること。

(表示例) 共催：一般財団法人地域創造

共催：(一財) 地域創造

②制作協力の表示

実施団体は、事業実施会場及び事業実施に際して作成される印刷物、ホームページその他の宣伝媒体に、一般社団法人日本クラシック音楽事業協会が制作協力している旨を表示すること。

(表示例) 制作協力：一般社団法人日本クラシック音楽事業協会

制作協力：(一社) 日本クラシック音楽事業協会

(2) 損害賠償の免責

事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。

(3) 関係書類の提出

地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか、実施団体の決定等の審査に当たって必要な書類の提出を求めることができる。

(4) 情報提供

地域創造が、全国の地方公共団体に対して行う事業に関する情報提供等のために資料提供を求めた場合や現地調査を行う場合、実施団体は協力するものとする。

(5) その他

事務手続き、スケジュールその他細目について必要がある場合は別途定める。

また、その他事業の実施に関し疑義が生じたときには、地域創造と対象団体が協議して決定する。

**参考** 標準的な事業の流れ・手続き等

●令和6年度（事業実施前年度）

実施時期	内 容	提出書類
7月上旬～9月5日	申請受付（9月5日締切）	事業申請書等 （別記様式1-1、1-2、1-3、2、3）
10月（予定）	事業内定通知 アーティストの所属事務所に出演依頼	出演依頼票 （別記様式3）
1月	企画内容・アーティストの決定 （1月20日締切）	実施計画書等 （別記様式4-1、4-2、4-3、4-4）

●令和7年度（事業実施年度）

実施時期	内 容	提出書類
4月	事業決定通知	
4月～3月	事業の実施	
事業終了後（30日以内又は令和8年4月15日のいずれか早い日）	実績報告、負担金の請求	実績報告書等 （別記様式5-1、5-2、5-3、5-4、5-5、5-6、5-7）  負担金請求書 （別記様式6）

## 負担金対象経費

令和7年度公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業要綱 5（1）および（2）負担金対象経費については、以下のとおりとする。

- 1 実施団体が支出する事業に係る直接経費のうち、実績報告時に請求書、領収書、支出伺い、振替伝票等により、日付、支払者、内容（明細）、金額等が確認できるものを負担金対象事業経費とする。なお、各項目のその他に該当する場合は、申請書の内訳明細欄に詳細を記入すること。

### ①演奏家（対象アーティスト及び共演者）派遣に係る経費

出演料及びマネージメント料（負担金対象上限額は別紙2のとおりとする。）、交通費（現地交通費は「②その他の経費」に含む。）、宿泊費、日当、楽器運搬費（現地楽器運搬費は「②その他の経費」に含む。）、出演者に係る損害保険料。（交通費・宿泊費・日当は、それぞれ実施団体の旅費規程に準じた金額を上限とする。）

※ 演奏家は別紙2の対象アーティストから、ソリストの場合は2名以内（邦楽以外のジャンルの伴奏共演者は別に1名以内、邦楽の共演者は別に2名以内）、アンサンブルの場合は1組とし、その出演料および負担金対象上限額は別紙2のとおりとする。

### ②その他の経費

項 目	内 容
音楽・文芸費	楽譜・楽器借料、調律料、作曲・編曲等謝金、著作権使用料など
舞台・会場費	舞台人件費、照明・音響費、現地楽器運搬費、会場整理等人件費、会場借上料、会場設営費など
旅費・諸謝金	現地交通費、事業打合せ等旅費
広報・印刷費	広告宣伝費、チラシ・ポスター・プログラム・入場券等印刷費、チケット販売手数料など
記 録 費	録画費、録音費、写真費、記録ビデオ作成費、記録DVD作成費、記録活動に必要な消耗品の購入費、その他
保 険 料	催事保険料、楽器搬送保険料、その他
消 耗 品 費	事業に係る消耗品費
そ の 他	その他事業の企画・制作に要する経費（振込手数料、印紙代を含む）

## 2 次に掲げる経費は負担金対象外とする。

- ①事業実施期間（令和7年4月1日から令和8年3月31日）外に発生した経費
- ②実施団体以外の者が支出した経費
- ③実施団体及び申請者が請求者となっている経費  
（例：利用料金（地方自治法第244条の2第8項の規定によるもの）を収受する指定管理者が自ら当該施設を使用して事業を実施した場合に、自身に支払う形となる利用料金等）
- ④楽器・備品の購入費
- ⑤コンクール入賞賞金・賞品等にかかる経費
- ⑥レセプション・パーティに係る経費、打ち上げ費、その他飲食関係費（ケータリングを含む）

- 
- ⑦手土産代、記念品代、出演者等への花束代等物品による謝礼費用
- ⑧事務局経常費（事務所維持費、職員給与、燃料費等）
- ※専ら申請事業に従事する臨時職員の報酬等は企画制作費（直営）として計上して差し支えないが、実績報告時に任用書類や事業実施期間の業務分担表、日報など従事内容・期間が確認できる書類を添付すること。
  - ※燃料費は、事業専用に借り上げている車両など事業遂行に不可欠な場合のみ計上できるものとし、実績報告時に使用簿など（使用日時・使用者・走行距離などを確認できる書類）を添付すること。
- ⑨その他、対象経費として適当でないと地域創造が判断したもの。

## 令和7年度公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業 対象アーティストについて

令和7年度の対象アーティストは計113組からなり、負担金対象事業の実施に係る出演料の上限額および負担金対象上限額は、それぞれ次のとおりとする。

### 1 本事業へ令和5年度以降に登録されたアーティスト（登録が4年以内）

ソリスト14名  
アンサンブル2組  
計16組

ジャンル	アーティスト
ピアノ	今田篤、實川風、高橋ドレミ、水谷桃子
弦楽器	【ヴァイオリン】石上真由子、【ギター】閑喜弦介
声楽	【ソプラノ】上田純子、梅津碧、竹多倫子、【テノール】西村悟
邦楽	【箏・地歌三味線】藤重奈那子、【箏・三味線・唄】川田健太、【歌三線】棚原健太
その他	【パーカッション】新野将之、 【パーカッションアンサンブル】カメハ、 【サクソフォン四重奏】Modétro Saxophone Ensemble

### 【出演料および負担金対象上限額】

#### A 邦楽以外のジャンル

	出演料上限 (所得税・消費税・マネジメント料含む)	負担金対象出演料上限額 (所得税・消費税・マネジメント料含む)
ソロ	275,000円	275,000円
伴奏共演者	165,000円	165,000円
二重奏	495,000円	495,000円
四重奏	715,000円	715,000円

#### B 邦楽

		出演料上限額 (所得税・消費税・マネジメント料含む)	負担金対象出演料上限額 (所得税・消費税・マネジメント料含む)
ソロ		275,000円	275,000円
二重奏	登録 アーティスト	264,000円	264,000円
	共演者	231,000円	231,000円
三重奏	登録 アーティスト	231,000円	231,000円
	共演者	187,000円	187,000円

2 本事業へ令和2年度以前に登録されたアーティスト（登録が5年以上）

ソリスト84名  
アンサンブル13組  
計97組

ジャンル	アーティスト名
ピアノ	川井綾子、高橋多佳子、竹村浄子、白石光隆、田村緑、久保田葉子、佐々木京子、奈良希愛、今野尚美、新崎誠実、新居由佳梨、泊真美子、金子三勇士、岩崎洵奈、岡田奏、酒井有彩、中野翔太【ピアノ・指揮】中川賢一
弦楽器	【ヴァイオリン】高木和弘、大森潤子、磯絵里子、神谷未穂、野口千代光、小野明子、早稲田桜子、高橋和歌、甲斐摩耶、瀧村依里、北島佳奈、松本蘭、坂口昌優 【チェロ】長谷部一郎、唐津健、海野幹雄、奥田なな子、加藤文枝
管楽器	【フルート】岩間丈正、永井由比、荒川洋、吉岡次郎、森岡有裕子 【クラリネット】小谷口直子【ファゴット】藤田旬【サクソフォン】田中靖人、大石将紀、田村真寛、田中拓也【トランペット】辻本憲一、神代修、高見信行【ホルン】小川正毅、丸山勉、福川伸陽【トロンボーン】加藤直明【チューバ】喜名雅
声楽	【ソプラノ】沢崎恵美、大森智子、藺田真木子、小林厚子、渡邊史、乗松恵美、廣田美穂 【メゾソプラノ】河野めぐみ、菅家奈津子【テノール】中鉢聡、黒田晋也、村上敏明、羽山晃生、中井亮一、糸賀修平【バリトン】吉川健一、ヴィタリ・ユシマノフ
邦楽	【箏・地歌三味線】片岡リサ【箏デュオ】Dual KOTO×KOTO
その他	【マリンバ】浜まゆみ、大熊理津子、塚越慎子【打楽器・マリンバ】宮本妥子 【パーカッション&ボイス】野尻小矢佳【クラシック・ギター】益田正洋、松尾俊介 【ハープ】福島青衣子【ハーモニカ】小林史真、竹内直子【オカリナ】山本奈央 【ピアノデュオ】デュエットウ かなえ&ゆかり、ピアノデュオ ドゥオール 【ピアノ&チェロ】Duo Yamaguchi【クラリネット&ピアノ】デュオ・レゾネ 【フルート&ギター】泉真由×松田弦【ピアノトリオ】ピアノトリオ・ミュゼ 【サクソフォン四重奏】Quartet SPIRITUS、Quatuor B、アーバンサクソフォンカルテット 【木管五重奏】Quintet H【金管五重奏】Buzz Five 【ブラスバンド】BLACK BOTTOM BRASS BAND

【出演料および負担金対象上限額】	出演料 (所得税・消費税・マネジメント料含む)	負担金対象出演料上限額 (所得税・消費税・マネジメント料含む)
ソロ	※	330,000円
伴奏共演者		198,000円
二重奏		594,000円
三重奏		726,000円
四重奏		858,000円
五重奏		990,000円
六重奏		1,000,000円

※出演料は、各アーティスト所属マネジメントとの交渉による。  
一般社団法人日本クラシック音楽事業協会より出演料上限額一覧表の提供あり。

# 令和7年度公共ホール音楽活性化・地域人材育成事業 実施要綱

---

## 1 趣旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化と地域の音楽分野における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりへの寄与、地域にゆかりのあるクラシック音楽及び邦楽の演奏家（以下「アーティスト」という。）と共に行う事業の実施及び継続、公共ホール職員等の企画制作能力の向上及び創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、市町村等との共催により、公共ホール等を拠点としたアーティストによる双方向のミニコンサートやワークショップ等を行うアウトリーチの手法を活用した地域交流プログラムに関する研修会等を実施する。

## 2 対象団体等

次の団体であって、令和6年度までに公共ホール音楽活性化事業又は公共ホール邦楽活性化事業を実施し、かつ、原則として10年以内に公共ホール音楽活性化事業、公共ホール邦楽活性化事業又は地域創造の他の共催事業を実施した団体を対象とする。

- (1) 市町村（特別区を含み、政令指定都市を除く。）
- (2) 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づく指定管理者として指定を受け、市町村の設置する公の施設の管理を行う法人その他の団体
- (3) 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設立された公益財団法人等（(2)を除く）のうち、政令指定都市が資本金、基本金その他これらに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの。

## 3 実施団体の決定

地域創造は、上記2の団体から提出された実施申請書等をもとに審査し、予算の範囲内で実施団体を決定の上、当該団体に対して速やかに通知する。

なお、本事業は、継続して3回まで実施することができるものとする。

## 4 事業内容

実施団体は地域創造と共同して次の事業を実施する。

### (1) 研修会プログラムの策定

実施団体は、地域創造が派遣するアドバイザーと共同して研修会プログラムを策定する。

### (2) 研修会等の実施

実施団体は、以下に掲げる研修会の全部または一部を実施する。

- ・実施団体の職員、公共ホール職員、文化行政担当者、アーティスト等（以下「実施団体の職員等」という。）を対象とする地域交流プログラムに関する研修会
- ・実施団体の職員等を対象とする文化・芸術による地域づくりに関する研修会（アーティストのオーディションに関する研修会を含む。）
- ・アーティストを対象とするアウトリーチで行うプログラム開発に関する研修会

### (3) 報告会の実施

事業終了後、振り返りと次年度以降継続していくための方針等を検討することを目的とした報告会を実施する。

## 5 経費負担

実施団体が支出した上記4の事業に係る経費については、別紙に定める負担金対象経費（上限100万円）の1/2を地域創造が負担する。

ただし、別紙に定める負担金対象経費以外の経費及び実施団体が上記4に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した超過分については、実施団体の負担とする。

---

## 6 事業実施に対する支援

### (1) アドバイザー等の派遣

地域創造は、必要に応じて、研修会プログラムの策定及び研修会等の実施にあたり地域の芸術活動に詳しい専門家をアドバイザー等として派遣する。

### (2) 講師の派遣

地域創造は、必要に応じて、研修会等の実施にあたり地域の芸術活動に詳しい専門家、アウトリーチに積極的に取り組むアーティスト等を講師として派遣する。

## 7 提出書類等

### (1) 実施申請書 …別記様式1-1、1-2

令和7年度に本事業の実施を希望する対象団体は、実施予定会場のパンフレット等を添えて、令和6年9月19日（木）までに提出すること（地域創造必着）。

なお、上記2（2）及び（3）に該当する団体が申込みをする場合には、施設設置者又は、出資者である地方公共団体の長の副申書を添付する。 …別記様式1-3

#### 【添付資料】

#### ①共通資料

・会場パンフレット

#### ②申請団体が2※（2）に該当する場合

・指定管理者として指定を受けていることを証する書類

#### ③申請団体が2※（3）に該当する場合

・令和6年度事業概要

・令和5年度決算及び令和6年度予算資料

### (2) 実施計画書、事業収支予算の内訳 …別記様式2-1、2-2

事業の実施内容が決定次第、当該書類を提出すること。

### (3) 実績報告書、事業収支実績の内訳、負担金請求書 …別記様式3-1、3-2、3-3、4

事業終了後30日以内又は令和8年4月15日（水）のいずれか早い日（必着）までに、当該書類に別途指示する関係書類を添えて提出すること。

### (4) 変更（承認申請・報告）書 …別記様式5-1、5-2

実施団体の決定通知を受けた後に事業内容に重大な変更が生じた場合は、ただちに当該書類を提出すること。

なお、変更の内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

## 8 その他

### (1) 共催に関する表示

実施団体は、対象事業実施会場及び事業実施に際して作成される印刷物、ホームページその他宣伝媒体に、地域創造が共催している旨を表示すること。

（表示例） 共催：一般財団法人地域創造

共催：（一財）地域創造

### (2) 損害賠償の免責

事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。

### (3) 関係書類の提出

地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか実施団体の決定等の審査に当たって必要な書類の提出を求めることができる。

### (4) 情報提供

地域創造が、全国の地方公共団体に対して行う事業に関する情報提供等のため資料提供を求めた場合や現地調査を行う場合は、実施団体は協力するものとする。

(5) その他

事務手続きおよびスケジュール等その他細目について必要がある場合は別途定める。

また、その他事業の実施に関し、疑義が生じたときには地域創造と実施団体が協議して決定する。

**参考** 標準的な事業の流れ・手続き等

●令和6年度（事業実施前年度）

実施時期	内 容	提出書類
7月下旬～9月19日	申請受付（9月19日締切）	事業申請書等 （別記様式1-1、1-2）
10月（予定）	事業内定通知	

●令和7年度（事業実施年度）

実施時期	内 容	提出書類
4月	事業決定通知	
4月～3月	事業の実施	実施計画書等 （別記様式2-1、2-2）
事業終了後	実績報告、負担金の請求※	実績報告書等 （別記様式3-1～3-3）  負担金請求書 （別記様式4）

※事業終了後30日以内または令和8年4月15日（水）のいずれか早い日（必着）までに、別途指定する関係書類を添えて提出すること

## 負担金対象経費

令和7年度公共ホール音楽活性化・地域人材育成事業実施要綱5 経費負担の負担金対象経費については、以下のとおりとする。

- 1 実施団体が支出する事業に係る直接経費のうち、実績報告時に請求書、領収書、支出伺い、振替伝票等により、日付、支払者、内容（明細）、金額等が確認できるものを負担金対象事業経費とする。なお、各項目のその他に該当する場合は、申請書の内訳明細欄に詳細を記入すること。

項 目	内 容
音楽・文芸費	楽譜・楽器借料、調律料、作曲・編曲等謝金、著作権使用料など
舞台・会場費	舞台人件費、照明・音響費、現地楽器運搬費、会場整理等人件費、会場借上料、会場設営費など
旅費・諸謝金	現地交通費、事業打合せ等旅費
広報・印刷費	広告宣伝費、チラシ・ポスター等印刷費、資料印刷費など
記 録 費	録画費、録音費、写真費、記録ビデオ作成費、記録DVD作成費、記録活動に必要な消耗品の購入費、その他
保 険 料	催事保険料、楽器搬送保険料、その他
消 耗 品 費	事業に係る消耗品費
そ の 他	その他事業の企画・制作に要する経費（振込手数料、印紙代を含む）

- 2 次に掲げる経費は負担金対象外とする。

- ①事業実施期間（令和7年4月1日から令和8年3月31日）外に発生した経費
- ②実施団体以外の者が支出した経費
- ③実施団体及び申請者が請求者となっている経費  
（例：利用料金（地方自治法第244条の2第8項の規定によるもの）を収受する指定管理者が自ら当該施設を使用して事業を実施した場合に、自身に支払う形となる利用料金等）
- ④楽器・備品の購入費
- ⑤コンクール入賞賞金・賞品等にかかる経費
- ⑥レセプション・パーティに係る経費、打ち上げ費、その他飲食関係費（ケータリングを含む）
- ⑦手土産代、記念品代、出演者等への花束代等物品による謝礼費用
- ⑧事務局経常費（事務所維持費、職員給与、燃料費等）  
※専ら申請事業に従事する臨時職員の報酬等は企画制作費（直営）として計上して差し支えないが、実績報告時に任用書類や事業実施期間の業務分担表、日報など従事内容・期間が確認できる書類を添付すること。  
※燃料費は、事業専用に借り上げている車両など事業遂行に不可欠な場合のみ計上できるものとし、実績報告時に使用簿など（使用日時・使用者・走行距離などを確認できる書類）を添付すること。
- ⑨その他、対象経費として適当でない地域創造が判断したもの。





GREEN PRINTING JFPI  
P-B10307